厚生労働省　社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室　マンパワー企画係 御中

令和５年度
介護のしごと魅力発信等事業

株式会社マガジンハウス

令和５年４月２６日

事業報告書

目　次

目次 …… p.01
事業目的・内容 …… p.02
本事業における我々の考え方 …… p.03
本事業における重要テーマ …… p.04
プロジェクト名 …… p.05
プロジェクト全体像 …… p.06
企画委員会の設置 …… p.07
anan FESトークイベント「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」 …… p.08
展示会「ケアするしごと展」 …… p.10
展示会「ケアするしごと展」アンケート結果 …… p.11
展示会「ケアするしごと展」巡回展 …… p.18
anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」 …… p.19
POPEYE特集「福祉ってこういうことだったんだ。」 …… p.28
anan×POPEYE オリジナル冊子作成 …… p.36
ここここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」 …… p.38
ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」 …… p.55
ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」アンケート結果 …… p.76
交通広告「介護の仕事って、どんなイメージ？」 …… p.77
事業実施一覧 …… p.88
事業効果測定 …… p.89
総括 p.90

１．事業の目的

イベント、テレビ、WEB等を活かした取組を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること。

２．事業区分及び事業の主眼

事業区分：情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業）

多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を深めるとともに、その魅力を感じてもらえるよう、イベント、テレビ、WEB等を活かした全国的な波及効果の期待できる取組を通じて、広く国民に向けた情報発信を行う事業。

３．事業内容

① 企画委員会の設置

- 実施主体の事業内容に対して客観的な立場から技術的・専門的助言等を行う企画委員会を設置する。
- 企画委員は、事業目的に応じて、学識経験者、有識者、職能団体、事業者団体、教育関係団体等からなるものとする。
- 企画委員会による専門的知見を踏まえて、事業内容を決定する。

② 事業間連携会議への参画

- 事業間連携等事業の実施主体が開催する「事業間連携会議」及び「介護のしごと魅力発信サミット」に参画する。

③ イベント等の実施

- イベント等を実施し、介護のしごとの魅力を発信する。
- イベント等の実施にあたっては、多くの国民から新たに関心を得られるかという観点を踏まえ全国的な波及効果を期待できる事業内容を検討する。
- イベント等の実施に先立ち、情報発信事業の各実施主体及び事業間連携等事業の実施主体とも連携しながら、各種広告媒体を活用した周知を行う。
- 幅広く周知を行うためには、各実施主体のネットワークを相互に利用できるようにすることが効果的であるため、情報発信事業を実施する他の実施主体間、及び事業間連携等事業との間で相互に連携を図りながら事業を実施する。
- 本事業で行う取組または本事業により作成した成果物は、国民の誰もがアクセスできる形態とする。

④ 事業効果の分析等

- 事業実施に当たっては、貴課及び事業間連携等事業の実施主体と協議の上、アウトカムの測定指標や測定方法を設定し、これに沿って実施事業の自己評価を行うとともに、事業間連携等事業等で実施する事業全体の効果分析の取組に協力するなど、個々の事業及び全体の事業効果の最大化に向け取り組む。
- 自己評価にあたっては、事業実施における課題を整理するとともに、企画委員などの専門的・技術的助言も参考にし、課題解決に向けた分析・考察も加える。

⑤ 成果の報告

福祉・介護の現場、携わる人々の『リアル』を捉え、
そのやりがい、クリエイティビティ、楽しさを若年層に伝えます。

私たちは、本事業にあたり、20代～30代の若年層を対象にした広報活動を展開します。福祉・介護の実践者、現場と誠意を持ってつながりをつくりながら、そのリアルを伝えます。決して、表面的な美辞麗句で広報活動をすることはしません。

福祉・介護の現場には、さまざまな課題や悩みが存在し、高齢者の終末ケア、認知症ケア、障害者の生活・雇用支援等へのリアルな取り組みが行われています。その戸惑いや泥臭さも含めて現場のリアルを捉え、その上で、そこにある科学的、医学的、人間的アプローチのやりがい、クリエイティビティ、楽しさを伝えようと考えます。

一方、社会全般を見渡せば、新型コロナウィルスが地球規模で覆う社会には若者の「生きづらさ」もこれまで以上に顕在化しており、さまざまな事件や現象が起こっています。同時に、2025問題、2040問題が近づく中で、福祉・介護がすべての人の「自分ごと」になることが周知されるべき時代となっています。

「ケア」という概念は、個対個を超え、コミュニティ、社会全般の問題になっています。こうした俯瞰的視座を、今はまだ無関心、非関心の若年層に向けて、具体的に、わかりやすく、そして、クリエイティビティに溢れる姿として、発信していきます。

私たちマガジンハウスはメディア運営のスキル、クリエイターや著名人との関係を通じて、これまでも現在も、多くの読者と出会い、共感を軸につながり、一定の影響力を持つチームです。私たちが、福祉・介護の現場で優れた実践を行っている事業者や専門家と連携しながら、福祉・介護にこれまで出会っていなかった層も含めて、多くの方と発信を通して出会い、つながり、福祉・介護のしごとへの理解や従事への第一歩をつくる事業を展開したいと考えます。

コンテンツの質、そして、戦略的な広報展開を通して、単年度のみならず、今後に残る広報活動をデザインしてまいります。

Key themes.

若年層への認知と理解の促進

日本の高齢化社会で増大する介護のニーズに応える人材確保のために、
20～30代を中心とした若年層への認知拡大と理解促進。

ポジティブな要素を可視化

〈 地味・低賃金・ハード 〉のようにネガティブな印象からの態度変容を図るため、
〈 やりがい・クリエイティブ・良好性 〉といったポジティブ要素を可視化。

福祉・介護のリアルを伝える

福祉・介護の価値を発見し、発信していくにあたり、
決して美辞麗句やイメージ先行ではなく、
福祉・介護の現場のリアルを伝える。

持続可能な仕組みづくり

メディア運営の知見を生かし、即効的に注目を集めるイベントや
マスコミ発信と同時に、長期的にアーカイブできるWEBコンテンツを制作。
広く地域、保護者、教育者への働きかけを通して、持続的な取り組みとする。

PROJECT.

「ケア」を創造する場所と人
「福祉・介護のしごと」スタディ

Concept 1. 20～30代の福祉介護無関心層に対し、福祉・介護現場のリアルとニーズを捉えて発信する。
Concept 2. 福祉を学ぶ学生をはじめ、福祉・介護関心層に対しても、具体的進路の理解促進を図る。

anan FESトークイベント「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」

anan創刊50周年を記念し開始されたイベントにて、
著名人による介護の仕事に関するトークライブを実施。

ターゲット層 若年層　実施時期 令和5年11月12日　実施場所 渋谷ストリーム＆オンライン

anan×POPEYEオリジナル冊子作成

「anan とPOPEYE のタイアップ記事８記事」を１冊にまとめたオリジナル冊子を制作。anan FESや展示会参加者に加え、全国の書店で若年層にターゲティングしたサンプリングを実施。

ターゲット層 若年層　実施時期 令和5年11月

展示会「ケアするしごと展」

anan FESのサテライトイベントとして、
anan×POPEYE×ここに共催の展示会イベントを開催。
さらに11月14～30日には、巡回展を開催。

ターゲット層 若年無関心層　実施時期 令和5年11月11-12日 令和5年11月14-30日　実施場所 渋谷スクランブルスクエア 下北沢BONUS TRACK

ここここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界を訪ねて～」

ウェブマガジン「ここここ」にて、福祉・介護の現場やそれに関わる人、当事者の連載記事を発信。全15回。

ターゲット層 若年層　実施時期 令和5年10月～令和6年3月

anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」

ananにて、介護・福祉に関する特集８ページを掲載。
anan本誌で制作した記事内容をanan webに転載し、記事化。
SNSアカウントも活用し、情報拡散も実施。

ターゲット層 若年無関心層　実施時期 令和5年10月

ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」

日本仕事百貨のイベント「しごとバー」と「ここここ」のコラボイベント。リアルとオンラインのハイブリット開催で５ヶ月連続開催。

ターゲット層 若年層　実施時期 令和5年11月～令和6年2月

POPEYE特集「福祉ってこういうことだったんだ。」

POPEYE（雑誌）にて、介護・福祉に関する特集８ページを掲載。POPEYE本誌で制作した記事内容をPOPEYE webに転載し、記事化。SNSアカウントも活用し、情報拡散も実施。

ターゲット層 若年無関心層　実施時期 令和5年10月

交通広告「介護の仕事って、どんなイメージ？」

介護のしごとの興味喚起を促す動画を制作し、都営地下鉄線（浅草線、三田線、新宿線、大江戸線）とゆりかもめの社内動画広告を放映。

ターゲット層 若年無関心層　実施時期 令和6年3月

企画委員会の設置

企画委員会

実施主体の事業内容に対して客観的な立場から技術的・専門的助言等を行う企画委員会を設置。企画委員は、事業目的に応じて、学識経験者、有識者、職能団体、事業者団体、教育関係団体等からなるものとし、企画委員会による専門的知見を踏まえて、事業内容を決定した。

※記載は氏名アイウエオ順

秋本可愛さん

株式会社Blanket代表取締役
KAIGO LEADERS発起人

大﨑雅子さん

社会福祉法人全国社会福祉協議会
社会福祉法人経営者協議会

川村岳人さん

立教大学コミュニティ福祉学部
准教授

森下静香さん

Good!Jobセンター香芝
センター長

矢島進二さん

公益財団法人日本デザイン振興会
理事

2023年 8月10日	第１回	事業目的の説明・内容と方向性の共有
2023年 10月26日	第２回	事業の進捗確認・取組内容に関してのご意見
2024年 2月22日	第３回	事業実施報告と内容に関する評価 次年度計画について

若手企画委員会

専門家、有識者による企画委員会とは別に、【若手世代企画委員会】も組織し、意見等をお寄せいただくもの。20代～30代の介護事業従事者、福祉施設職員、ケアに関わる仕事に携わっている方にご協力いただいた。

森近恵梨子さん　KEY STATION　施設長代理／PRディレクター

佐藤悠佑さん　特定非営利活動法人Startline. Net 代表理事

吉田響さん　社会福祉法人福祉楽団

中谷もえさん　介護福祉士・認知症ケア専門士

井原純平さん　ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）・写真家

はたつんさん　介護福祉士・インフルエンサー

2023年 8月28日	第１回	事業目的の説明・内容と方向性の共有
2023年 10月24日	第２回	事業の進捗確認・次年度計画について
2024年 2月28日	第３回	事業進捗報告・次年度計画について

若い世代に圧倒的な影響力をもつ「anan FES 2023」で介護のしごとを配信

名称	｜	anan FES 2023
開催日時	｜	2023年11月12日(日)
開催場所	｜	渋谷ストリーム & オンライン配信
主催	｜	anan FES 2023実行委員会 株式会社マガジンハウス

anan FESスペシャルステージライブ配信

Talk Event. **“介護の現場でかなえる、私らしい働き方”**

「すべての女性の、いま好きなこと。」をテーマに様々なテーマを取り上げてきたananが、「すべての女性が、いま気になること」をananフェスで考えます。

自分自身のメンタルヘルス的にも、健康＆美容的にもケアすることはこれまでも女性にとって大きなテーマでしたが、ウェルビーイング、ダイバーシティ＆インクルージョンが社会に求められる中で、人をケアする、家族をケアするという視点も、そしてそれを仕事として考えるということも、これからの女性にとってのひとつのテーマでもあります。

これから高齢化が進む日本という国で、ケアや介護についての知識や関わり方を自分ごと化するためには？暮らしや生き方が良好にあるためのウェルビーイングという思考とは？そして、本気で考える、介護や福祉のしごととは？　これからの社会に大きなテーマになっていくるケアや福祉について、ananならではの新しい視点で考えてみます。

Talk Contents.

**「ケアの現場を訪ねると、そこには
クリエイティビティとやりがいがあった」**

anan本誌の8P特集とWEB記事をベースに、その取材に関わったゲストにご登場いただき、スペシャルライブ配信を実施。

Special Guest.

井上咲楽さん

森近恵梨子さん

anan FESトークイベント「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」

anan Talk Stage

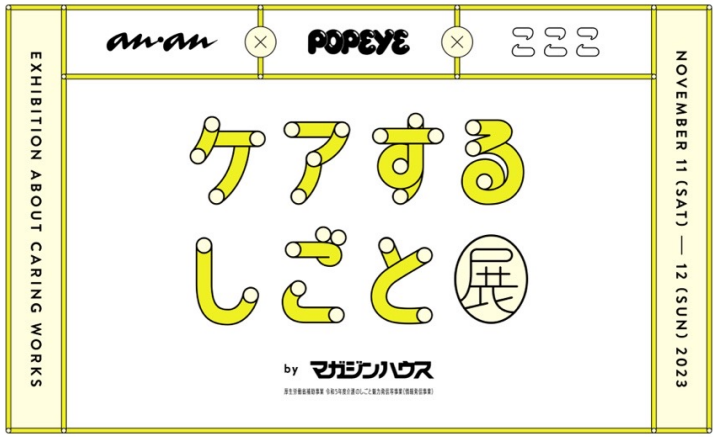
anan創刊50周年を記念し開始されたイベント（anan FES 2023）にて、著名人による介護の仕事に関するトークライブを実施した。スペシャルゲストとして、芸能人の井上咲楽さん・KEY STATIONの森近恵梨子さんをお招きし、“ケアの現場を訪ねると、そこにはクリエイティビティとやりがいがあった”をテーマにしたトークセッションをライブ配信した。アーカイブはYoutubeでも配信。

効果測定

視聴回数：22,733回　※2024年3月7日時点
好評価数：673件

オンライン及びアーカイブでの動画配信となるため、視聴回数と高評価数で測定。イベント属性上、無関心層への情報発信をし、介護のしごとの魅力を訴求した。

anan FESと連動した展示会『ケアするしごと展』を開催して関心を深めた



Program. 展示会 冊子配布 体験

ここここのウェブマガジン連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと」では、介護施設の取り組みや介護事業の現場をクリエイターや著名人とともに訪ねます。その現場取材の写真や取材内容をパネルで展示。併せて、介護に関する体験コンテンツを会場で実施しました。

＊来場者には、ananとPOPEYEが制作する冊子を配布

anan FESのサテライトイベントとして、11月11日～12日の2日間、anan×POPEYE×ここここ共催の展示会イベントを開催。介護・福祉のしごと無関心層に対して、anan、POPEYE、ここここのマガジンハウスメディアブランドの知名度やクリエイターネットワークを活かし、興味関心の喚起を狙った。

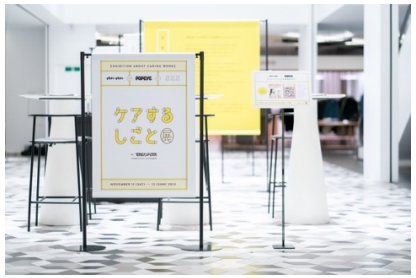
名称 ｜**介護の福祉のしごと展**
開催日時 ｜**2023年11月11(土)～12日(日)**
10:00～21:00
開催場所 ｜**渋谷スクランブルスクエア**
アクセス ｜**渋谷駅直結**
料金 ｜**入場料無料**
主催 ｜**株式会社マガジンハウス**

Contents

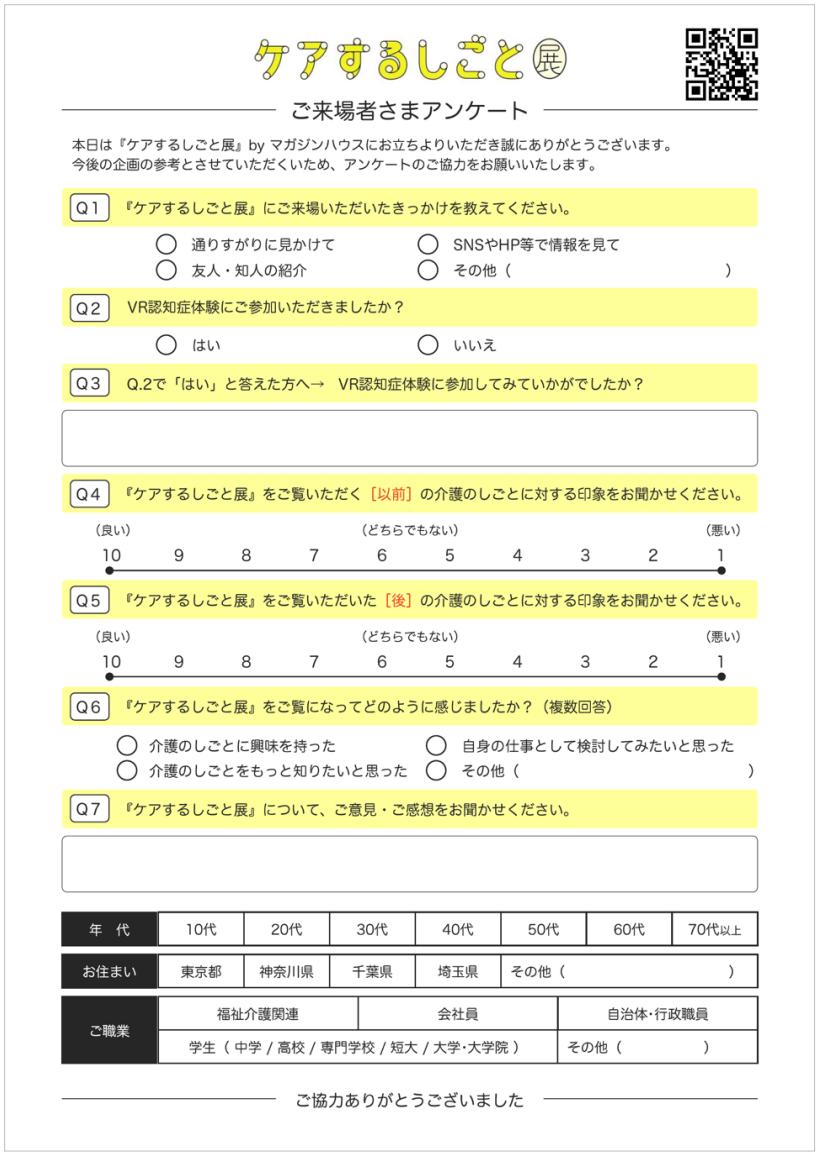
- **パネル展示**
- **オリジナルブック配布**
- **VR認知症体験コーナー**
- **ブックカフェ風コーナー**

効果測定

来場者数：1,602名



展示会「ケアするしごと展」アンケート結果



ケアするしごと展

ご来場者さまアンケート

本日は『ケアするしごと展』by マガジンハウスにお立ちよりいただき誠にありがとうございます。
今後の企画の参考とさせていただくいため、アンケートのご協力をお願いいたします。

Q1 『ケアするしごと展』にご来場いただいたきっかけを教えてください。

○ 通りすがりに見かけて　○ SNSやHP等で情報を見て
○ 友人・知人の紹介　○ その他（　　）

Q2 VR認知症体験にご参加いただきましたか？

○ はい　○ いいえ

Q3 Q.2で「はい」と答えた方へ→ VR認知症体験に参加してみていかがでしたか？

Q4 『ケアするしごと展』をご覧いただく［以前］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）　（どちらでもない）

Q5 『ケアするしごと展』をご覧いただいた［後］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）　（どちらでもない）

Q6 『ケアするしごと展』をご覧になってどのように感じましたか？（複数回答）

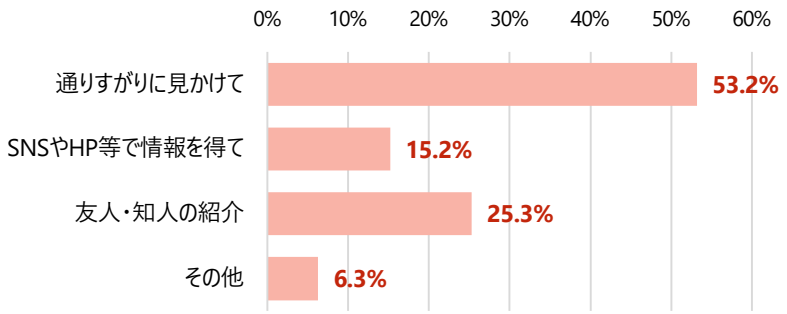
○ 介護のしごとに興味を持った　○ 自身の仕事として検討してみたいと思った
○ 介護のしごとをもっと知りたいと思った　○ その他（　　）

Q7 『ケアするしごと展』について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

年　代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
お住まい	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他（　　）		
ご職業	福祉介護関連	会社員	自治体・行政職員				
	学生（中学 / 高校 / 専門学校 / 短大 / 大学・大学院）	その他（　　）					

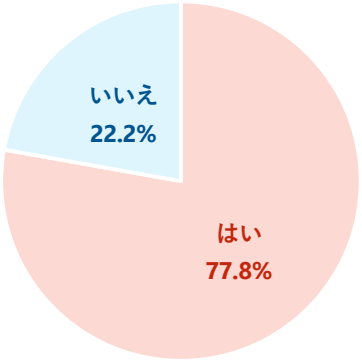
ご協力ありがとうございました

Q1 『ケアするしごと展』にご来場いただいたきっかけを教えてください（n=158）



その他：　ネットで見かけて / 職場が掲載されていたため / 掲載され見に来ました / ここをチェックしていて / ライターさんと知り合い / ハローワーク / 厚労省事業関係者 ボーナストラックの看板

Q2 VR認知症体験にご参加いただきましたか（n=158）



Q3 Q2で「はい」と答えた方へ VR認知症体験に参加してみていかがでしたか（n=117)

高所恐怖症なので怖いと感じた
実際に自分が介護される側として声をかけられるとなんだか戸惑いがありました。 どんなに周りが大丈夫と言葉で言っても見えるものが違うのでそれに納得するのにすごく時間がいるな、と思いました。
ふだんの何気ない会話・誘導でも介護される側にとって不安な気持ちにさせてしまうことがあると、改めて気づけました
言われるだけでは分からなかった新しい知識や視点、世界が広がった。よい体験だった。
自分自身のケアを省みようと思う体験でした。車の乗降を屋上に感じてしまうという感覚・・・考えたことがなかったです。 新たな視点を得ることができてよい体験になりました！
実際に体験してみてどんなことに恐怖を感じているのかを想像しきれていなかったなと痛感しました。その方がどうして足を踏み出せないのか、何で怖いと感じられているのか、 ケアの中でも想像を膨らませてご本人の気持ちを聞きながらしていくといいのかな・・・等色々考えさせられました。
認知症の症状を全然知らなかったと思い知らされました。ぜひ色々な人に体験して頂きたいです。
身近に認知症の人がいたので体験してみてよかったです。
認知症の方の気持ちに寄り添うきっかけになった気がする
知らない世界があり視野が広がった。親族に認知症がいるため気にかけたいと思った。
最初どういう状況なのかわからなかったけど、これも認知症の方が感じていることなのかも・・・と思いました。
当事者の気持ちを想像するきっかけになってよいと思います。
優しい声掛けをされていたけれど、意味が分からなくて怖かった。
空間把握能力の歪みについては知識がなかったので新鮮でした。
このこわさを想像してよりそってあげたいと思った。
一言で表すと怖い。バスの段差1つが、認知症の方には、こう感じるのかという感じ。
何が起こっているのか分からなかった
小さな段差をあんなに怖く感じるとは知らなかった。声のかけ方や相手がどうおもっているのか、なぜ動かないのかなど考える必要があると思った。
怖かったです。周りの人は優しいけど、「死んで！」って言ってるの？！と思った。
とてもリアルに体験できることが出来ました。
認知症について知らないことがまだまだあるんだなと感じた。

VRならではのテンションを感じられ、認知症体験を言葉で理解するよりも身体で体験することができ非常に良かった。
自分ごとに考えるきっかけになりました。話しかけ方を注意したいと思います。
一人称目線だと当事者の気持ちが非常に分かり、勉強になりました。
今までの耳で聞いてた認知症のイメージを一気に変えた
周りから見るのと体験するのは全然違った。
見方が全然違うと感じ、もっと寄り添うことが大事だよなって思いました。
飛び降りろって言われているのかと思いました。
祖父が認知症を患っていたので、こう感じていたのかなと気持ちが少し知れてうれしかったです。 また今後ケアなどで当事者の方に関わる際、声のかけ方など工夫したいです。
利用者の気持ちは、よりりかい出来るようになりました。
景色がよくこわくはなかった。けどたくさん話しかけられて多少パニックになった。
空間の認知を知らなかったので、認識できて良かった。
自分も理学療法士として過去に同じような声掛けをしていたなと。どう見えているか考えようと思う。
めちゃこわかったです。声はかけてくれるけど全然大丈夫じゃない！というのを体感できました。（少しですけど）
声かけは優しくして頂いても、自分の"こわい""という感覚から一歩足を踏み出すのはすごく勇気がいると感じました。
・空間の感覚がつかめず、恐怖心を覚えた。・体がついていかず、めまいがした。
たくさん話しかけられて誰をたよっていいのかわからずこわかった。
実際にVRを体験することでよりイメージが持てました。
病気で見え方が違うのかなと思った。
認知症への考え方が分かった。
初めての体験で驚き「非常に怖い」と感じました。ショックがあったので色々教えていただき落ち着きました。
認知症患者さんとの認識の差を少し理解することができました。
ただ体験するだけでなく、その後のコミュニケーションまでを体験だとおっしゃっているのが素敵でした。
認知症の方の不安恐怖感を感じることができた。
こわかったです。認知症で空間認識が低下するのを初めて知りました。声かけ重要ですね。

Q3 Q2で「はい」と答えた方へ VR認知症体験に参加してみていかがでしたか（n=117)

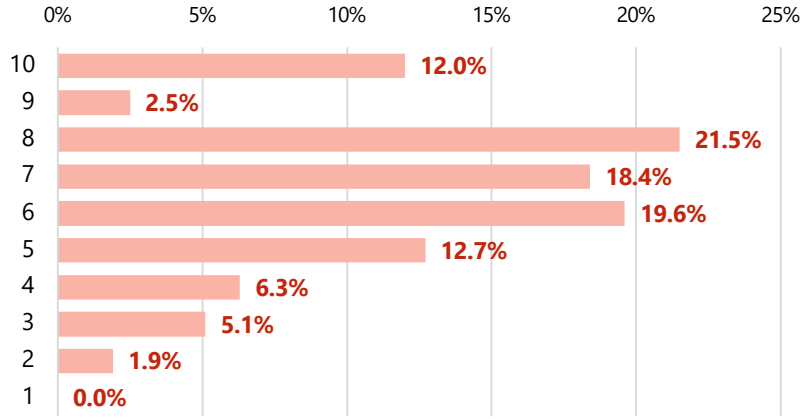
温かい声かけでも当事者にとっては怖いなと感じてしまうんだなと。 どんな声かけが必要なのか？考えさせられるきっかけになりました。
見え方の違いがあることを体感できた。世界観
相手の状況を理解すべきとは思っていても、できていないことに気付いた。
認知症の方々が見ているけしきが分かり、なぜ怖がっているのかを知ることができました。
認知症への理解度が増しました。
認知症の方の類似体験ができとても考えさせられた。
言葉として知っている現象も実際本人にはこんな風に見えているのかとおどろきました。
とてもリアルで怖かったです。空間失認のことがよくわかりました
介護してくれている人を怖いと思ってしまった。 と同時に認知症の人に完全に共感するのもやはり難しいのだなと思った。
恐怖を感じた。その感覚をいかに和らげるか、福祉職などその人とかかわる人の接し方がとても大切だと実感した。
初めて経験させていただけたので、より理解できた
当事者の気持ちを考えるきっかけになった
認知症の方が感じる恐怖を疑似的に体験できた
思っていたよりも見えている世界とギャップのある体験だった
怖かった。記憶障害以外の症状は認知度が低いと感じた。
体験している最中は、状況理解が難しく理解するのが大変でした。
体験を聞くよりも感じることができてよかったです。
他の方の立場を創造しつつケアをすることが大変であること、また難しいことをよく理解できた。 自分が介護される当事者だとして、世界の見え方はもちろん身体の機能にも変化があると考えると、世界に対して億劫になってしまう気がする
周りの声はにこやかなのに、自分の目で見えてる景色との差がひどすぎて、少し人間不信になりそうだなあ･･･て思いました。（これが何度もだと本当になりそう･･･）
認知症の症状が様々ある中で、このような体験を通して一部を理解できたことがとてもよかった。
認知症の方の視点を体験できて新鮮でした。
認知症はキオク障害のことだと思ってた。ものわすれ
違う視点を体験することができて面白かった

違う視点を体験することができて面白かった
普段接している利用者の方の世界を伺い知ることができてよかったです！！
こわかったです。「大丈夫だよ」と笑顔で声をかけてくれる人がサイコパスに思えました。
久々に体験できてまた認知症ケアの意義をもてたらと思いました。
自分がなってみないと分からない境地だとおもったので、実際に体験できた貴重でした。
自分とは正に認知が異なっている人に対して、気持ちの寄りそいが大事ということが垣間見えました。
想像したことも考えたこともない状態でした。
臨場感がスゴかったです。陣地賞の方が見えている風景を感じられました。
認知症の方が怖い、不安な気持ちがよく分かりました。「大丈夫」と声をかけてくれてもとても大丈夫とは思えない。声のかけ方を考えたいと思いました。
認知症にふれる良いキッカケになる
イメージする認知症のの症状と全く異なりました。（幻聴、幻覚妄想など）高低差であそこまでになるとは話し方考えさられました。
同じところにいても、場所でさえこんなに違いがあるのかと驚いた
怖かった。前から声をかけてほしいと思った。認知症に限らず体のコンディションを他人に伝える／他人が理解するのは難しいが大切だと思います。介護のお仕事は肉体的、精神的に重労働に見えるので、もっと給料が高くてもよいのでは？と思います。
想像していた体験とイメージがちがったが、おわった後の説明を聞いて対象者の方の感じ方を体験したことが分かった。勉強になりました。
認知症の父がいるので常に頭の中がどうなっているのか？知りたいと思っていたので良い体験になりました。
ほんの少し認知症の方の見え方がわかりました。
元々こわがりの方が認知症になったら、もっとこわいだろうなと。私をどうするの？と思ってしまうと思う。
認知症患者の視点を見ることができ、勉強になった
自体験のように認知症の症状が知れてよかった
見てる世界が違うと感じた
突然はじまった状況でわけがわからず怖いと感じた
認知の差を実感することができた。認知症の人と接する際に、こう考えているかもしれないという考えのバリエーションがふえた。
自分の不安や恐怖、一方、事務員さんの笑顔が辻褄が合わず混乱するだろうなと思った。声掛け、実演などやってみると安心につながると思った。

Q4

「ケアするしごと展」をご覧いただく【以前】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=158）

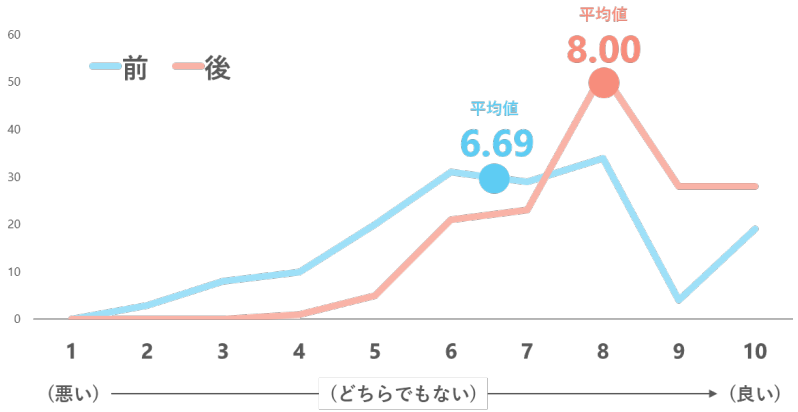
※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）



「ケアするしごと展」をご覧いただいく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象

ケアする仕事展で介護のしごとを見て、知っていただくことで、1.31Pのイメージ UPにつながった。

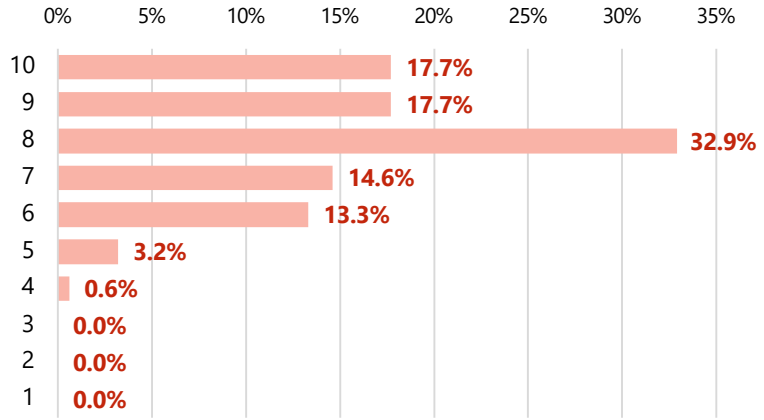
n=158



Q5

「ケアするしごと展」をご覧いただく【後】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=158）

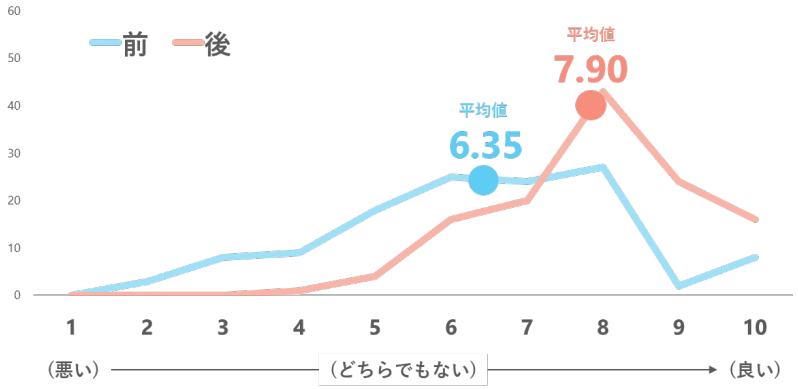
※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）



上記回答者から「介護福祉事業者」を除いた場合の印象の変化

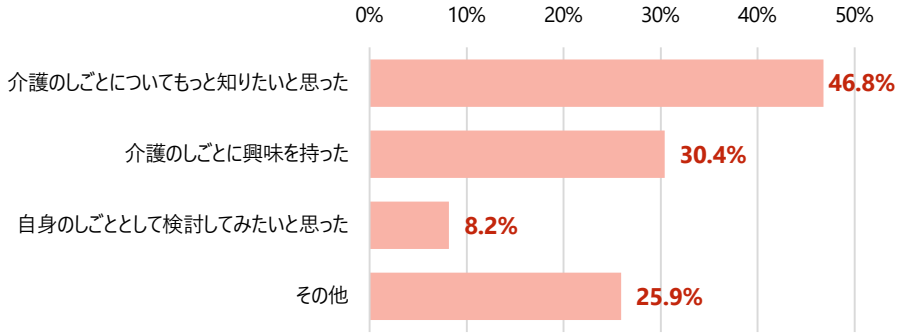
ケアする仕事展で介護のしごとを見て、知っていただくことで、1.55Pのイメージ UPにつながった。

n=124



展示会「ケアするしごと展」アンケート結果

Q6 「ケアするしごと展」をご覧になってどのように感じましたか（n=158）



その他：

視野が広がった
さらなる福祉の発展に尽力したい
介護のしごとは大変だと思った
自立、開放的ということがキーワードに感じた。
看護学生なので、この経験を生かしたいと思った。
親が介護士なので誇りに思う
改めてよい仕事だと感じたが一方で大変なことも多いだろうなと思った。
大変さが分かった
今後も医療福祉に関わっていこうと思った
認知種の方に接する際の対応を気を付けたいと感じた。
こういう展示や体験についてもっと知りたいと思いました。
デザインとの親和性を実感した
自分の分野（デザイン）でも何かしたいと思った。
色んな想いをもって介護の仕事に向き合っている方がいるんだと感じた
ケアされる側になる立場として意識を深めたいと思った
お給料がやはり低いと思った。
良いタッチポイントだなと思いました

Q7 「ケアするしごと展」について、ご意見・ご感想をお聞かせください（n=115）

若いスタッフの方が明るくいい感じ
様々な体験を文章として見ることができてよかった
テレビだとネガティブな報道が多いですが、それは一部でしかないんだよってことが見えてよかったです。
冊子いただけて嬉しいです。ありがとうございます。どうしたらこういった冊子やサイトにとりあげてもらえるのでしょうか？
なかなか分からないことだと思うので、もっといろんな人が体験すればいいと思った。
私は特養で働いています。他の法人の取り組みがとても興味深かったです。いい面でのスポットを浴びることが少ない仕事だと思っていたのでこのように有名雑誌で、渋谷でケアの発信があることがうれしいです。
福祉をもっと身近に感じることができる企画で、これからも現場からも社会に向けて何か発信したいと感じた。
素敵な記事と展示でとてもグッときました・・・！！他法人さんの取り組みも写真付きで見れることも中々ないので、ぜひまたたくさんの法人にスポットライトが当たると良いなと思います。
様々な取り組みをされている事業所さんを知ることができて、それぞれ素敵な思いを持って介護に向き合っていることを知ることができ、介護にかかわっている者としてとても刺激にもなる展示会でした！ありがとうございました。
私の身近には認知症の人がいないので、全く知りませんでした。将来まずは身近な人から責任をもって、助け合っていこうと感じるキッカケになりました。ありがとうございました。
もともと介護認知症ケアに興味があったので、VR体験ができてよかった。
認知症についての知識が自分にあまりないことを改めて感じた。身近に認知症の方がいるのでもっと知って理解してあげたいと思った。
介護の仕事がポップな色合いで紹介されていて入りやすいと思いました。
福祉の仕事をしていますが、日ごろからもっと社会に福祉の考え方が広まればいいなと思っているので、良い企画だと思います。
このようにVRで体験できるのがよかった。看護師をしているので仕事に活かせそうと思った。
ふらっと立ち寄れる明るい雰囲気が良かったです。
仕事と検討する勇気はないのですが、いつか身近な人がこのような状況になったとき行動できるようにしたいと思いました。
あまり若者になじみのないコンテンツを若者向けの雑誌に強いマガジンハウスが企画することについて面白いと思った。
介護って実はクリエイティブな仕事なんだって分かった。面白そうだと思った！
パネルだけではなくVR体験などがあることで興味を持った。介護のイメージが少し明るく変わった。（パネルを見て）
改めてよい仕事だと感じたが、一方で大変なことも多いだろうなと思った。
おしゃれな空間で発信する発想が素晴らしいことだと思います。頑張ってください。

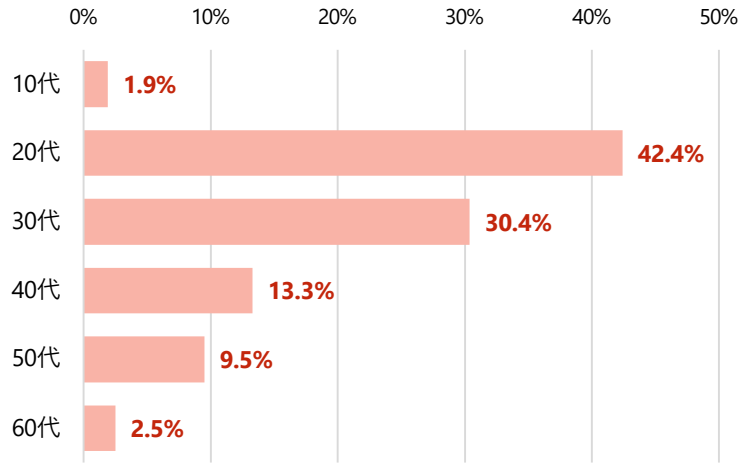
展示会「ケアするしごと展」アンケート結果

Q7 「ケアするしごと展」について、ご意見・ご感想をお聞かせください（n=115）

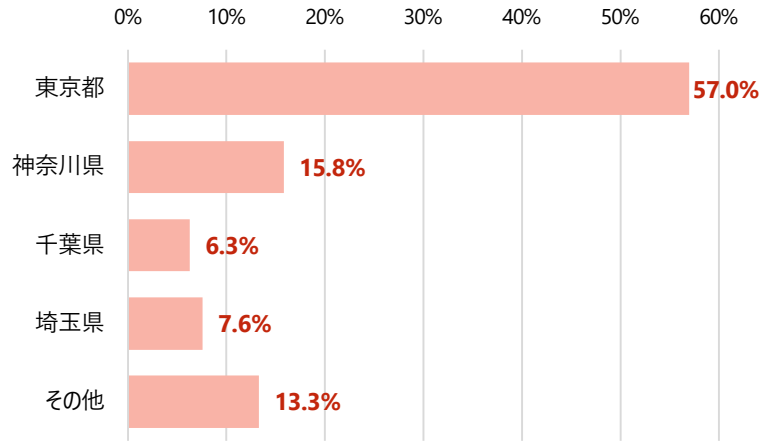
ここなりWEBでもっと調べたいと思った
仕事としてUXRに就いていますが、福祉・公共の領域でキャリアを伸ばしていきたいと思っていたので、知見を広げることが出来ました。
介護の分母を増やしていくステキなイベントだと思います！！
とても良いきっかけになった。私の祖母も認知症→他界したので、自分はどう見ていたか考えた。
介護の仕事でよい情報、取込みされていることが良いなと感じています。それを発信することの大事さも感じてます。
他施設の取り組みを見れ興味深かった。毎日少しでも楽しいと思える過ごし方が出来ればいいと思う。
介護士です。自分の会社だったらどんな事ができるか、見ていてワクワクしています。
できないことを補完することが介護の全てじゃなく、できることを伸ばす、する機会をうばわないように心がけます。素晴らしい仕事!!
VRとか体験型のものがあるのが楽しかったです。冊子をゆっくり読んでみようと思います。
日頃、研修事業で携わっている事業所の展示があった為足を運びました。不必要にキラキラみせるでもなく、ありのままの様子にとても好感を持ちました。多くの方に見て頂けたらいいなと思いました。
福祉の仕事がたくさんの人に知ってもらえることはとてもうれしく感じる。楽しくかっこいい仕事として若い世代にも知ってほしい。
介護される側の人が増えている中、お仕事にされている人がいるので世の中が成り立ってる。自分の未来もそう遠くないので尊い仕事だと思う。
介護に明るいイメージを持てました。ネガティブなイメージがなくなった。
これからの高齢化社会に向け、認知症についての認知が広まる良い機会だと思います。
「ここ」は知ってましたが、展示になるとまた印象が変わりました！福祉や介護もクリエイティブだといわれ、自分の中で腑に落ちました。
すてきなとりくみだが内容が入ってこない。映像とかあるとよかった。
介護業界の先駆的な事業所の例がみれて面白かったです。
こういうイベントは介護に興味のある方が来ると思うので、興味のない人を集客するのは難しそうと思った。
もっといろいろなコンテンツを見たくなりました！障害福祉関連のものも興味あります。
雑誌とコラボするのはおもしろい展示だと思った。介護・福祉のリアルはきびしいことの方が多いが、こうやって向き合っている方もいっぱいいらっしゃることに気づけた。もっと詳しいスタッフさんがわかればどう福祉に関わってらっしゃったりするのか伺えたらよかったのかもと思う。
相手のことを理解することでもっと良い社会になれるのではないかと感じました。
デザイン内容も捨て消えとおりすがりでしたがあたたかい気持ちになりました。
時間がなくてできなかったが、VR認知症体験は有意義で興味深い体験ができそうでやってみたかった。
体験を通じて相手の状況によっては、同じ「大丈夫ですよ」も安心感でも何でもないなあと感じた。 実際に現場で働く人には一度体験すべきものだと思いました。ありがとうございました。
若い世代が介護・福祉に興味を持ちきっかけとなりすごく良いと思います。
渋谷のど真ん中でこうした展示をやってくれて素晴らしい
"介護"は近寄りにくい印象があるが、それを感じさせない雰囲気があった。より福祉の本質を探っていきたいと感じた。
ぜひ色々な場で開始してほしいと思います。
シンプルなデザインで、展示物が見やすかったです。
働き方の一つとしてとらえることができた。行政がより力をいれて介護職の収入が増えれば将来の選択肢の一つとして考えるかもしれない。
認知症にもいろいろな種類？があるとなるとどう対策すればいいのか難しいというのがよく分かりました。
こういったイベントを通して介護職に興味を持つ方が増えるととても良いと思った。
認知症の患者さんがいるので、参考にしたいと思いました。
今後需要が増えていく介護の仕事を知らない人に分かりやすく伝えていく良いプロジェクトだと思いました。
ただ人を支援するのではなく、知恵を絞るクリエイティブさが求められるというメッセージが素敵でした。
若い方が足を止めているのが印象的でした。もの忘れだけが認知症ではないと初めて知った
たまたま通りがかったのですが、よい企画に参加でき良かったです。 展示も楽しそうな介護の現場の写真がたくさんで、介護に良いイメージを持てました。
色んなところでやってほしいです。介護・福祉のよりよい見え方の発信をしてGood
イメージしていた介護職、介護の仕事現場と異なっていて驚き。
大変そうなイメージがあったが、自分のスタンスを確立していればある程度自由に仕事が出来そうだと思った。
介護の仕事はどうしてもハードな印象→すごくポジティブで仕事に誇りを感じるし何より皆さん明るい表情が印象的
丁寧で（変な意味ではなく）ポップな見せ方でとてもよかったです。VRからの対話も。
若者の町で行うことに意味があると思いました。もっと広く巡回していただきたいです。
これから高齢者が増える社会において一般の方に向けてこのような機会を作った方が理解が深まると思いました。
色々なかかわり方ができると思う。対象者への思いがあふれる施設運営は応援、支援されるべき。
ネガティブに捉えられがちな仕事を「クリエイティブ」という言葉を使っているのが印象的だった
介護は漠然とお年寄りのお世話をする仕事のイメージでしたがお年寄りに生きがいやセカンドライフを提供する仕事というイメージに変わりました
VR体験が出来たりするのがおもしろかったです。自分自身が介護福祉士なので、こうやって介護の仕事を取り上げてもらって色んな方に興味を持ってもらえるきっかけになるのがうれしかったです。
すでに両親は介護の施設にも入居後他界。このような取り組みの施設があることは今後の希望を感じました。
直接ケアする仕事ではないが、認知症とかケアについてわかりやすく、項目に分かれているYouTube作ってほしいな。 ここがそうなのかな？

展示会「ケアするしごと展」アンケート結果

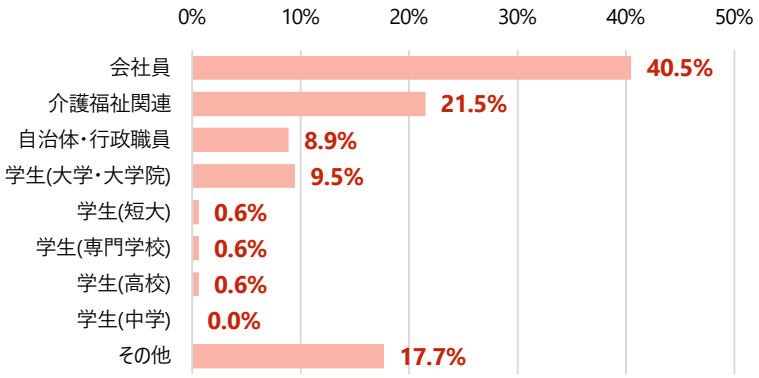
Q8 年代をお聞かせください（n=158）



Q9 お住まいの都道府県をお聞かせください（n=158）



Q10 ご職業をお聞かせください（n=158）



その他： 療育センター職員 / 看護師 / 保育者 / フリーランス / 研究員 / 経営者
カメラマン / 自営業

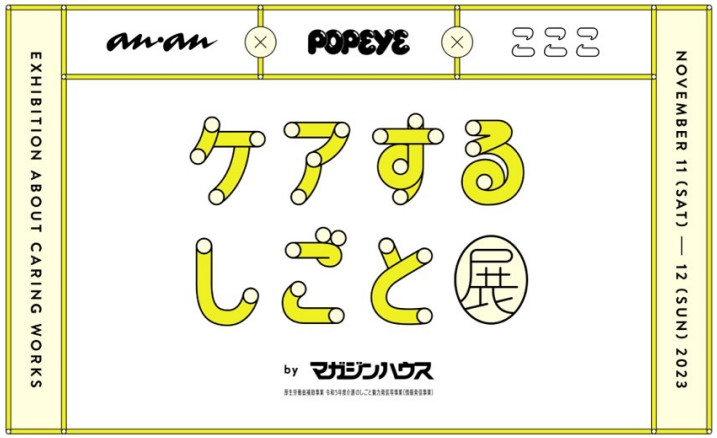
まとめ

ケアするしごと展では、会場である商業施設に来店している若年無関心層をターゲットに介護のしごとに触れる機会をつくり、情報・体験を訴求した。介護福祉従事者も来場されるため、アンケートでは介護福祉従事者であるかどうかの設問を設け、効果測定を介護福祉従事者を含む場合と含まない場合で測定できるよう工夫した。介護福祉従事者を含む158名（介護福祉従事者を除くと124名）からアンケートを回収し、結果は、介護福祉従事者を含む場合10P満点評価指標で【1.31PのUP】、介護福祉従事者を含まない場合で【1.55PのUP】を図ることができた。

ケアするしごと展を見た後の介護のしごとに対するイメージ評価は、介護福祉従事者と介護福祉従事者ではない人でほぼ同じ数値となった。若年無関心層であっても、介護のしごとを知り・体験することでイメージの向上を図ることができたため、このイメージアップを継続化する取り組みが今後の課題と捉える。

イメージ平均値(10段階評価)	見る前	見た後	アップP
介護福祉従事者含む(n=158)	6.69	8.00	1.31
介護福祉従事者除く(n=124)	6.35	7.90	1.55

展示会『ケアするしごと展』の巡回展を下北沢BONUS TRACKで開催



下北沢に誕生したまちの拠点「BONUS TRACK」の「ケアリングノベンバー（介護月間）」と連動し、屋外で開催しました。ふらっと散歩にきた人が立ち止まってみていくような、渋谷ともまた違った時間の流れる展示となりました。

名称 | **介護の福祉のしごと展**
開催日時 | **2023年11月14～30日**
開催場所 | **下北沢BONUS TRACK**
料金 | **入場料無料**
主催 | **株式会社マガジンハウス**

Contents

- **パネル展示**
- **オリジナルブック配布**

効果測定

来場者数：11,180名

雑誌＆WEBタイアップ記事展開「anan本誌8ページ特集」で情報発信！

ブランド認知度90%以上・平均発行部数14万7,000部を誇る、日本の女性誌のトップを牽引するananは、20代～30代の女性を中心に多くの読者に購読いただいています。「福祉」や「介護」というテーマには、まだ自分ごととして無関心（未関心）の読者が多いと想定されますが、「すべての女性の、いま好きなこと」＝（すべての女性が、いま気になること）として、ananが福祉・介護を取り上げることは、社会的にも大きなインパクトとなるはずです。本誌記事構成は、そうした読者に向けて「福祉」「介護」そして「しごととしての介護」の入り口を示すことを主眼とし、この記事をきっかけにさらに深く知りたいと思う読者と出会う特集とした。

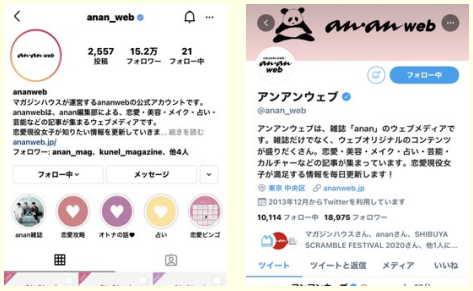
Theme

介護の現場でかなえる、私らしい働き方

anan本誌(週刊)2023年10月18日号で
特集8ページ記事を制作

anan本誌で制作した記事内容を
anan webでも転載して記事化

ananの各種SNSアカウントを活用し
本企画の告知を実施して情報拡散！



anan 記事構成

Title. **介護の現場でかなえる、私らしい働き方**

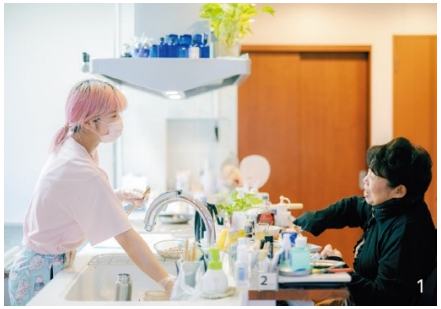
P1. **表紙：中面に登場する著名人のポートレート**

P2-5. **クリエイティブに奮闘中！**
最前線で感じる介護のしごと

今話題の福祉・介護の現場で働く人へのインタビュー。1施設（介護）×2ページ、2施設（介護）×各1ページ想定。実際に現場を訪れて、現場で働くスタッフの方の取材・撮影。

取材先

介護施設❶　：ゆずっこホームみなり（広島県尾道市）
介護施設❷　：でぃぐにてぃ（東京都新宿区）
介護施設❸　：正吉福祉会の杜の風・上原（東京都渋谷区）



P6-7. **井上咲楽 × 秋本可愛と理解を深める、介護のしごとの可能性。**

芸能人＋介護・福祉業界に詳しい識者による対談

芸能人　**井上咲楽さん**

SDGs関連やフェムケア関連の発言も多く、読者からも社会問題に敏感で意識が高いという印象を持たれています。

識者　**秋本可愛さん**

株式会社Blanket代表取締役
KAIGO LEADERS発起人

P8. **実際に働くってどうなの？介護職の現状と未来。**

P6-7でご登場いただく識者の方に取材、もしくは、日本最大級の介護に志を持つ若手のコミュニティ「KAIGO LEADERS」の発起人、秋本可愛さんに取材。福祉・介護の仕事が若い世代の間で今人気が高まっていること、安定した仕事であること、そしてこれから必要不可欠な職種であることなど、将来性についても教えてもらう。

Q&A　未経験でも働ける？ / 働き方は自由に選べる？ / どんな職場がある？
興味を持ったら何から始めたらいい？ / 働くために資格は必要？
お給料はどのくらい？ / キャリアアップはできる？

anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」

MY CARE WORK 01

クリエイティブに奮闘中！最前線で感じる介護のしごと。

大変そう、難しそう…と思われることが多い介護の仕事。しかし本当のところはどうなのか、気になる人も多いはず。そこで介護業界でいま注目されている、画期的な取り組みを行っている施設や事業所で働く人にフォーカス！実際に働いている姿を取材して、介護現場のリアルを深掘りします。

NAME
左から
松木綾香さん（22歳）
坂本みずきさん（22歳）
光吉由真さん（23歳）

専門学校の仲良し同級生が介護の現場で個性を発揮中。

PROFILE
3名とも尾道福祉専門学校卒業後、2019年に株式会社ゆず入社。介護福祉士。'22年から「ゆずっこホームみなり」勤務。**まつき・あやか**　高校時代に生徒会で活躍。当時の教頭先生の病気をきっかけに難病支援活動を行うことになり、介護と福祉に興味を持ち、専門学校へ進学。聞き上手で、良き相談相手として頼られる存在。**さかもと・みずき**　高校3年生で進路に悩んでいた時に担任の先生から「人のお世話をする仕事が向いている」と言われ、介護の世界へ。周りを一瞬で幸せにする笑い声がチャームポイント。**みつよし・ゆま**　高校生の時に祖父が介護施設に入居したことで介護を身近に感じてこの道へ。冗談を言って笑わせるのが得意。今年3月に結婚し、来年出産予定。

@広島県尾道市
ゆずっこホームみなり
●広島県尾道市美ノ郷町三成1114-1　☎0848-48-3877　小規模多機能型居宅介護　https://yuzzuco.com/?p=684

小さな気遣いや配慮が介護を楽しくさせる。

広島県尾道市にある「ゆずっこホームみなり」は、「尾道のおばあちゃんとわたくしホテル」という宿泊施設と隣り合わせになっている介護施設。ブルーベリーなど多彩な植物が植えられた庭に囲まれ、大きな窓から中の様子がのぞける建物は、介護施設とは思えないほど開放的な造り。スタイリッシュな雰囲気に包まれ、カフェだと思って間違って入ってくる人もいるそう！　そんなユニークな施設で働く介護職員の松木綾香さん、坂本みずきさん、光吉由真さんに、介護の楽しさや今の働き方について聞いた。

光吉　実は私たちは同じ専門学校を卒業した同級生なんです。

松木　私たちが入社した株式会社ゆずの川原奨二代表が、その専門学校で講師をしていて、今までにない新しい取り組みをしていることに魅力を感じて、学校に通いながら3人ともアルバイトを始めて、そのまま就職しました。

坂本　アルバイトを始めて最初に驚いたのが、利用者さんが普段自宅で使用している洗剤を施設でも使って、ひとり分ずつ洗濯をすることでした。全員分を一度に回すより手間はかかりますが、慣れ親しんできた香りに包まれた衣類を身に纏ったほうが利用者さんも安心する。そんな小さなことにもしっかり配慮しながら介護を行っていることに感銘を受けて、ここで働きたい！　と率直に思いました。

松木　入社1年目はみんな別々の事業所で働いていましたが、2022年に「ゆずっこホームみなり」がオープンすることになり、3人が集結(笑)。ホテルが隣接されることを知った時は正直驚きました。そんな施設、今まで聞いたことがなかったので…。

光吉　隣にホテルを建てたのは、「介護施設をもっと社会に開けた居心地の良い場所にしたい」という代表の想いから。そんな素敵な介護施設で働けて幸せです。

坂本　ホテルのチェックインは、施設を利用しているおばあちゃんが“担当”。施設側の建物の入り口にチェックインカウンターがあり、宿泊者はそこでおばあちゃんからルームキーを受け取るのですが、そこで初めて隣に介護施設があるから「尾道のおばあちゃんとわたくしホテル」という名前なんだと知る人もいて、思わぬおもてなしに喜んでくれる人も。庭は共用なので、触れ合う機会も多く、交流が生まれています。

感情が動く環境の中でフリースタイルのケアを。

「ゆずっこホームみなり」は、小規模多機能型居宅介護と呼ばれる施設。中重度の介護が必要になっても住み慣れた地域で継続して生活ができるよう、通い、宿泊、訪問のサービスをひとりひとりの都合に応じて組み合わせて利用することができる。

光吉　特にここは環境を重視していて、「感情が動くことこそが人生の幸せである」という考えのもと、気遣いにあふれた設計がちりばめられています。たとえばリビングのカウンターテーブルは、窓際に設置され、四季折々の自然を身近に感じられるようになっています。庭の植栽も手で触れられる高さを意識しているので、車椅子の利用者さんの目にもとまりやすい。触れることで心が動き、自然と体を動かしたくなるような工夫がされています。ひとりひとりが思い思いの時間を過ごせるようにサポートするのが私たちの役目だと思っています。

松木　“いつまでも、どこまでも、フリースタイル”という理念に従って、利用者さんがやりたいと思ったことを自由にできるようなケアを日々心がけています。外に出たいという人がいたら、一緒に庭を歩いたり、畑に水やりに行ったり。喫茶店でコーヒーが飲みたいという話になれば、ご家族の方と相談してみんなでおでかけのプランを考えます。

坂本　実はごはんやおやつの献立も一切決まっておらず、そこもフリースタイル(笑)。リビングにキッチンがあるので、利用者さんのリクエストに応じてごはんを作ることもよくあります。

光吉　ごはんのことでいえば私は料理が不得意だったのですが、利用者さんは長く家事に携わってきた先輩ばかりなので、出汁のとり方を教わったりして、ようやく人並みに料理が作れるようになりました。居心地が良くて、みなさん家族のような存在です。

介護職は、自分らしく働き続けられる職業。

介護職と聞くと、日々の業務に追われながら、肉体的にも精神的にも大変そうなイメージがあるが、3人の話を聞いているとシステマティックな部分が少なく、自分の持ち味を生かして楽しく働いているような印象を受ける。

坂本　たしかに車椅子へ乗り移る時、脚の力が弱い方の介助をしたり、特に自分より背が高い方や体の大きな方のサポートは身体的負担が大きいです。でも何年かやっているとどんどんコツを掴んでくるし、利用者さんとコミュニケーションを図ることでスムーズにサポートできるようにもなります。型にはまったことをするのではなく、やり方や伝え方を工夫しながらクリエイティブに働けるので、日々成長を感じています。

光吉　他の施設から脳梗塞の方が移ってこられた時、ここの環境がその方に合っていたのか、よく笑うようになったんです。そうやって利用者さんの気持ちの変化を間近で感じられるのが幸せですね。

松木　認知症の方など、思うように会話ができない利用者さんの笑顔を引き出せた時は、この仕事をやっていてよかったと思います。私は人の話を聞くのが好きなので、「あなたでよかった」「あなただから相談できた」と言ってもらえることも多く、励みになりますね。そうやって心を寄り添える関係を築けていけるのも介護の魅力。ひとりひとり異なる人間だから接し方も人それぞれ。必要最低限のルールはありますが、どうやったら心を開いてくれるか考えながら接することで、自分らしさを発揮できるので、やりがいを感じることばかりです。

坂本　シフト制なので、お休みの融通が利くし、私は夜勤が好きなのですが、ある程度希望通りシフトが組めて自分に向いた働き方ができるのがありがたいです。

光吉　私は今年3月に結婚して、今お腹の中に赤ちゃんがいて、出産後は時短で働く予定です。育児をしながら働いている先輩方もたくさんいるし、子供を施設に連れてくることもできる。ママも働きやすい環境が整っているから、ライフステージが変わっても自分らしく働けるので、介護の仕事は一生続けていきたいと思っています。

1.15時のおやつ時間は、利用者さんと一緒に生地をこねてドーナツ作り。生活リハビリの一環として料理を作ったり、洗濯物干しや食器洗いなど家事をお願いすることも。2.「外の空気を吸いたい」と言う利用者さんと庭をお散歩。畑で水やりをして、ブルーベリーを収穫して、自由な時間を共有。3.隣のホテル宿泊者にルームキーを渡す利用者さん。いつもチェックインの時間を心待ちにしているそう。4.大きな窓から陽光が降り注ぐリビング。施設内には手すりが一切なく、家具などの配置によって歩行が不安定な利用者が、伝い歩きができるように工夫されている。

隣接のホテルは3部屋だけの小さな宿泊施設

光があふれるモダンで先進的なデザインの「尾道のおばあちゃんとわたくしホテル」。予約すれば誰でも宿泊でき、尾道観光と併せて、介護の現場を身近に体験できる。1泊1名¥6,050～。https://watakushihotel.com

1.自立支援ケアのひとつである水分補給を行うために、スプーンを使って介助する大竹さん。2.体の動きの改善を支援するため、車椅子の利用者さんも定期的に歩行訓練を促す。毎日「ありがとう」をたくさん言ってもらえるのも仕事の醍醐味だとか！

Working File 3

NAME

大竹ひかりさん（36歳）

自立支援に特化した施設のリーダーとして活躍中。

PROFILE

おおたけ・ひかり　福祉専門学校を卒業し、介護福祉士の資格を取得。都内の特養老人ホームで約6年、同施設のデイサービスで約3年働いた後、2018年に社会福祉法人正吉福祉会が運営する「杜の風・上原」に転職。ユニットリーダーとしてまとめ役も担う。

東京都渋谷区
杜の風・上原

●東京都渋谷区上原2-2-17　☎03-6407-4233　特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス　https://www.shoukichi.org/morinokaze/

様々な選択肢がある介護職を一生の仕事にしたい。

「おむつゼロの文言に惹かれて現施設に転職。

東京都渋谷区にある「杜の風・上原」は、在宅での生活が困難な要介護状態の高齢者が入居できる特別養護老人ホーム。4フロアに80名ほどの入居者が生活しており、その1フロアで働く職員をまとめるリーダーとして活躍しているのが大竹ひかりさん。現在、200名ほどの入居待ちの方がいるほど人気の施設で、その理由が自立支援に重点を置いているからだそう。「自立支援とは、利用者さんの自立性を向上することを目的に、専門的な立場で支援すること。具体的には、栄養、水分、運動、排泄の4つの要素に焦点をあててケアしており、現在も入居者全員がおむつをしていません。これは本当に画期的なことで、私がこの施設に転職を決めたのもここの求人案内に『おむつゼロ』という文言を目にしたからでした。それまでずっと同じ職場で働いていて、おむつを交換する業務を当たり前のようにこなしていたので衝撃を受けました。ちょうどその頃やりがいを見失いかけていて、介護職以外の職を探すつもりでハローワークに行った時にその求人を見て、目標が明確にあるこの施設で純粋に働いてみたいと思い転職しました」

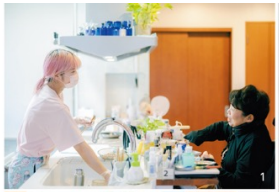
「杜の風・上原」の入居者は、それまでおむつを着用していた人も、入居初日にその必要性の有無の判断から始まる。そして本人や家族と相談して、普通のトイレで排泄できるように支援していく。

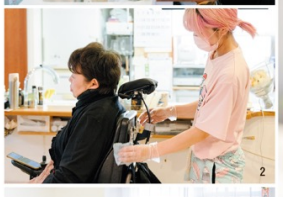
「おむつに排泄するのは、人間の尊厳にかかわる行為。おむつに頼らずとも日中に水分をしっかり補給し、栄養面や運動面のケアも行うことでトイレで排泄が可能。また自立支援の一環として、歩行訓練を定期的に行っています。利用者さんの自立性が増すと、自分でできることが増えて自分らしい生活ができるようになるだけでなく、私たちが介護をする時間も減り、その分コミュニケーションの機会が増え、お互いWin-Winの関係を築けます。人生経験が豊富な入居者の方から貴重な話を聞く機会が増えて毎日楽しいし、やりがいを感じながら日々働くことができています」

ライフステージに応じた多様な働き方を目指す。

現在、大竹さんはフロアリーダーとしてマネジメント業務も行っている。入居者のケアと同時にリーダーとしてスタッフたちが働きやすい環境を整えている。

「職員が笑顔になれるフロア環境について考えながら、密にコミュニケーションをとり、みんながストレスなく働けるように心がけています。一度はやめかけた介護職ですが、今は一生の仕事にしたい。介護に関わる仕事には、介護福祉士だけでなく、ケアマネジャーや生活相談員など、様々な仕事があります。また資格を取得すると専門性の幅が広がり、働ける場所も増えるのでキャリアの選択肢もグッと広がります。この先、結婚や出産、育児などライフステージが変わった時に、選択肢が多ければ多いほど年齢にかかわらず自分らしく働いていける。そういう意味でも介護職は天職ですね」





1.鹿角さんが新卒の時から訪れ、家事援助や移乗介助を行っている70代利用者さんのご自宅。鹿角さんのことを「かっちゃん」と呼ぶほど仲良し。2.利用者さんの車椅子の掃除を行うのも大事な仕事。3.事務所に戻り、スタッフたちと情報共有する時間も欠かせない。

ひとりひとりの日常に寄り添う介護がしたい。

Working File 2

若い世代が活躍する訪問介護の現場。

東京都新宿区に拠点を置く「でいぐにてい」は、19歳の時に不慮の事故で車椅子生活を余儀なくされた代表の吉田真一さんが設立した訪問介護の事業所。「世界いち気持ちいい介護」を目指し、20～30年後の介護業界を担う人材を育成するために若手の採用に注力。現在この会社で働いているヘルパーの平均年齢は約26歳で、若い世代が活躍している。そのひとりが、ピンクのヘアスタイルが印象的なヘルパー歴4年の鹿角実花さん。

「大学の時、ボランティアサークルに所属し、知的障害がある方と触れ合った経験をきっかけに、介護業界に興味を持ちました。今は、小学生から80歳まで幅広い年齢層の様々な障害がある方の介助や身の回りの支援を行っています。未経験でこの世界に飛び込んだので、車椅子への移動をサポートする移乗介助などは力が必要だし、お客様によって体調も体型も異なるので大変なことはたくさんありますが、でもご本人の意向を積んだり、先輩スタッフの意見を参考にしながら少しずつうまくできるようになりました」

何気ないことを共有し、笑い合える時間が幸せ。

特に訪問介護は、利用者の自宅を訪問して行うサービスのため、ひとりの方と1対1でじっくり向き合う時間が長い。その中で心がけていることは何か。

「お客様が送りたいと思っている生活ができるように、やれることをお手伝いするという気持ちで日々現場に向かっています。無理にテンションを上げるわけではありませんが、相手の性格に合わせて話し方や接し方を変えている部分はあります。その方の体調や機嫌がいつも同じとは限りませんが、私はできる限りスタンスを変えないように意識しています。それは、いつもと変わらない日常をお客様に提供したいと思っているから。訪問介護って、その方の日常に深く入り込むことなので難しい部分もあるけれど、それ以上に楽しいことも共有できる部分も多い。私は髪型をコロコロ変えるのが趣味なので、その髪型素敵ね、真似しようかしらと褒めてもらって、何気ないことで笑いが生まれたり、会うたびに距離感が縮まって自分の娘みたいに『おっしゃってくれる方もいて、そういうやり取りから元気がもらえています」

最後に「世界いち気持ちいい介護」とは何か、鹿角さん自身がどう思っているか聞いてみた。

「最近、社内ミーティングの時にスタッフ全員でそのことについて考えて、思い思いの言葉を紙に記して、事務所の壁に貼ったんです。私が入社した時は、『世界いちってすごいミッションだなぁ』と漠然と思っていましたが、様々な方と触れ合ってきて、お客様と私の中にふたりの世界ができていて、その中で気持ちいいと思える介護ができることが一番だと最近思えるようになってきました。それを目標に、いろんな方に必要な人材になれるようにもっと成長していきたいです」

NAME

鹿角実花さん（26歳）

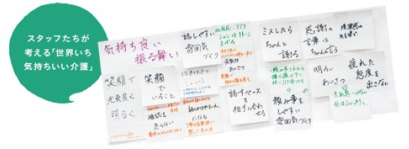
利用者の生活に丸ごと関わる訪問介護にやりがい！

PROFILE

かつの・みか　大学で社会福祉学を専攻し、社会福祉士の資格を取得。2020年に株式会社でいぐにてい入社。'22年に介護福祉士の資格を取得。訪問介護業務を行う傍ら、サービス提供責任者として、訪問介護計画書などの書類作成や管理業も担っている。

東京都新宿区
でいぐにてい

●東京都新宿区高田馬場1-29-7　スカイパレス504　☎03-6265-9048
訪問介護・在宅介護　http://digunity.co.jp/



MY CARE WORK 02

井上咲楽×秋本可愛と理解を深める

介護のしごとの可能性。

知らないことが多い介護の世界。
そこで読者を代表して
タレントの井上咲楽さんが
抱いた素朴な疑問に、
介護業界に詳しい
秋本可愛さんが答えてくれました。
井上さんは今回の対談のために
実際に介護施設も見学。
その率直な感想も聞きました。

入居者さんの生活やリハビリの様子を見学する井上さん。実際に入居者さんの身だしなみを整えるお手伝いにも挑戦。現場の方から「話を引き出すのが上手なので、介護職に向いている！」とのお墨付きも！

撮影協力・杜の風・上原

介護業界は将来性が高く、活躍できる場所も多い。

高齢者が増えていることから介護ニーズはより高まっているが、介護を身近に感じる機会は意外と少ない。介護業界の人材不足問題は、ニュースを見て知っていたという井上咲楽さん自身もこれまでに介護に直接触れる機会はなかったとか。そこで介護の世界を深く知るために、介護の現場を初訪問。今まで抱いていた疑問や今回感じた想いを、介護業界の人材不足の課題解決に取り組む秋本可愛さんにぶつけて、介護の仕事の可能性について、ふたりで考えてもらいました。

秋本　井上さんは、これまでに介護の仕事についてどのようなイメージを持たれていますか？

井上　大変そうという印象を持っていました。人手不足や離職率が高いというニュースもよく見るので、日々業務に追われて、精神的にもキツイ仕事なんだろうなぁと。私の周りに介護に携わっている方があまりいないので、漠然とした印象しか持ってませんでした…。

秋本　そのような印象をお持ちの方が多いと思います。実際、私も大学の時に介護の現場でアルバイトをしていたのですが、たった2年働いただけでその現場での勤務歴が2番目に長くなったくらい、介護職員の入れ替わりが激しくて、当時は定着率が悪かった。それでも最近は介護職員の数は年々増加していて、定着率も改善され、現在は約215万人の方が介護の現場で働いています。介護人材は着実に増えていますが、それ以上に介護が必要な高齢者が増え続けており、団塊の世代が後期高齢者となる2025年度には、約243万人の介護職員が必要になるともいわれています。

井上　そんなに…。でも良い方向に考えると、需要が高まっているからこそ活躍できる場所が多いということですよね。

秋本　そうなんです。実は介護施設や事業所の数は、コンビニ以上。でも井上さんと同じように日常生活の中で介護と関わる機会がなかったりするので、若い世代に関心を持ってもらいづらいのが現状です。そこで私は〝全ての人が希望を語れる社会〟をビジョンに、若者が介護に関心を持つきっかけを作ってもらうためのイベントを企画したり、若者が活躍できる環境づくりに注力しています。

井上　秋本さんが、介護に興味を持ったきっかけは何ですか？

秋本　大学で起業サークルに所属していたのですが、同じチームメンバーのおばあちゃんが認知症になってしまい、自分のいろんなことを忘れて悲しがっていたんです。そこで認知症予防のためのコミュニケーションツールとしてフリーペーパーを発行したのが始まりです。その後、認知症のことがもっと知りたくなり、デイサービスでアルバイトを始めました。介護の現場に携わってみて、思うように生活ができない高齢者の方を間近で見ました。年を重ねた先に、自分の人生を否定したくなるような経験をすることもあって、生きているって必ずしも幸せなことばかりではないんだなぁと感じました。

井上　実は私の祖母は85歳なんですが、最近一気に老け込んで、以前のような元気がなくなってしまったんです。まだ介護サービスを受けていませんが、会うたびにものすごいスピードで覇気がなくなっていくので、自分自身どう受け止めたらよいかわからず…。

秋本　身近な人のそういう状況を目の当たりにするのは辛いですよね。でも実は、介護サービスを使い始めたら元気を取り戻す方も多いんです。家族の中でどうすることもできないから介護を受けるというイメージを持っている方もいるかもしれませんが、専門的なケアをしっかり受けることで心身の健康を維持できるようになり、状況が好転することもよくあります。

井上　そうなんですね。たしかに今日、介護施設で入居者さんの生活の様子を見学させていただき、みなさん生き生きと楽しそうに過ごされていると感じました。

介護の現場に触れて感じた面白さとは？

秋本　実際に「杜の風・上原」(P.69)で、現場の雰囲気を感じていかがでしたか？

井上　まず明るく清潔感のある空間が広がっていて驚きました。働いている方も若い方が多く、入居者さんと仲良く話している姿が印象的で、私が持っていたイメージがだいぶ変わりました。表現が合っているかわかりませんが、スタッフさんも心が円い方ばかり(笑)。

秋本　それは入居者さんたちのおかげかもしれませんね。私もアルバイトしていた頃、利用者さんたちが私の知らないことを教えてくれたり、悩み事に対してアドバイスをくれたり、こんな若輩者の自分を全部受け入れてくれたんです。そういう意味では、ケアする立場ではあるけれど、同時にケアされる立場でもあるのが介護の面白さだと感じました。

井上　わかります。私も入居者さんと触れ合った時、最初は緊張して小さな声になってしまい反応がなかったんです。でも耳の遠い方だと知ってもう少し大きな声で話しかけたらすぐに応えてくれた。介護って一方的なものではなく、双方向的に理解を深めていくことで、良い関係が築けるものだと思いました。でも、なかには気難しい方など、うまくコミュニケーションがとれない方と関わることもありますよね。介護職員が、利用者さんから暴言や暴力を受けることもあるとニュースで見ました。

秋本　はい。認知症が進行すると暴言を吐いたり、物を投げたりする症状が見られることがあります。しかしそういう行動の裏には本人なりの理由があるので、短期的な改善はなかなか難しいかもしれませんが、その方をじっくり観察してその理由を見つけていくのが大切です。認知症によってその人の良さが見えづらくなっているので、それを関わりによってもう一度引き出していくことで信頼に繋がったりします。でもやはり人が相手なので、うまくいかないこともあります。精神的に追い込まれてしまい、介護職員が利用者さんに暴言を吐いたり虐待してしまうケースもあります。だから介護する側の誰もが被害者にも加害者にもなり得るということを認識した上で、チームで日々向き合っていく必要があると思っています。

井上　すごく難しい問題ですね。それに介護に携わっていればどうしても死と向き合わなければならない時がきますよね。

秋本　それも避けられませんね。お看取りは精神的な負担が大きく、どうしても悲しい気持ちになりますが、その一方で不謹慎かもしれませんがやりがいでもあるんです。その人の最期に寄り添い、人生を幸せに締めくくれるかどうかも、介護職員にかかっていたりする。良いお看取りができれば、そのご家族を元気にすることもできるし、その後のその人たちの人生にも影響すると思っています。

井上　たしかに。いいカタチでお看取りができるようにサポートするのも介護していく上で重要なお仕事なのですね。

人の人生に深く関わることで彩りが生まれる。

秋本　大変な部分はもちろんたくさんあるけれど、介護の面白い部分をもっと多くの方に伝えたいと私は心から思っています。

井上　私も少しの時間ですが、入居者さんと触れ合ってすごく楽しかったです。ある方の部屋にお邪魔した時に、ショパンの楽譜が置いてあったんです。その方がショパン好きでピアノで弾きたいと知って、スタッフの方が楽譜を持ってきてくれたそうなんですが、その人の生活に彩りを添えていくお手伝いができるのも介護の仕事の醍醐味だと思いました。私もその曲が聴きたくなりました(笑)。

秋本　それはありますね。自分と全く年代が異なる方の人生や生活に深く関わることができるって、すごく貴重な体験だし、教わることもたくさんあるので、介護する側の人生にも彩りが生まれます。

井上　人との関わりの上に成り立っている仕事だから、介護には正解がないのかもしれませんね。

秋本　そうなんです。生活はもちろん性格や状態もみなさん異なるので、その人に合ったやり方を見つけていくしかない。それを考えるのも面白い部分ではあるし、それがうまくいって喜んでもらえた時は跳びはねたくなるぐらい嬉しい気持ちになります。自分が関わったことに対して変化や反応がダイレクトで見られるからやりがいを感じることが多いんです。

井上　それが介護の仕事の魅力のひとつなのかもしれませんね。

Kaai Akimoto

1990年生まれ、山口県出身。株式会社Blanket代表取締役。大学在学中の介護現場でのアルバイトをきっかけに課題意識を抱き、会社設立。介護に志を持つ若者の日本最大級のコミュニティ「KAIGO LEADERS」発起人。

Sakura Inoue

1999年10月2日生まれ、栃木県出身。高校1年で芸能界デビュー。バラエティ番組のほか、時事問題にも関心が高く、選挙コメンテーターとしても活躍している。2024年のNHK大河ドラマ『光る君へ』に出演予定。

お互いの人生に彩りを
与えられるのが介護。（井上）

関わり方は人それぞれ。
だから介護は面白い。（秋本）

井上さん・ワンピース ¥31,900（トロワズィエムチャコ☎03-6274-8533）　イヤリング ¥3,080（ハクフルール☎03-6416-1995）

MY CARE WORK 03

実際に働くってどうなの？

介護職の現状と未来。

介護の世界を垣間見たところで、このページでは、将来の選択肢として、もう少しリアルに考えてみよう。もし自分が介護の現場で働くことになったら？知っておきたい素朴なギモンに秋本さんが回答。

お話を伺った方
秋本可愛さん
株式会社Blanket代表取締役。介護の力でより良い社会を目指すコミュニティ「KAIGO LEADERS」を立ち上げ、組織や地域を超えて、介護現場が繋がれる場作りを行う。

人に興味のある人向け。現在は売り手市場です！

介護職は、将来性のある職業選択のひとつで、社会貢献度も非常に高い職業。しかし世間では、介護職の離職率の高さが取り沙汰され、「興味はあるが、本当に働き続けられるか不安」と思っている人も少なくないはず。そんな声に、介護事業者の採用活動や人材育成の支援を行う「Blanket」代表の秋本可愛さんは、「介護職の離職率は、世間で言われているほどそこまで高くない」と話す。

「公益財団法人介護労働安定センターが発表している『令和4年度介護労働実態調査』によると、介護職員の離職率は、14・4％。厚生労働省が実施した『令和4年の雇用動向調査』による全産業平均の離職率は15・0％ですから、むしろ介護職員のほうが低いらいです。たしかに15年くらい前までは離職率が20％を超えていましたが、介護職員処遇改善加算など、処遇改善の動きが進んだり、テクノロジーの導入などの働きやすい職場作りが進んだため、介護職の離職率が年々低下しています」

ちなみに現在の介護職全体の男女比はおおよそ3：7。女性が活躍しやすい業界とも言えるよう。

「なかでも人への興味・関心が高い人が向いていると思います。介護は、利用者さんひとりひとりが気持ちよく快適に生活を送るためにどうすればよいか、職員がじっくり観察して、創意工夫することで、安心や楽しみを提供する――。そういう意味では、クリエイティビティを発揮しやすく、面白さやりがいを感じられる仕事です。しかし、施設や事業所によって考え方も異なるので、実際に働きたい！　と思ったらまずはその希望の就職先を自分の目で見てほしいです。実際に足を運ぶことで、働きやすい環境が整っているか、利用者さんの表情はどうかといった、募集要項などからは見えてこない一面を垣間見ることができる。選ばれるだけでなく自分も選ぶという姿勢で施設や事業所を見てみる意識を持ちましょう」

今以上に需要が伸びていくことが確実視されている介護業界。自分の中で可能性が感じられたら、今後のキャリアの選択肢のひとつに検討してみるのもよいのでは？

介護のしごと、素朴なギモン

Q.1 未経験でも働ける？

成長産業のため未経験でも新規の求職者は歓迎される傾向にあります。実際に、異業種から介護職に転職する方の多くが未経験からスタート。10代～80代の幅広い年代の方が活躍しており、年齢を問わず第一線で長く働ける業界なので、セカンドキャリアに選択する人も増えています。介護の現場で働いている年代層は、40代が最も多く、20～30代の介護職員が少ないため、将来を見越して若い方はより歓迎されるでしょう。

Q.2 働くためには資格は必要？

無資格で働けます。ただし訪問介護に従事するには、研修の修了などが必要です。研修や資格には、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護福祉士などがあり、介護職員初任者研修は、基本的な知識やスキルが学べる公的な研修で、実務なしでスクールに通い、最短約1か月で修了できます。働きながら国家資格である介護福祉士を受験するためには、介護福祉士実務者研修の修了資格と3年以上の実務経験がマスト。

Q.3 働き方は自由に選べる？

介護業界は、時間や曜日の希望が出せるシフト勤務の事業所が多いため、働き方は比較的自由に選べます。フルタイムで働いている方もいますが、時短勤務や週数日のみ働いている方も。だから結婚、出産、育児といったライフステージの変化に合わせて、働き方を変えやすく、長く働き続けられる職種といえるでしょう。またシフト制のため副業や、他の職種と兼務することもでき、自分のペースで柔軟に働けるのも魅力です。

Q.4 お給料はどのくらい？

国の統計では、介護職の平均年収は約360万円。働き方や施設・事業所によってお給料は大きく変わってきますが、より働きやすく整備された職場作りを目的に、国が処遇の改善に努めているため、介護職の給料は年々増加傾向にあります。また介護職は、無資格で働けますが、たくさんの種類の資格があり、取得することで給料が上がります。夜間に働くと手当がつくため夜勤シフトをたくさん入れることで多く稼ぐことも。

Q.5 どんな職場がありますか？

特別養護老人ホームなどの施設で提供される「施設介護」と、自宅で暮らす介護を必要とする人の生活を全面的にサポートする「在宅介護」に大きく分かれます。その中にも様々な形態あるので、自分の能力や性格に合った環境を選んで働くことが大切です。女性が長く働ける職場作りを目指し、保育園を併設する事業所も増えています。介護職の方の労働環境がより良くなるよう、多くの方に理解を広めていきたいです。

Q.6 キャリアアップはできる？

介護職はキャリアアップしやすい職種といわれています。資格取得の支援をしてくれる事業所もあります。また、利用者さんのケアプランを作成するケアマネジャーの資格取得に挑戦したり、利用者や家族を対象に相談などを担う生活相談員になったり、長く働き続けることで管理職などの上位職に就くこともできます。資格を取得することでたくさんの現場で求められる人材になれるので、働き方の選択肢がぐっと広がります。

Q.7 興味を持ったらまずは何から始めたらいい？

介護業界を深く知ってもらうためのイベントを行政や民間が頻繁に開催しているため、ぜひ参加して介護の世界に触れてみるのがおすすめです。また最近は、職場体験やボランティア、短期のアルバイトなど、気軽に介護の仕事を体験できるサイトやマッチングサービスが増えています。現場のリアルな現状を知れたり、介護の仕事が自分に向いているか確認することもできるので、就職する前にこれらをうまく活用するのも手です。

■ スケッター　Sketter
お手伝いを求めている介護施設と、サポートしたい人を繋ぐマッチングサービス。専門的な知識や経験が一切なくても、介護施設で食事の配膳や洗い物、掃除、レクリエーションの企画など、有償でお手伝いすることができる。https://www.sketter.jp/

■ musbun　musbun
福祉分野で職業体験をしたい学生らと介護事業者を繋ぐマッチングサイト。ボランティアやインターンシップ、アルバイトなどを随時募集中。学生向けサービスとしてスタートしたが、社会人も使えるように準備中。https://musbun.jp

■ 福祉留学　福祉留学
学生や医療福祉従事者と、日本の福祉・介護を牽引する施設を繋ぎ合わせる留学制度。希望する地域で実際に短期～中期暮らしながら施設などでインターンを行いつつ、その土地ならではの地域福祉を体験できる。https://fukushi-ryugaku.com

写真・小笠原真紀　村上未知　土佐麻理子　スタイリスト・池田木綿子　ヘア＆メイク・NADEA　取材、文・鈴木恵美

anan web

実際に働いている姿を取材して、介護現場のリアルを深掘りします。

Working File1
専門学校の仲良し同級生が介護の現場で個性を発揮中。

NAME（左から）

松木綾香さん（22歳）

坂本みずきさん（22歳）

光吉由真さん（23歳）

PROFILE

3名とも尾道福祉専門学校卒業後、2019年に株式会社ゆず入社。介護福祉士。'22年から「ゆずっこホームみなり」勤務。

まつき・あやか　高校時代に生徒会で活躍。当時の養護先生の病気をきっかけに闘病支援活動を行うことになり、介護と福祉に興味を持ち、専門学校へ進学。誰とも上手で、良き相談相手として慕われる存在。

さかもと・みずき　高校3年生で進路に悩んでいた時に担任の先生から「人のお世話をする仕事が向いている」と言われ、介護の世界へ。周りを一瞬で幸せにする笑い声がチャームポイント。

みつよし・ゆま　高校生の時に祖父が介護施設に入居したことで介護を身近に感じてこの道へ。冗談を言って笑わせるのが得意。今年3月に結婚し、来年出産予定。

@広島県尾道市 ゆずっこホームみなり

●広島県尾道市美ノ郷町三成1114-1 ☎0848-48-3877

小規模多機能型居宅介護

https://yuzzuco.com/?p=684

https://ananweb.jp/anan/509188/

anan web

BEAUTY # FASHION # LOVE # ENTAME # FOOD # URANAI

HOME > ANAN > MY CARE WORK 02 ―　#LIFESTYLE

LIFESTYLE

MY CARE WORK 02
介護の現場でかなえる、私らしい働き方。

写真・村上未知、土佐麻理子 スタイリスト・池田木綿子 ヘア&メイク・NADEA 衣材、文・鈴木恵美 PR・厚生労働省 ― 2023.10.18 (PR)

自分のパワーをシェアして人をハッピーに―。介護という仕事も実はシェアライフかも。高齢化が進む社会の中で絶対必要な仕事、働きがいも将来性もたくさんありそうだけれど、なかなか現場に触れる機会がないのも事実。やりがいは？待遇は？大変なところって？介護の仕事の気になる中身を現場で活躍中の人たちへのインタビューから探ります！今回は訪問介護をしている鹿角実花さんと、自立支援に特化した施設のリーダー大竹ひかりさんを紹介します。

Working File2
利用者の生活に丸ごと関わる訪問介護にやりがい！

“　ひとりひとりの日常に 寄り添う介護がしたい。　”

NAME

鹿角実花さん（26歳）

PROFILE

かつの・みか　大学で社会福祉学を専攻し、社会福祉士の資格を取得。2020年に株式会社でいぐにてい入社。'22年に介護福祉士の資格を取得。訪問介護業務を行う傍ら、サービス提供責任者として、訪問介護計画書などの書類作成や管理業も担っている。

@東京都新宿区 でいぐにてい

●東京都新宿区高田馬場1-29-7　スカイパレス504　☎03-6265-9048

https://ananweb.jp/anan/509213/

anan web

BEAUTY # FASHION # LOVE # ENTAME # FOOD # URAN

HOME > ANAN > MY CARE WORK 03 ―　#LIFESTYLE

LIFESTYLE

MY CARE WORK 03
井上咲楽×秋本可愛と理解を深める 介護のしごとの可能性。

写真・小笠原真紀 スタイリスト・池田木綿子 ヘア&メイク・NADEA 衣材、文・鈴木恵美 撮影協力・杜の風・上原 PR・厚生労働省 ― 2023.10.25 (PR)

知らないことが多い介護の世界。そこで読者を代表してタレントの井上咲楽さんが抱いた素朴な疑問に、介護業界に詳しい秋本可愛さんが答えてくれました。井上さんは今回の対談のために実際に介護施設も見学。その率直な感想も聞きました。

左：井上咲楽　Sakura Inoue

1999年10月2日生まれ。栃木県出身。高校1年で芸能界デビュー。バラエティ番組のほか、時事問題にも関心が高く、選挙コメンテーターとしても活躍している。2024年のNHK大河ドラマ『光る君へ』に出演予定。

ワンピース¥31,900（トロワズィエムチャコ☎03-6274-8533）　イヤリング¥3,080（ハクフルール☎03-6416-1995）

右：秋本可愛　Kasi Akimoto

1990年生まれ、山口県出身。株式会社Blanket代表取締役。大学在学中の介護現場でのアルバイトをきっかけに課題意識を抱き、会社設立。介護に志を持つ若者の日本最大級のコミュニティ『KAIGO LEADERS』発起人。

●介護業界は将来性が高く、活躍できる場所も多い。

高齢者が増えていることから介護ニーズはより高まっているが、介護を身近に感じる機会は意外と少ない。介護業界の人材不足問題は、ニュースを見て知っていたという井上咲楽さん自身もこれまでに介護に直接触れる機会はなかったとか。そこで介護の世界を深く知るために、介護の現場を初訪問。今まで抱いていた疑問や今回感じた想いを、介護業界の人材不足の課題解決に取り組む秋本可愛さんにぶつけて、介護の仕事の可能性について、ふたりで考えてもらいました。

秋本　井上さんは、これまでに介護の仕事についてどのようなイメージを持たれていますか？

井上　大変そうという印象を持っていました。人手不足や離職率が高いというニュ

https://ananweb.jp/anan/509215/

入居者さんの生活やリハビリの様子を見学する井上さん。実際に入居者さんの身だしなみを整えるお手伝いにも挑戦。現場の方から「話を引き出すのが上手なので、介護職に向いている！」とのお墨付きも！

●介護の現場に触れて感じた面白さとは？

秋本　実際に「杜の風・上原」(MY CARE WORK2)で、現場の雰囲気を感じていかがでしたか？

井上　まず明るく清潔感のある空間が広がっていて驚きました。働いている方も若い方が多く、入居者さんと仲良く話している姿が印象的で、私が持っていたイメージがだいぶ変わりました。表現が合っているかわかりませんが、スタッフさんも心が門い方ばかり（笑）。

秋本　それは入居者さんたちのおかげかもしれませんね。私もアルバイトしていた頃、利用者さんたちが私の知らないことを教えてくれたり、悩み事に対してアドバイスをくれたり、こんな若輩者の自分を全部受け入れてくれたんです。そういう意味では、ケアする立場ではあるけれど、同時にケアされる立場でもあるのが介護の

anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」

ananweb @anan_web · 2023年10月11日

自分のパワーをシェアして人をハッピーに―。
介護という仕事も実はシェアライフかも。
やりがいは? 待遇は? 大変なところって? **介護**の仕事の気になる中身を現場で活躍中の人たちへのインタビューから探ります!
#PR #厚生労働省 #anan

ananweb.jpから

2 7 2.3万

ananweb @anan_web · 2023年10月25日

知らないことが多い**介護**の世界。そこで読者を代表してタレントの井上咲楽さんが抱いた素朴な疑問に、**介護**業界に詳しい秋本可愛さんが答えてくれました。井上さんは今回の対談のために実際に**介護**施設も見学。その率直な感想も聞きました。
#PR #厚生労働省 #anan

ananweb.jpから

1 6 1.8万

雑誌＆WEBタイアップ記事展開「POPEYE本誌8ページ特集」で情報発信！

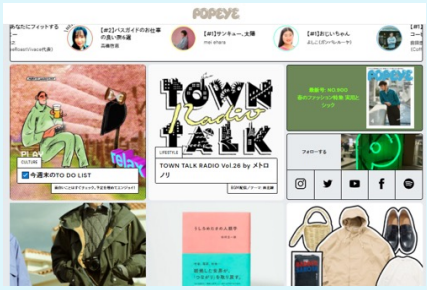
Magazine for Cityboysをキャッチコピーに、1976年から発行を続けるPOPEYEは、まさにCityboyたちに深い影響力を持つファッション＆カルチャーマガジンです。雑誌広告を見て店舗を訪れる率20%、企業やブランドのSNSへのアクセス率15%と、高いコンバージョンレートを誇っています。POPEYEでは、2020年3月号で、令和元年度に介護のしごと魅力発見事業にて、16ページの冊子を制作。幅広い読者にアピールしました。今回は、その第２弾とも言える企画で、福祉・介護のしごとに対して、無関心（未関心）な読者へ興味喚起、共感を得ることを主眼とした記事制作を行いました。

Theme

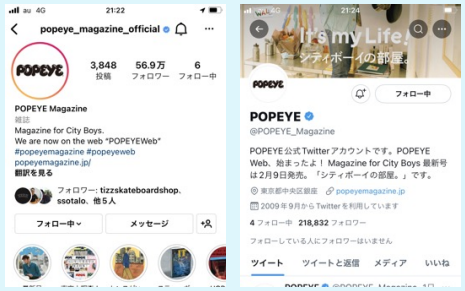
福祉ってこういうことだったんだ

POPEYE本誌(月間)2023年10月9日発売号で特集8ページ記事を制作

POPEYE本誌で制作した記事内容をPOPEYE webでも転載して記事化



POPEYEの各種SNSアカウントを活用し本企画の告知を実施して情報拡散！



POPEYE 記事構成

Title. **福祉ってこういうことだったんだ**

P1. **表紙：介護のシーンをイメージするイラスト**

P2-5. **取材撮影・インタビュー**
「福祉の現場を知りたくて」

福祉・介護の施設と働くスタッフの取材ページ。20-30代の若いスタッフを4名を取材。福祉が多めのバランスで構成。ジャンルはホームレス支援、障がい者補助、児童福祉など。

取材先

高齢者介護　：社会福祉法人 福祉楽団 杜の家なりた
高齢者介護　：小規模多機能型居宅介護 ぐるんとびー駒寄
児童支援　　：一般社団法人 暮らしランプ
　　放課後等デイサービス あくあ
孤立対策支援：認定NPO法人 D×P

P6-7. **コラム集**
ポパイのウェルフェア・フォーラム

コラム
❶ 美容師がカットしてくれる、老人ホームの訪問美容。
❷ 方南銀座商店街で発見！クラフトビールを造る福祉作業所。
❸ その発想はなかった！車椅子が人力車に大変身。
❹ 銭湯にもフェスにも行きたい！そんな願いを叶えます。
❺「太鼓の達人」とレーシングゲームで、シニアだってeスポーツ！
❻ スニーカーもモビリティも、移動手段の進化がスゴイ。
❼ その場で握るからおいしい。川崎駅のホームレス支援。

P8. **著名人インタビュー**
「福祉とケアに目を向ける、一味違う読書。」

福祉・介護とは何か、実際の現場・現実をどう捉えているか、どんな人材が求められている（適している）と思うか、これから何が必要だと思うか、をじっくり聞いた。

Riverside Reading Clubが選ぶ、SF小説やZINEで知るケア視点。

POPEYE®
Magazine for City Boys
福祉ってこういうことだったんだ。
福祉と聞いて思い浮かぶのは、高齢者の介護、障害者の支援、児童養護……ナドナド。
自分とは遠いものと思いがちだったけれど、今ってもうそんなことない。
現場で働く若者たちや、ワクワクするトピック、ケアを感じる選書を通じて、福祉について考えてみました。
photo: Naoto Date, Jun Nakagawa (P126) illustration: ZUCK text: Neo Iida design: Noa Miyatani artdirection: Taro Kambe
POPEYE2023年10月6日発売号 ©マガジンハウス

福祉の現場を知りたくて。

実際の仕事ってどんな感じ？　高齢者介護や障害者支援、児童支援など、各分野で働く4人に密着！

profile かも・こうへい｜1999年、埼玉県生まれ。社会福祉士。大学で福祉を学び、卒業後に福祉楽団に入職。「杜の家なりた」に配属される。仕事中は〈ナイキ〉を着ることが多め。浦和レッズ、西武ライオンズ、Mr.Childrenのファン。

workplace 社会福祉法人 福祉楽団 杜の家なりた
社会福祉法人福祉楽団が営む、千葉県成田市にある特別養護老人ホーム。キッチン、リビング、10人の個室を備えたシェアハウスのような「ユニット」を6つ備える。ショートステイ、デイサービス、訪問介護・居宅介護、居宅介護支援・相談支援の他、放課後等デイサービス、保育事業、就労継続支援B型の事業所（介護業務の補助や清掃業務など）も展開。www.gakudan.org

1. ご自身でスプーンやお箸が扱える人もいれば、介助が必要な人も。ケースバイケースで対応する。2. 就寝時は歯磨きをし、車椅子でお部屋まで。パジャマに着替えたらおやすみなさい。夜勤では時間を見ながら排泄介助を行う。3. 会話も弾むブラッシングタイム。4. 厨房から届いた料理。この日のおかずはオムレツで、そぼろ状、とろとろなど軟らかさは人によってバラバラ。5. 利用者さんは自由に館内を動ける。車椅子を押して散歩に出ることも。6. 料理初心者の加茂さんを見守る大先輩たち。仕上がりもばっちりチェックしてくれる。

KOHEI KAMO —— CARE WORKER

この場所はもうひとつの家。だからベストを叶えたい。

夕方、利用者さんが思い思いに過ごすなか、職員の加茂航平さんはキッチンで玉ねぎを切っていた。隣には車椅子の女性がいて「繊維を潰すように包丁を入れるんだよ。甘くなるから」と声をかける。また一方にはジャガイモの芽を取る女性。千葉県成田市の「杜の家なりた」では、居住ユニットのキッチンで職員が献立のうちの一品を作るんだそうだ。この日は玉ねぎとジャガイモの味噌汁。いい香りがぷんとする。

「利用者さんが覗きに来て、ご家庭での経験から『こうしたらいいよ』とアドバイスをくれたり、皮むきや配膳を手伝ってくれたり。〝ノウハウを教える〟というのが、ケアに繋がってもいるんですよね」

特別養護老人ホームでは、管理栄養士の下で料理を作り、調理室からワゴンで各居住スペースに届けるのが一般的だ。でも「杜の家なりた」では利用者さんとの交流も含め、キッチンを有効に使うのだという。トントントンという包丁の音に、湯気がふわり。まるで実家にいるみたいだ。

ユニットリーダーとして働く加茂さんが福祉の道を志したのは、高校生の頃だった。

「将来は人と関わる仕事がしたいなと思ったんですが、飲食のバイトは経験したし、せっかくなら何か貢献できるほうがいいなと。それに、小6のときに僕が詠んだ俳句を祖父が喜んでくれた思い出があったから、誰かが喜ぶ姿が見たかった。パッと浮かんだのが福祉でした。お笑い芸人でもよかったのかもしれないですけど（笑）」

福祉学科のある大学に進んだが、当時興味があったのは児童養護。介護職と出合うのは、就職活動をした大学3年生の頃だ。

「『FUKUSHI meets!』という就職イベントで福祉楽団のことを知り、福祉っぽくないなと思って興味を持ちました。高齢者介護や児童養護といった分野に囚われていないし、福祉＝生活というのをすごく感じて」

卒業後、福祉楽団に入職。「杜の家なりた」に配属され、介護人生が幕を開けた。

「最初は不安でしたけど、3か月ほどがっつり研修を受けるとできなかったことができるようになって自信もつきました。それに利用者さんと向き合っていると、ひとりの行動だけでは対応できないとわかってくる。だからこそチームで同じ方向を向き、皆さんの生活を整えることにやりがいを感じて。これが介護の楽しさなんだなと」

利用者さんの多くは80代で、基本的に要介護「3」以上の方が入所する。それぞれ健康面や置かれている状況は異なるけれど、一緒にごはんを食べ、テレビを見て、ときには雑談をして暮らす。そんな他愛のない日常を過ごしていれば、喜びも悲しみもいろんなことが巻き起こるわけで、「人が亡くなる」という現実も訪れる。

「死生観がだいぶ変わったと思います。実は僕、大学生の頃は介護を避けてたんです。母方の祖母と祖父が亡くなった経験から、辛すぎて仕事にできない気がして。でもここで働いて、死ぬのは自然なことなんだと気づきました。人生の終末期のケアを〝ターミナルケア〟というんですけど、僕たちはできるだけ自然な着地を目指したくて。飲み込む力がなくても、利用者さんが『食べたい』と言ったら、なるべく実現できるよう動く。危険性はあるかもしれないけれど、本人にとってベストなら叶えてあげたいし、そこでどう創意工夫をするかが僕たちの仕事だと思っています」

ここは病院じゃなくて家。だから個室には使い込んだ家具があるし、みんなが集まる大きなキッチンがある。毎日をその人らしく暮らしてほしいと加茂さんは願う。

「誰もが最後は住み慣れた場所で……と思うはず。それがもしここならば、全力で後押しするのが僕らにできることだと思うんです。悲しさも喪失感もありますが、不思議と達成感もある。ご家族の方がありがとうございますと言ってくれると、本人も家族も自分も、満足したケアができて送り出せたんだなと思えるんですよ」

WELFARE AND CARE WORK

profile かわべ・ゆうし｜1997年、岐阜県生まれ。理学療法士。大学卒業とともに理学療法士の資格を取得。将来は地元・岐阜で地域型の介護を実現させるのが夢。休みの日は大橋トリオとキリンジのライブを見に行く。

workplace 小規模多機能型居宅介護 ぐるんとびー駒寄
2015年7月に藤沢市大庭のUR団地の空き部屋を利用してスタート。利用者が可能な限り自立した日常生活を送れるようサポートし、送迎を含む通いの場への「通い」や、調理、食事、排泄、入浴などを行うご自宅への「訪問」、短期間の「宿泊」を組み合わせ、家庭環境と地域住民との交流の下で日常生活の支援や生活リハビリを行う。www.grundtvig.co.jp

4.「ぐるんとびー」が入居するパークサイド駒寄は、240戸弱を誇るビッグな団地。5.「ぐるんとびー」では利用者さんの希望があれば、ほぼ毎日外出するという。6, 7. デイサービスでクッキー作り。経験者によるメレンゲの手さばきは流石のクオリティ！

1. 外出後はご自宅まで送っていく。独居の方が一人でも安心して暮らせるように転倒防止用の手すりを設置するのも仕事だ。「認知症だと洗剤を誤って飲んでしまうこともあるので、水に替えておくことも。でも〝失敗する権利〟を奪わないことも大事なので、バランスですね」 2. 要望に応えて鵠沼海岸へ。介護用バギーで波打ち際まで。3. 仲良くカレー。

YUSHI KAWABE —— CARE WORKER

「今」を大事に団地から海へ。地域密着型介護のかたち。

神奈川県藤沢市の団地で暮らす川邊祐詩さんの一日は、7時半のラジオ体操で始まる。ご近所の皆さんと体を動かし、いざ出動！　……と思いきや、団地内の別の一室へ。そう、川邊さんが働く「ぐるんとびー」は同じ団地内にあるのだ。団地に介護施設があるなんて！

「僕たちは団地内の一室の2世帯住居を使って、小規模多機能型居宅介護事業所を運営しています。通いの場で利用者さんと過ごしたり、ご自宅に伺って食事や入浴などのお手伝いをしたり、外出のサポートをしたり。利用者さんは同じ団地に住んでいる方もいれば近隣の方もいます。フレキシブルになんでもできるのが〝小規模多機能型〟の面白いところなんです」

「小規模多機能型居宅介護」とは何かといえば、グループホームのように施設に入所するのではなく、利用者さんが「通所（デイサービス）」と「泊まり（ショートステイ）」「訪問（ホームヘルプ）」を組み合わせて利用する月額サービスのこと。「ぐるんとびー」は、日本初の団地の一室を使った多機能型ホームなのだ。理学療法士を目指していた川邊さんは、とあるきっかけで「ぐるんとびー」を知り、介護職に飛び込んだそう。

「中学で成長痛がひどくなり、理学療法士さんにお世話になりました。サッカーをしていたので、大学進学時に将来はスポーツトレーナーになろうと思って理学療法士の資格が取れる学科を選び、病院の実習で一人のおばあちゃんと出会ったんです。歩けないし、借金もあって、体がよくなっていく見込みもない。バリアフリーの逆の〝バリア〟と呼ばれる状態。『生きていて、やりたいことがない』と言うし、困ってしまって。でもあるときおばあちゃんがポロッと『とんかつ食べたい』とつぶやいたんです。うわ、きたきた！　と。その思いを叶えたくて、外食に行くとか出前を取るとかいろんな方法を考えたんですが、病院の規定では全部ダメ。助け方がわからないまま実習は終わり、モヤモヤが残りました。そんなとき『ぐるんとびー』が〝ともに暮らす〟というあり方を打ち出していたのを見て、これだ！　と」

当時は理学療法士の募集がなく最初は断られ、アタックを続けて入職が決定。1年目は、団地で暮らす要介護5の80歳のおじいさんとのルームシェアから始まった。

「2世帯住宅なので部屋は別々。でも一人でごはんを食べるのが寂しいときは、よく遊びに行ってました。楽しかったですよ」

日中は訪問介護やデイサービスを担当。大学で学んだ最低限の知識はあったけれど、おむつ交換も入浴介助も初体験だった。何よりコミュニケーションに苦戦した。

「最初はどの利用者さんとも距離がありました。認知症の方は快か不快かに敏感になることが多いので、快刺激が多いと『この人は安心だ』、不快だと『危ない人だ』と感じる。この人にとっての快刺激ってなんだろうと試行錯誤するうちに、徐々に覚えてくださるようになって」

利用者さんはご近所さんでもある。川邊さんは地域の繋がりを深めたいと思い、ラジオ体操や祭りの実行委員を始めた。するとそのおかげもあってか、在宅の利用者さんが深夜にふらっと表に出てしまったとき、目撃した住民の方から「ぐるんとびー」宛てに連絡が来るように。小さな積み重ねで〝ともに暮らす〟が形作られていくんだ。

快晴のこの日、川邊さんは利用者さんのリクエストを受けて海へと出かけた。

「リスクが高くない限り、その時々で予定を考えます。『今しか見られない』『今しかできない』ということが、高齢の方々にとってはリアルなんです。だからこそ『今』をキャッチしたい。認知症の方も、心が動くと表情が違うんですよ。今日も『ビールが飲みたい』と仰って、ワクワクしました。海に行けて、気分が良くて、だから『やりたい』が生まれたんですよね。そういう瞬間をたくさん作っていきたいと思います」

WORK 04

行き場のない、孤立した10代を支援する。

NAME 野津岳史
AGE 29 JOB 孤立対策支援

workplace 認定NPO法人 D×P

大阪を拠点に10代の孤立を解決するための活動を行う認定NPO法人。道頓堀のグリコの看板の下、通称"グリ下"の若者たちの支援を行う「ユースセンター」では食事支援や医療・宿泊費支援を実施している。他に通信・定時制高校では、教室の中で生徒が居心地よく過ごせる空間を作る「居場所事業」、主体と大人が対話する「クレッシェンド」、子供たちの希望に応じて実施する「仕事体験ツアー」、LINEで相談ができる「ユキサキチャット」などを手掛ける。www.dreampossibility.com

やってきた子が欲しいものを付箋に書いてペタッと貼れる「センターにほしいもの進捗状況」。進捗別に4カテゴリーに分かれており、「電気ケトル」と「あったかい飲みもの」がもうすで に複数。お財布の紐を握る野津さん曰く「本当は運営費の管理もみんなでやれるようになったらなおと思いますね」。ちなみに「みんなで決めていくもの」と「考えゆう」の間には「現金5億」の付箋が。

1. 定時制高校での活動風景。2. 憩かんのテント時代。ユースセンターに移行してからも、口コミを頼りに多くの子供たちが訪れる。3. スタッフの意見交換も活発。料理も作る。4. HIPHOP好きが多く、なかにはラップをやっている子も。5.『桃太郎電鉄』『マリオパーティ』など鉄板ソフトが。

profile のづ・たかふみ｜1994年、大阪府生まれ。大学時代に「D×P」のインターンを経験。2017年に正社員に。グリ下近くでのフリーカフェ事業の経験から、今年6月にユースセンターを立ち上げた。愛称は"もずく"。バスケ経験あり。

TAKAFUMI NOZU
CARE WORKER

困難を抱える若者と、交流を続ける。

学校にも家にも居場所がなく、まだ10代で、お金もかからない、どこへ行けばいいだろう、ゲームセンター？ IZUMIYA？いや、どこも夜には閉まってしまう。

「大阪の道頓堀には"グリ下"という場所があるんです。グリコの看板の下ですね」

そう教えてくれたのは「認定NPO法人D×P」のスタッフで、13歳から25歳までのユース世代への孤立対策支援を行っている野津岳史さんだ。

「親から虐待を受けている子もいますし、家庭が経済的に困窮していたり、軽度の知的障害や発達障害があり、それを自覚してない子、人との関わりがうまくいかず、助けを求めて受け入れてもらえなかった、しんどい経験を持つ子たちが多いんです。集まることは悪いことではないですが、繁華街です し、お金欲しさに犯罪に巻き込まれる可能性もある。だからユースセンターのような安全に集まれる場が必要なんです」

現在、職員としてグリ下の子供たちに食事提供や個別面談を担当する野津さん。「D×P」との出会いは学生時代に遡る。

「ボランティアで関わった大人たちが『やりたいようにやりゃいい』と言ってくれたのが印象的で、自分も若い子の活動を応援する仕事がしたいと思うように。孤立対策支援を行う「D×P」の存在を知り、大学3年の春からインターンを始めたんです」

より力を付けるため、卒業後は中間支援を手掛ける NPOで働き、1年半後に「D×P」に就職、支援活動を行ううなか、2021年に グリ下の存在を知った。

「定時制高校での支援やLINE相談も好評でしたが、『そもそも相談をする』という選択肢がない子も多い気がして、そんなときにグリ下を知ったんです。僕も悩み出を繰り返して、行くアテもなく街をフラフラしてました、何か聞わるんじゃないかと」

一念発起した野津さんは、川沿いにテントを立てることにした。

「区の福祉課、商店街などに話をしに行きました。行政の方々も気になっていたようで、僕たちの活動を受け入れてくださって」

2022年8月にテントを設置。野津さんはまず"声掛けをしない"と決めた。

「グリ下は、行き場のない子たちが自分たちでなんとかしようと思って作った場所。だから入り込み過ぎないようにしようと。気にかけてテントを覗いてきたら、『菓子食べる？』『充電器ある？』と言うくらい。当時流行ってたドリンクを用意したら、ぼつりぼつりと来る子が増えて、誰かが『もらうだけやなくておっけいや』と言ってくれたりして、テントで過ごす子が増えたんです。そのうち『つかうグリ下に来てるの？』みたいな会話ができるように」

今年6月には グリ下からそう遠くないビルにユースセンターを構えた。テントより広く、キッチン完備、口コミだけで既に50人を超える子供たちが訪れるという。

「まずは関係を築いて『耳くらい貸そうか』など聞いてもらえたら、相談があったときには、できることは何か、それによって何が起こるかを伝えて、本人の気持ちを聞きます。意思を無視して決められるとつらい経験をして記憶されやすいからです。例えば虐待から逃げたい場合でも、児童相談所の保護では本人の位置情報が特定されることを防ぐなどの理由でスマホは使えません。そういうことを知らない子もいるので、事前に伝えた上で意思を確認します。ただし、強制的な介入で命が守られる場合もあり、保護に向けて動かないといけない場面も、本人の命を守ることと本人の意思を尊重することの両方を大切にしています」

センターで久しぶりに手料理を食べた子もいるという。ちょっとした人との交流が明日に繋がっていくと野津さんは言う。

「先が見えない状況で何も考えられへんとなったら、危ういで。行ってまう。"コーラ買っといでや"じゃあまた来てな、そんなささやかな約束でいいんです。それが積み重なって未来は広がるはずだから」

WORK 03

アートを通じて、障害や発達に特性のある子供たちの自己表現力を育む。

NAME 亀田光仁
AGE 30 JOB 児童支援

workplace 一般社団法人 暮らしランプ

放課後等デイサービス あくあ

京都市西京区にあるデイサービス施設。障害のある小学生から高校生までを対象に、放課後をはじめ夏休み、冬休みなどの時間に子供が通う。アトリエ時間では毎日テーマごとにアートプログラムやクッキングなどを実施し、個性を尊重した活動を行っている。その他、子供との対話や宿題などに取り組む時間も大切にしている。同じ施設内に生活介護事業所「atelier uuu」が併設されており、「あくあ」を巣立った子供が作家としてものづくりを行うことも。kurashi-lamp.or.jp

1~3. 感光紙に文房具や草花を置いて出来上がった作品たち。アイテム選びに個性が出る。4、5. 庭で光に当てた後は、水に晒して現像しよう。屋内と屋外を行き来する、ちょっとしたアクションも楽しい。「集中し過ぎてよう こともあるので、適度に切り替えも大事なんです」と亀田さん。

profile かめだ・みつのり｜1993年、大阪府生まれ。高校卒業後、写真の専門学校に通いながら保育園で働き写真部に就職。写真にまつわる業界で働き、京都移住後に福祉の道へ、奥様はデザイナーで、「あくあ」で講師をしたことも。

右／出勤後はスタッフ全員で朝礼。夏休みや冬休み以外の通常時は昼と夕方の2部制のため、やってくる子供たちの顔ぶれを確認して担当を決める。壁に貼られた「6」のアートは6周年イベントで子供たちが作ったもの。左／今日のおやつはかき氷。シェイプするところからテンション爆上がり！

MITSUNORI KAMEDA
CARE WORKER

カメラマンとしての経験を生かして、夢中になれるアートプログラムを。

「思いどおりにいかない、予定調和で済まないところが楽しいですね。興味がないと楽しんでくれないので、どう接すればいいか、どのタイミングで声をかければいいか、その都度考えますよ。ワチャワチャする時間も好きなんですよ。子供たちにはアトリエでの時間を通じていっぱい自己表現をしてほしい。思いを伝えてもらって、僕たちが感想を話す。その経験を重ねていったら、他者を受け入れられるようになっていくんじゃないかと思うんです」

キャッキャッと子供たちの はしゃぐ声が響き、日差しが綺麗に入るアトリエが、亀田光仁さんの仕事場だ。京都駅から車で30分、西京区にある「暮らしランプ」では、障害がある小学1年生から高校3年生までが通う放課後等デイサービス「あくあ」を営んでいる。アートを通して子供たちの自己表現力を育むため、アトリエには絵の具やペン、画用紙、紙筒など、創作に使えるツールがわんさか。特に力を入れているのが亀田さんをはじめ数人の職員が考える日替わりのアートプログラムだ。

「うちは福祉に関わらず、アート系の勉強をしてきた人が多いんです。僕も以前は写真の仕事をしていたので、今日は写真に絡んだプログラムを考えてみんなでやるよ」

そう言って、亀田さんは中央のデスクで感光紙を掲げた。どうやら日光写真の要領で、オリジナル作品を描こうという企画らしい。子供たちは目をらんらんと輝かせ、ハサミや毛糸などを持ち寄り好きな形を作り始めた。その集中力たるや！

「子供によって目標が異なるんです。物事を最後まで終わらせることが目標の子、取り組むことそのものが目標の子、周りとのコミュニケーションが大事な子、作品を作ることは必ずしも重要ではないんです」

亀田さんは元カメラマン、写真専門学校を卒業したのち東京で10年ほど働き、結婚を機に京都に移住した。引き続きフリーのカメラマンとして働いていたけれど、3年ほどして「違う仕事をしてみたい」と思い立つ。それが福祉だった。

「実は福祉コースのある高校を卒業し、資格もいくつか取得済みだったんです。だからある程度どんな世界かはわかっていたのですが、僕のなかで引っかかっていたのが高校時代の友達のことでした。当時、障害のある友人が虐めを患い、命を絶ってしまったんです。それ以来、障害ってなんだろうという思いがずっとくすぶっていて、そこを仕事にできないかと」

派遣会社に登録し、担当者が紹介してくれたのが「暮らしランプ」だったという。

「障害というと隔たりがあると思われがちですが、それを感じさせない雰囲気がありました。すごく自由で、福祉施設という感じがしなかった。それで決めました」

入職してからは「あくあ」の担当になり、現場で仕事を覚えていった。やってくる子供は日によってまちまち、出勤後の朝礼で一日のスケジュールをチェック し、やってくる子供を把握。スタッフを割り振っていく、アートプログラムを考えるときは、今日の日光写真のようにカメラマン時代の経験が生きる。今後力を入れたいのは、社会との接点を持てる取り組みだという。

「ここが何の施設かわかっていない近所の方も多いと思うんで、『あくあ』は楽しい場所だけれど、子供たちが地域と関わりを持てないと問題的な感覚になってしまう。それもあって6周年イベントは地域の皆さんと交流ができる空間を作りました」

現在はプログラム中に作った作品を展示する「あくあ展」を準備中だという。アトリエでは子供たちが青白い形が浮き上がった感光紙を眺めて、にこにこしていた。

「『あくあ』では作品を評価せず、自由に表現することを大事にしているんです。子供たちが作品を通じて、目の前にあることどう向き合うか、アートでみんなと交流しながら、すくすくと成長していってほしいなと思っています」

COLUMN 06 スニーカーもモビリティも、移動手段の進化がスゴイ。

EVとか自動運転とか、もう車の最新技術ではびっくりしなくなったけど、さすがにこうくると「未来カーだなあ」と言わざるを得ない。〈GLM〉が発表したシニア世代向け小型モビリティのコンセプトモデルは、丸っこいフォルムに、つやっと光るシルバーのボディ。小型モビリティというのは、おじいちゃんやおばあちゃんが乗っているスクーターみたいなアレのこと。“自動車から乗り換えたくなるモビリティ”を掲げているそうで、アレがコレになると思うと老いも怖くないかも？　身近な移動手段といえば靴。〈ナイキ〉が障害のあるアスリートの意見を参考に開発した「Go FlyEase」は、手を使わずに履けるスグレモノ。妊婦さんや高齢者にも便利な一足だ。

NIKE Go FlyEase

2021年に〈ナイキ〉がリリースしたスニーカー。手を使わずとも、足でぐっと踏み込むと綺麗にフィット。着脱が容易なハンズフリー構造になっている。¥16,500（NIKE　www.nike.com）

GLM Electric Mobility Scooter

〈GLM〉が2020年に発表した次世代型シニアカー。「球」をイメージコンセプトに“乗りたくなる”デザインを実現。歩行者への圧迫感も軽減した。しかもEV。市販化に向けて試作機を開発中。

COLUMN 04 銭湯にもフェスにも行きたい！そんな願いを叶えます。

車椅子で暮らしていたって、たまには銭湯の熱い湯に浸かりたいはず。そんな思いを叶えるのが墨田区『御谷湯』の福祉風呂だ。「下町の銭湯はみんなのための場所だから」という先代の思いを継ぎ、リニューアル時に設置したという。車椅子のまま脱衣所までスーッと入店し、家族と一緒にちゃぽん。最高だね。さらに音楽ラバーのためのサービスも。障害があったり車椅子だったりすると好きなライブに出かけるのもハードルが高いけれど、そんなときは「WASSUP」に相談だ。介護保険の「移動支援」として、ライブの提案から会場までの送迎まで全力でケアしてくれる。

介護者も入浴できるよう浴槽は2つ（要連絡）。くるっと回れば、負荷をかけず湯船に入れる回転椅子を設置。

COLUMN 05 『太鼓の達人』とレーシングゲームで、シニアだってeスポーツ！

沼津はeスポーツが盛んで、導入前に沼津eスポーツフェスで体験会を実施したという。本格的なレーシングシミュレーターも導入したレーシングゲームは、男女問わず運転経験がある方に人気。

place

デイケアさとやま

沼津「さとやま整形外科内科」の通所リハビリテーション施設。半日型デイケアとして理学療法士による運動療法で身体機能回復を目指す。〇静岡県沼津市東原560-1　☎055-939-5031　www.satoyama2.jp

レーサーばりの熱い眼差しでコースを走行するおじいさん。一方、ドンドンカッカと太鼓をバチで叩くおばあさん。ゲームセンターにしては和やかだけれど、ここは沼津の「デイケアさとやま」。今年からレクリエーションの一環でeスポーツを取り入れている。「近年“シニアeスポーツ”が注目されています。ゲームの世界なら高齢者も様々なアクションができますから。ゲームで刺激を受けた失語症の方が『難しいなあ』と声を発した事例もあるとか。単純に楽しいので参加者も増えました」と経営戦略室の柳田礼央さん。世界を揺るがすシニアゲーマーが誕生する日も近い!?

COLUMN 07 その場で握るからおいしい。川崎駅のホームレス支援。

上／この日の最終目的地、川崎駅前でのひとコマ。最近はボランティアも増え、おかずやデザートを持ってきてくれることも。右／活動初期から濱野さんと行動をともにする神領さん。彼もまた川崎が地元だ。下／おむすびを渡し近況を話す。他愛のないやり取りから困りごとがわかるそう。

worker **濱野 怜**

はまの・れい｜2001年、神奈川県生まれ。中央大学を卒業し、現在慶応大学大学院に在学中。「ホームレス支援CoE」を立ち上げ、チームメートの神領龍生さん、ボランティアの方々と、社会復帰の一助となるよう、川崎駅周辺のホームレス状態にある人の食料支援を行う。“ホームレスの友達大学生”としてSNSでの発信も積極的に行っている。@rei.hamano2000

左／地元の天ぷら屋さんがくれた天かす、梅干し、大葉などを混ぜ合わせた特製レシピ。下／綺麗な形は、実はホテルの調理バイトの賜物。濱野さんも神領さんもうまく握るため、朝食のおむすびを担当しているらしい。

上／リヤカーには炊飯器をはじめ、おむすびを握るグッズが色々。収納力がありながら取り回しは簡単で、アルミスチールのボディもカッコいい。

木曜夜の川崎駅には、路上でおむすびを握る若者がいる。リヤカーに炊飯器をのせ、ほかほかのご飯をキュッキュッと結んでいく。彼は濱野怜さん。地元の川崎駅周辺で、ホームレス状態にある人たちに食料支援を行っている。きっかけは同じ川崎駅前での出来事だった。「選挙の手伝いをしていたら、女性が倒れて泣き叫んでいたんです。僕は声がかけられなかったんですが、ひとりの男性が駆け寄ってハンカチを渡したんです。応援旗には『変えよう』と書いてある。僕は政治で格差をなくしたいと思っていたのに、無意識に目の前の女性を除外していた。そのことに気づいて、向き合おうと」。ボランティアセンターへ行き、夜回りを体験。余っていたリヤカーを借りて炊き出しを始めた。せっかくなら温かいものを食べてもらおうと思い、おむすびに。「家族内に問題がある方、健康状態が芳しくない方、精神疾患や発達障害がある方、頼る人がいなくて孤独な方もいる。貧困ビジネスも近寄ってくる。おじさんたちと話すといろんなことが見えてくるんです」。いつか、彼らのための場所を作りたいと濱野さんは考えている。「今考えてるのはコーヒーショップ。おじさんたちは人生の渋みを知ってますからね（笑）。やり直しに向けて、社会と路上の間のような場所を作れたらと思っています」

ポパイのウェルフェア・フォーラム。

こんな福祉もあったのか！　目からウロコの、ちょっと身近なウェルフェアコラムをお届け。

御谷湯

戦後、墨田区石原で開業した老舗銭湯。2015年に銭湯設計を手掛ける今井健太郎さんがリニューアルし、その際に福祉風呂が併設された。番頭を務めるのはロックバンド片想いのボーカルでもある片岡シンさん。福祉入浴¥1,000　〇東京都墨田区石原3-30-10　☎03-3623-1695　15:30～2:00、日15:00～24:00

WASSUP

居宅介護、重度訪問介護、移動支援を軸とする「WASSUP」。移動支援では外出サポートに加え、利用者が好きそうなライブやフェスの提案をしてくれる。イベント運営で培った経験をもとにGREENROOM FESTIVALや日比谷音楽祭などをチョイス。会場のバリアフリー状況も確認してくれる。wassup.jp

COLUMN 01 美容師がカットしてくれる、老人ホームの訪問美容。

完全個室の美容室にマダムがひとり。ここは銀座か白金か……なんて思ったら、なんと有料老人ホームの一室だった！　ハサミを入れるのは美容師の坂本貴宏さん。福祉事業を展開する会社に所属し、介護施設を訪れて髪を切っている。「7年前からこの仕事をしています。パーマやカラーもやりますよ」。青山のサロンに勤め、上司の独立とともに新しい店に移ったが、目の病気を患い休職。その頃、ふと祖母のことを考えた。「おばあちゃん子だったし、いつか施設に入っても髪の毛を切ってあげたいなと思ったんです。それで訪問美容という仕事を知って」。特に昨今、若い頃に高度成長期だったイケイケ世代が高齢化。髪型にこだわるのも当然で、訪問美容の需要が増えているんだそう。ただ、やはりサロンワークとは勝手が違う。「車椅子の場合は？　首がガクンとなったら？　試行錯誤を重ねました。利用者さんごとにリズムがあるので、合わせるよう心がけています」。身の引き締まる思いもするがやりがいを感じるのは、最後のヘアカットに立ち会えることだという。「次は難しいかも……という方もおられます。なるべく体調がいいタイミングを探して切ってあげたい。どんなときもさっぱり気持ちよくいてほしいですから」

1. 5年ほど愛用しているという坂本さんの仕事道具。革製のシザーバッグに、ハサミやクシ、霧吹きスプレーをセット。2. カットするときは手際よく。「ほとんどのお客さまが高齢なので、長時間座ることが難しいんです。20分くらいで終わるように心がけています」と坂本さん。常連さんからは「先生」と呼ばれているそう。

西武柳沢の有料老人ホーム、プレザンメゾン西東京では理美容室を完備。入居者は店舗のような空間でカット、カラー、パーマなどの施術が受けられる。

worker

坂本貴宏　EE21 スタッフ

さかもと・たかひろ｜1985年、栃木県生まれ。美容師。青山の美容室で働いたのち独立。2016年にEE21に入社し、系列会社が手掛ける福祉施設で訪問美容を行う。現在、東日本エリアの責任者としてスタッフの教育も担当する。趣味はフットサル。

COLUMN 03 その発想はなかった！車椅子が人力車に大変身。

1. ワンタッチで車椅子に取り付けられる「JINRIKI® QUICK」（¥54,780）。2. トレッキングでも応用できる。北海道の旭岳登山にもチャレンジ。3. 豪雪地帯ではソリの要領で牽引。www.jinriki.asia

よく浅草で見かける人力車。あの要領で車椅子の前輪をピッと持ち上げたら避難しやすいのでは？　そんなアイデアを形にしたのが、〈JINRIKI〉の中村正善さんだ。東日本大震災のニュースを見て車椅子の避難が困難だと感じ、解決できる道具を作ろうと脱サラ。「車椅子の弟と遊びに行くとき、よく前輪を持ち上げて走ってたんです。それがヒントに」。車椅子はオーダーメイドも多いから、汎用性のある道具にしなければ。試作を繰り返し、どんな車椅子にも30秒で装着できる「JINRIKI® QUICK」を発明。特許も取得した。前輪を持ち上げるから山道や雪でもスイスイ進める。京都市内や鳥取砂丘など、観光用途での貸し出しも増えてるんだって。一家にひとつ置いておきたいね。

COLUMN 02 方南銀座商店街で発見！クラフトビールを造る福祉作業所。

1. 本日のスタッフはイトウさんとバイさんのお二人。タンクの温度管理やメンテナンスも行う。2. 粉砕した麦芽を一気にタンクへ。3. お湯と混ぜて攪拌する。温度が上がることでデンプンが糖に変化。このあとホップを加える。4. 店頭で購入できる瓶入りクラフトビール（ローカルグッドエール¥680など。）

store

方南ローカルグッドブリュワーズ

2022年3月、方南町ビールプロジェクト実行委員会（方南銀座商店街、NPO法人ふるさとネッツ、一般社団法人ビーンズ）が設立。就労継続支援B型施設の醸造所。生ビール（¥500）が味わえるDIYタップも完備。〇東京都杉並区方南2-11-7　☎なし　14:00～21:00、日13:00～19:00　月～木休　www.honanlocalgood.jp

方南町のクラフトビール醸造所は就労継続支援B型施設でもある。「コロナ禍の商店街を活性化するためにクラフトビールを造る話が出て、『ソーシャルグッドロースターズ』で質のいいコーヒーを作っていた僕たちに声がかかったんです。地元の方々がクラフトビールに馴染みがなかったので、度数を4.3～4.5%に抑え、麦とホップと香りを重視した飲みやすいビールにしました」。そう話すのは一般社団法人ビーンズの坂野拓海さん。醸造は未経験だけれど、障害のある方々が焙煎士として成長するのを見た経験からチャレンジを決めたそう。すでに醸造士が育ち、季節のビールを含め6種類のビールを醸造中。度数0.1%未満のビールもあるから、お酒が弱い人も安心。

130
131

福祉とケアに目を向ける、一味違う読書。

Riverside Reading Clubが選ぶ、SF小説やZINEで知るケアの視点。

ikm（以下i）　SF小説は、その時々の社会の状況を反映するものだと思っていて。

Lil Mercy（以下M）　フィクショナルに社会を描くことで、翻って現実が見えてくることは多い気がします。

i　Ⓑ『残像』もそんなSF小説で、'60年代に麻疹のパンデミックによって視覚と聴覚に障害のある子供が大勢生まれたその後のアメリカが舞台。彼女たちが作ったコミューンに健常者の男が入り込むと、目が見えず、耳が聞こえない人々の社会に順応できない。

M　男ははじめコミュニケーションのとり方もわからないんですよね。発話ではなく体に触れ合う方法だから。

i　何度か読むうちにこれは社会モデルの話だと気づきました。障害は個人にあるんじゃなくて、社会のほうにあるという考え方。立場が逆転すると、健常者は社会に順応できなくなるんです。その状況は、現実に置き換えると警鐘だとも受け取れる。

M　結末がまた興味深くて、「みんなが同じ境遇じゃないと社会は成り立たないのか」と考えさせられるんですよね。

i　高齢者介護を描いた作品だと『三体』で有名な劉慈欣のSF短編Ⓐ『老神介護』。話は、突然宇宙から20億人の神様が降りてきて、「この世界を創造した労に報いて食べ物を少し分けてくれんか」と言うところから始まります。つまり「お前たちを創ったんだから面倒を見てくれ」と。

M　神様だけど、先祖とかおじいちゃんみたいなイメージですよね。各家庭で1人の神様を扶養して、国も手当を出して。

i　かわりに神様は自分たちの技術を教えてあげると言うんですが、地球の人々には高度過ぎてほとんど意味がない。だから養う見返りがなくて、神様への虐待も始まってしまう。神様も家出して。

M　極端な描写ですが、家庭における介護の問題が凝縮されている気がします。

i　特に中国は子供が親の世話をする「扶養扶助」の思想が根強く、社会を批判的に描いた側面もあるのかなと。福祉の考え方では、介護は家族だけが負うのではなく、社会で取り組む問題ですから。

M　もっと国家や自治体といった大きな単位の社会が、家族と被介護者との接続点になってケアすべきですもんね。

i　続いては写真家の金川晋吾さんが父親との関わりを書いたドキュメンタリーノベルⒻ『いなくなっていない父』。ひとり暮らしで、仕事もできず借金もある、という父を見かねて、当時大学院生の金川さんは介入を始める。これ、ある意味介護だなと。助けを求められてケアする介助と異なり、介護は保護の側面もあるわけで。そのなかの金川さんの「父親でも他人」というような言葉に「そういうことも書いていいんだ」と驚きました。

M　でもそういう生の言葉を届けないと変わることはないですよね。のみ込んじゃったら今の状態は変えられないから。

i　そう、そのリアルな言葉に救われる人がいると思うんです。自分がその立場でも、きっと思ってしまう。思い詰めるくらいなら仕事に対するのと同じトーンで愚痴りながらやってもいいと思う。

M　個人的な思いを共有するって大事ですよね。自分も、「お母さんが認知症になった」と地元に帰った友達と連絡が取れなくなったことがあって。介護の大変さは、近しい人間にも共有されない。それぞれが特殊な環境だからこそ、自分の言葉で伝えてくれるとありがたいなあと。

i　植本一子さんのⒺ『愛は時間がかかる』は、トラウマ治療を受けた3か月の記録を綴ったもの。書くことでトラウマを持っている人、治療を受けようと思っている人をケアしようという本です。自分の状況を取り繕わずに書いていて、快方に向かう姿に元気が出る。この本自体がケアになっているんです。救われる過程を読むことで救われることもあるんだなと。

M　親との関係って一律に一緒であることはない。一方で同じ部分もあるから、気づかされることは多いですよね。

i　障害者の声が読める本ではⒸ『マイノリティ先生』をぜひ。きっかけは言語障害と脳性まひがある実方裕二さんが、津久井やまゆり園のニュースを見たこと。犯人の極端な言動が繰り返し報道されるなか、障害者と接する機会の少ない子供たちがこれを聞いたら信じ込んでしまうだろうと危惧し、訪問授業を企画するんです。

M　自傷行為や発達障害、幻聴、視覚障害など、それぞれ異なる状況に置かれた人たちが、それぞれの言葉で話していく。

i　実方さんは小さい頃、言語障害に気づいてなかったらしくて。それは周りが遠慮して「聞き取りづらい」と指摘しなかったから。その状況に自分は人間として扱われてないんじゃないかと思ったそうです。これも本人の声を読まなかったら遠慮したままになって、逆に傷つけてしまっていたかもしれない。

M　例えば目が見えず道端で困っていそうな人に声をかけて「大丈夫です」と突っぱねられると、次に動きづらくなってしまう。でも視覚障害の人がみんなそうじゃないし、いろんな性格、状態の人がいるってだけなんですよね。全盲の人は外を歩くのに慣れているけど、視覚を失ったばかりの人は困ることも多いはず。めげずに声をかけるべきなんです。

i　「障がい者」と大きく括ってしまいがちですけど、みんな違うし、逆に同じところもある。とある人は発達障害があって、別の用事が気になって連絡を先延ばしにしてしまうと。その感じ自分にもあるなと思ったり。まずは個人があるんですよね。その人と社会の間に障害がある。

M　最後は小岩のライブハウス『BUSHBASH』が発行するZINEⒹ『LOST BUT NOT FORGOTTEN #2』。クラブでの性被害者の支援活動をするなか、運営などへの対応や外部からの心ない言葉に対する思いが綴られる。被害者を純粋にケアすることができない今の社会のことが書かれているように感じました。

i　SNSで告発するとバックラッシュも起こるし、リスクが大きい。手にとった人に自分のことだと思って読んでほしくて、ZINEにした意味もあると思います。

M　本やZINEのいいところですよね。考えをオンタイムでまとめて、モノとして手元に残す。それが人に伝わり、ケアに繋がっていくんじゃないかなと思います。

Ⓐ 老神介護
劉慈欣 著／KADOKAWA
ベストセラー『三体』を生んだ劉慈欣による、中国で100万部を突破したSF短編集。神文明は老年期に入り、宇宙船の生態環境も悪化。国連事務総長は老神たちの扶養を認め、20億柱の神が15億世帯に受け入れられることになった。しかし双方の関係には綻びが見え始める。同社より『神様の介護係』の名前でコミカライズもされている。

Ⓑ 残像
ジョン・ヴァーリイ 著／早川書房
経済不安に陥った1960年代のアメリカではコミューンが乱立。麻疹の流行により生まれた目も耳も不自由な人々は、独自の文化を形成し、触覚によってコミュニケーションを取っていた。彼らの子供たちは視力と聴覚があり、世代間の壁も立ちはだかる。そこに足を踏み入れた男が見たものとは。現在は絶版で短編集『逆光の夏』に収録。

Ⓒ マイノリティ先生 ～俺みたいのだっているんだぜ～
マイノリティ先生実行委員会
障害者のことを子供たちに知ってもらいたい。電動車椅子ライダー・実方裕二はその思いから訪問授業をスタート。言語障害、自傷行為、発達障害、ひきこもり、幻聴など様々な状況の人々と模擬授業を行い、YouTubeと本にまとめた。公式サイト（minoritysensei.hp.peraichi.com）でメールオーダー可。

selectors　Riverside Reading Club
ラジオ出演や執筆など多岐にわたり活動するikm（右）、ラッパーでレーベル「WDsounds」を主宰するLil Mercy（左）の所属する読書家集団。ヒップホップやソウルなどの音楽と同様に読書を楽しみ、小説からエッセイ、人文書まで幅広くカバーする。ウェブメディア『好書好日』で「BOOK GIVES YOU CHOICES」を連載中。@riversidereadingclub

ⒺⓍ 映画とヒップホップを好きな私が、公務員になった。
アキヤマ
「カルチャーの影響が進路に影響するってすごいこと。今回の選書もそんなきっかけになれば」とRRCからの追加セレクト。西荻の『BREWBOOKS』の貸本棚で『HOMIE BOOKS』を営むアキヤママリナさんが、映画や音楽に影響を受けて福祉に携わる公務員になった経緯を書いたもの。イベントや書籍のオマケとして配布中。

Ⓓ LOST BUT NOT FORGOTTEN #2
BUSHBASH
小岩のライブハウス『BUSHBASH』の店主・柿沼実が身の回りの出来事を綴るZINEの第2弾。テーマは「性暴力と被害者、その周りの人々に向けられる言葉と問題」。性被害を受けた知り合いの支援活動を通じて感じた、怒り、悲しみ、憤りを伝える。『BUSHBASH』のショップ（bushbash.thebase.in/）で購入可。

Ⓔ 愛は時間がかかる
植本一子 著／筑摩書房
写真家の植本一子が3か月間にわたって行ったトラウマ治療の記録。身近な人の挙動が気になり、大切な関係を壊してしまう自分自身を見つめなおすため、原宿のカウンセリングセンターに通い始める。過去と向き合う治療の過程を生々しく描くことで、読者の救済にも繋がる一冊。パートナーへの手紙の形式をとった筆致も心地よい。

Ⓕ いなくなっていない父
金川晋吾 著／晶文社
写真家・金川晋吾による初の文芸書。作品『father』により、失踪を繰り返す父を撮影する写真家として知られるようになった著者。「いる父」と向き合った大学院時代、ファインダーを通して父親の暮らしに介入した記録。些細な出来事を淡々とした言葉で綴るドキュメンタリーノベル。

POPEYE

福祉の現場を知りたくて。

福祉と聞いて思い浮かぶのは、高齢者の介護、障害者の支援、児童支援……ナドナド。自分とは遠いものと思いがちだったけれど、今ってもうそんなことない。現場で働く若者たちや、ワクワクするトピック、ケアを感じる瞬間を通じて、福祉について考えてみました。

WORK 01

高齢者たちが暮らす特別養護老人ホームで、生活を整える。

この場所はもうひとつの家。だからベストを叶えたい。

夕方、利用者さんが思い思いに過ごすなか、職員の加茂航平さんはキッチンで玉ねぎを切っていた。隣には車椅子の女性がいて「繊維を断つように包丁を入れるんだよ、甘くなるから」と声をかける。また一方には少しおぼつかない足取りの女性。千葉県成田市の「杜の家なりた」では、居住ユニットのキッチンで職員が献立のうちの一品を作るんだそう。この日は玉ねぎとジャガイモの味噌汁。いい香りが広がる。

「利用者さんが亡くなって、ご家庭での経験からこうしたらいいよとアドバイスをくれたり、皮むきや配膳を手伝ってくれたり。〝ノウハウを教える〟というのが、ケアに繋がってもいるんですよね」

ここは病院じゃなくて家。だから個室には使い込んだ家具があるし、みんなが集まる大きなキッチンがある。毎日をその人らしく暮らしてほしいと加茂さんは願う。

「誰もが最後は住み慣れた場所で……と思うはず。それがもしここならば、全力で後押しするのが僕らにできることだと思うんです。楽しさも喜失感もありますが、不思議と達成感もある。ご家族の方がありがとうございますと言ってくれると、本人も家族も自分も、満足したケアができて送り出せたんだなと思えるんですよ」

プロフィール

加茂航平

かも・こうへい｜1999年、埼玉県生まれ。社会福祉士。大学で福祉を学び、卒業後に福祉業界に入職。「杜の家なりた」に配属される。仕事中は《ナイキ》を着ることが多め。通称レッズ、西武ライオンズ、Mr.Childrenのファン。

WORK 02

団地の空き部屋を使った、地域に根ざしたホームで、高齢者に寄り添う。

「今」を大事に団地から海へ。地域密着型介護のかたち。

https://popeyemagazine.jp/post-181646/

ananとPOPEYEのタイアップ記事を1冊にしたオリジナル冊子を制作・配布！

「ananのタイアップ記事8ページ」と「POPEYEのタイアップ記事8ページ」をまとめた16ページを1冊にしたオリジナル冊子を制作。
この冊子は、anan FESや展示会に参加いただいた方への配布に加え、全国の書店で若年層にターゲティングしたサンプリングを実施した。

渋谷ストリームでの配布

anan FES.開催、展示会開催の時期と合わせて、会場となる渋谷ストリーム館内及び渋谷スクランブルスクエアにて配布。来館が多い若年層をメインに配布し、介護のしごとへの理解を深めた。

配布方法｜各イベント時・会計時に手渡し配布・ラック設置
配布数量｜1,000部
配布時期｜2023年11月11日～12月12日

全国の書店でサンプリング

全国の書店にて、雑誌・書籍の購入者を対象として、制作した冊子をレジ袋に同梱する形で配布。ターゲットのセグメントを実施し、若年層を中心に介護のしごとを訴求した。

配布方法｜会計時に手渡し配布
配布数量｜10,000部
配布時期｜2023年11月～

内訳：BOOK1st/5,000部・LIBROグループ/5,000部）

福祉をたずねるクリエイティブマガジン「ここここ」による連載記事展開

2021年4月にスタートしたマガジンハウスのウェブマガジン【福祉をたずねるクリエイティブマガジン「ここここ」】は、福祉・介護の現場、関わる人、当事者の方々をたずねながら、記事を制作、発信している。この「ここここ」で『介護のしごと』をテーマにした連載記事を全15回展開した。

Theme

“自分らしく生きる”を支えるしごと

– 介護の世界をたずねて –

https://co-coco.jp/series/nursing/

この社会のなかで、わたしたちはなにを大切にして、どう生きていけばいいのでしょうか。

そんな大きな問いを抱え、本連載でたずねるのは「介護の世界」です。「介護」というと、漠然と「家族介護」「思いやり」「3K」などのイメージが抱かれることも少なくありません。しかし実際には、一人ひとりの状況や経験に耳を傾け、心身の変化に寄り添い、それぞれの権利を守ろうと奔走してきた経験が宿る魅力的な分野です。また、社会構造が抱える問題に向き合い、地道に改善を重ね、科学的見地からも方法論を模索してきた領域でもあります。

「自分らしく生きる」「多様な個性を尊重する」。近年、そんな言葉を目にする機会は増えていますが、高齢者に限らず、どんな人もそれを実現するのは簡単ではありません。本連載では、介護施設の実践やそこで働く人、ケアや老いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」をたずねながら、この社会で生きるすべての人に関わりの深い、「自分らしく生きる」ことについて考えてみます。介護の世界の「自分らしく生きる」を支える人、仕事、ふるまい、まなざし、葛藤に、出会ってみませんか。

ここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

#01 【施設訪問】　自分らしく生きるってなんだろう？
一人ひとりの人生に向き合う介護事業所「あおいけあ」をたずねて／株式会社あおいけあ（神奈川）

#02 【施設訪問】　さまざまな命に囲まれて、心を動かして生きる。
園芸療法を行う「晴耕雨読舎」をたずねて／NPO法人たかつき（大阪）

#03 【スタディ】　ケアってなんだろう？ナイチンゲール看護研究所・金井一薫さんをたずねて

#04 【施設訪問】　居心地の良い場所の条件ってなんだろう？
浦安にある高齢者向けの住まい「銀木犀」をたずねて／株式会社シルバーウッド（千葉）

#05 【施設訪問】　いくつになっても「働く」は楽しい。
ばあちゃんたちの生きがいとビジネスの両立を目指す、株式会社うきはの宝をたずねて／うきはの宝株式会社（福岡）

#06 【施設訪問】　介護施設×学生シェアハウス「みそのっこ」が教えてくれる、「介護×場づくり」の可能性／株式会社ゆず（広島）

#07 【施設訪問】　自然の循環に身を委ね、大地と共に生きる。「里・つむぎ八幡平」が実践する「半農・半介護」の暮らし
／特定非営利法人 里・つむぎ八幡平/一般社団法人すばる（岩手）

#08 【カルチャー】　「ケア」を感じたマンガを教えてください。文学研究者、精神科医、看護師、介護福祉士、文筆家の選ぶ5作品

#09 【施設訪問】　居場所ってなんだろう？「新発想の施設建築」をたずねて／有限会社オールフォアワン（千葉）

#10 【カルチャー】　「老いと共に生きる」を映画から考える。編集者、映画作家、介護福祉士、福祉施設運営者の選ぶ5作品

#11 【施設訪問】　科学的な介護ってなんだろう？ 福祉楽団「杜の家なりた」をたずねて／社会福祉法人 福祉楽団（千葉）

#12 【カルチャー】　暮らしのなかで閉じる命をつないでいく 写真家／訪問看護師 尾山直子さん

#13 【カルチャー】　認知症のある方100人以上にインタビューをして気づいたこと。／認知症未来共創ハブ代表・堀田聰子さん

#14 【スタディ】　認知症を“体験”する「VR認知症」。イシヅカユウさんと体験して気づいたこと／株式会社シルバーウッド

#15 【スタディ】　介護のしごとに興味をもったとき、はじめの一歩はどうすれば？ ／株式会社Blanket

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
01
2023.10.11

自分らしく生きるってなんだろう？ 一人ひとりの人生に向き合う介護事業所「あおいけあ」をたずねて

「自分らしさ」とは、なんだろう。 強みや得意を活かせていること？ 自然体でいられること？ 自分の価値観を大切にできていること？「命ある限り自分らしく生き、一人の価値のある人間として存在する」という願いを支える介護施設「あおいけ…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/aoicare/

「自分らしさ」とは、なんだろう。 強みや得意を活かせていること？ 自然体でいられること？ 自分の価値観を大切にできていること？

いろいろと考えつく中で確かだと思うのは、何かひとつの側面や単純な要素が「自分らしさ」を規定するのではなく、複雑な要素が絡まり合って自分という存在はできていることだ。

育ってきた家庭環境、出会ってきた人々、趣味嗜好、安心できる場所、辛かったことや楽しかったこと。どれもが「わたし」を作り上げている大切な要素で、それらによって「自分らしさ」が育まれている。できることなら、そんな「自分らしさ」を大切にしながら生きていたい――。

しかし、実際に今の社会では、それを貫き通すことは簡単ではないとも思う。「こうあるべき」というような規範やルールが先にあって、そこに個人の生き方を合わせていかなければいけない場面に出くわすことも多いからだ。

そんな中で、「命ある限り自分らしく生き、一人の価値のある人間として存在する」という思いのもとに介護事業所を運営している会社を知った。歳を重ねても、認知症になっても、以前より体に自由がきかなくなっても、最後の最後まで自分らしく生きることを何よりも大切にしている場所。

それが、神奈川県の湘南エリアで複数の介護事業所を運営している「株式会社あおいけあ」だ。あおいけあでは、どのように出入りする人たちの「自分らしさ」を大切にしているのだろうか？

運営している2つの小規模多機能型居宅介護（※注1）「おたがいさん」「おとなりさん」とおたがいさんのサテライト「いどばた」、グループホーム「結」を案内いただきながら、代表の加藤忠相（かとう・ただすけ）さんに話を聞いた。

※注１：訪問、通い、泊まりなど、利用者それぞれの状態に合わせた介護サービスが受けられる施設。通称「小多機」。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
02
2023.10.30

さまざまな命に囲まれて、心を動かして生きる。園芸療法を行う「晴耕雨読舎」をたずねて

なるべく選択肢を奪わず、それぞれの「やりたいこと」「できること」を探究する、高齢者のための施設が大阪府高槻市にある。NPO法人たかつきが運営するデイサービス「晴耕雨読舎」だ。園芸療法を実践する同施設をたずね代表理事の石…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/takatsuki/

誰だって、自由を奪われるのは嫌だ。たとえ昨日の記憶があいまいになっても、今日の過ごし方がわからなくても、明日の予定が立てられなくても、選択肢は多いほうがいい。

なるべく選択肢を奪わず、それぞれの「やりたいこと」「できること」を探究する、高齢者のための施設が大阪府高槻市の山麓にある。NPO法人たかつきの運営するデイサービスセンター晴耕雨読舎（以下、晴耕雨読舎）は、日本でも数少ない園芸療法を実践する福祉施設だ。園芸療法とは、草花や野菜、自然とのかかわりから心身の回復・改善を行う取り組みのこと。1950年代に欧米ではじまり、日本でも医療や福祉などの領域で実践されている。

農園芸や大工仕事を通じて提案される自立支援のあり方や、「生きがい」とは何かについて、代表理事の石神洋一（いしがみ・よういち）さんに話をきいた。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
03
2023.10.31

ケアってなんだろう？ ナイチンゲール看護研究所・金井一薫さんをたずねて

「セルフケア」「ヘアケア」「ハウスケア」など、社会のあちこちに浸透してきた「ケア」という言葉。看護や介護における行為や、「ケアワーカー」「ケアマネジャー」といった職業なども含め幅広いこの言葉を、私たちはどう捉えたらいいのか？ 職...

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/care/

「ケア」という言葉を聞いて、なにを想像するだろう。

自分を大切にする文脈で使われる「セルフケア」、髪や肌の手入れを示す「ヘアケア」や「スキンケア」、身の回りのものに対して使う「ハウスケア」や「カーケア」……。そうした広く社会へ浸透してきた言葉を思い浮かべる人もいれば、看護や介護の領域で日々実践されている行為や、「ケアワーカー」「ケアマネジャー」といった職業にまつわる単語を連想する人もいるだろう。

幅の広さも奥行きもある「ケア」という言葉は、使う人、文脈、分野が異なると、具体的な意味や定義も変わってくるはず。私たちは、広がりゆくこの言葉にどう向き合っていけばいいのだろうか？

そんな問いをもって、今回たずねたのが〈ナイチンゲール看護研究所〉所長の金井一薫さん。金井さんは、職業としてのケアワークの確立に大きく貢献した、イギリスのフローレンス・ナイチンゲール（1810～1920）の研究者だ。

「ナイチンゲールの思想には『ケアの原形』があります。そこに立ち戻ることで、今さまざまな形で行われているケアの本質が見えてくると思っているんです」

そう語る金井さんに、そもそも「ケア」とはなにか、また「いいケア」があるとすれば一体どのようなものなのかを伺った。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
04
2023.11.07

居心地の良い場所の条件ってなんだろう？ 浦安にある高齢者向けの住まい「銀木犀」をたずねて

自分にとって「居心地のいい場所」を見つけることは人生においてかなり大きな意味を持つ。私たちはどんな場所なら「居心地がいい」と感じるのだろう？そんな問いをもち千葉県浦安市にあるサービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」をたずねた。

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/silverwood/

「ストレス社会」という言葉を初めて聞いたのはいつだったろう。今ではすっかり日常的な言葉になった。むしろ最近は誰もがストレスを抱えているのが当たり前で、心の片隅に小さな棘のようなものを秘めながらうまくやり過ごしていくことが大前提になっているような気さえする。

そんな時代だからこそ、自分にとって「居心地のいい場所」を見つけることは人生においてかなり大きな意味を持つ。そこでただくつろぐだけでもいいし、家事や趣味に没頭してもいい。おいしいものを食べながら気の置けない人たちと笑いあったり、たまには愚痴をこぼしたり。

そんな些細なことの連続が人をなんだか元気にしてくれることを、私たちは経験則として知っている。自宅であれ、外であれ、どこかに「居心地のいい場所」があって、そこで充実した時間を過ごすことが人生には大切なのだ。

では、自分が年齢を重ねて自宅で暮らすことや近所への外出さえままならなくなったとき、私たちはどんな場所なら「居心地がいい」と感じるのだろう？

人生の終盤を過ごす大切な場所――外出の機会が減って、ほとんどの時間をそこで過ごすならなおさらその空間は居心地が重視されるべきだと思うけれど、現実には「危ないから」「人手が必要だから」「コストがかかるから」といった事情もある。ケアを必要とする立場になったとき、生活の場に居心地の良さを求めるのは贅沢なんだろうか。

今回、私たちが訪ねた千葉県浦安市の「銀木犀」は、サービス付き高齢者向け住宅としては少々型破りで、だからこそ入居者の多くがそこで暮らすことに喜びを感じ、日に日に元気に、活動的になっていくという不思議な場所だった。居心地が良すぎて「ここにずっといたい」「ここで最期を迎えたい」と入居者が願う、その魅力を紹介したい。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
05
2023.11.10

いくつになっても「働く」は楽しい。ばあちゃんたちの生きがいとビジネスの両立を目指す、株式会社うきはの宝をたずねて

75歳から93歳の18人がさまざまな働き方でかかわる会社「うきはの宝」。福岡県うきは市にある事務所を訪ね、大熊さんと3人のばあちゃんに話を聞いた。

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/ukihanotakara/

日本は、驚くほどの勢いで超高齢社会が進んでいる。現在、総人口に占める65歳以上の人口の割合は29%。2070年には、75歳以上が総人口の約4人に1人になると予想されている（内閣府『令和5年版高齢社会白書』）。

物価高に寿命が伸びたこと……さまざまな要因が相まって、高齢者の生活は金銭的にも精神的にも、なかなか厳しい。では、社会やいつか高齢者になるわたしたちは、この状況にどのように向き合っていけばいいのだろう。

「もう、保護では間に合わない」と話すのは、株式会社うきはの宝の代表である大熊充（おおくま・みつる）さん（43）。本気で稼ぐことを目指しながら、地域の高齢者と働く会社を立ち上げた。現在、75歳から93歳の18人がさまざまな働き方でかかわっている。

若者が立ち上げた会社で高齢者が働くとは、どういう現場なのか。福岡県うきは市にある事務所を訪ね、大熊さんと3人のばあちゃんに話を聞いた。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
06
2023.11.29

介護施設×学生シェアハウス「みそのっこ」が教えてくれる、「介護×場づくり」の可能性

「介護施設と学生シェアハウスを融合させた場所を、取材してみませんか？」広島県東広島市にある介護施設と学生シェアハウスの複合施設「みそのっこ」をたずねました。

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/yuzzuco2/

「介護施設と学生シェアハウスを融合させた場所を、取材してみませんか？」

そんな相談がきたとき、正直イメージが湧かなかった。

「介護施設」と聞いて僕が頭に浮かんだのは、白い壁、消毒のにおい、テレビをぼーっと眺めるおじいさん、おばあさんたちの姿。今はもう亡くなった祖母が入っていた施設を訪れたときの、ちょっと寂しげな光景が記憶に残っていた。

介護施設のイメージが「寂しげ」なら、学生シェアハウスのイメージは「楽しげ」だった。僕のなかで対極のイメージを持つふたつが、まざりあう。そんなこと、本当に可能なんだろうか？

半信半疑で、取材を引き受けることにした。そのときの僕は、介護の、そして「介護のある場づくり」のイメージが、今回の取材を通して大きく変わることを、まだ知る由もなかった。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
07
2023.12.06

自然の循環に身を委ね、大地と共に生きる。「里・つむぎ八幡平」が実践する「半農・半介護」の暮らし

岩手県八幡平市にある「NPO法人 里・つむぎ八幡平」。「半農・半介護」を合言葉に、高齢者や障害のある人が「農業と共にある暮らし」を送ることができる環境を育んでいる。なぜ農業と介護をつなげようと思ったのか。理事を務める高橋さん…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/s-tumugi/

何歳になっても旬の野菜や果物を食べ、季節の変化を五感で味わいながら暮らしたい。

岩手山のふもと、八幡平市に、そんなシンプルで普遍的な“日常の楽しみ”を大切にしながら人々が共生する福祉の里がある。

「里・つむぎ八幡平」は小規模多機能型居宅介護（※注1）、デイサービスといった介護施設、そして就労継続支援B型作業所、障害者グループホームを有する場。お米やとうがらし、ニンニクなどを育てる「すばるファーム」が隣接し、四季の移り変わりや命の循環を感じられる自然体の生活が営まれている。

※注1：訪問、通い、泊まりなど、利用者それぞれの状態に合わせた介護サービスが受けられる施設。通称「小多機」。

ここでは「半農・半介護」を合言葉に、高齢者や障害のある人が、農業と共にある暮らしを送ることが大切にされている。農業と介護。この二つはどのように結ばれ、また利用者の暮らしにどのような彩りをもたらしているのだろう。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
08
2023.12.13

「ケア」を感じたマンガを教えてください。文学研究者、精神科医、看護師、介護福祉士、文筆家の選ぶ5作品

小川公代さん、星野概念さん、木村映里さん、冨永新さん、ヒラギノ游ゴ(ヒラノ遊)さんに、「これは『ケア』かもしれない」と感じた漫画作品をご紹介いただきました。多様な登場人物が織りなすストーリーに立ち現れる、人から人へ馳せる想い―…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/care_comic/

身の回りの誰か、あるいは自分自身が、“その人らしく”生きていくために。そばにいる人ができることは何でしょうか。

「ケア」について研究する〈ナイチンゲール看護研究所〉の金井一薫さんは、専門家（ケアワーカー）による本質的な関わり方が重要としながら、同時に「多様な人がケアの視点を持つこと」の大切さにも触れています。その視点を育んでいくきっかけの一つとして、編集部は今回、身近にある「マンガ」に注目しました。

「これは『ケア』かもしれない、と感じた作品を教えてください」。そんなお願いをしたのは、研究者から医療、介護の現場にいる方まで、独自の視点を持つ5名の方々です。

vol.
09
2023.12.20

居場所ってなんだろう？ 人が自然と集まる場所を目指す「52間の縁側」をたずねて

自分の居場所だと感じられるところはあるだろうか？ それはどんなところだろう？そんな思いを抱いて訪ねたのは、千葉県八千代市にある「52間の縁側」。運営するのは、「ありのまま、その人らしく過ごす」ことを大切にして、介護事業を行ってき…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/ishiisanchi/

自分の居場所だと感じられるところはあるだろうか？ それはどんなところだろう？

好きなことができる場所、気心の知れた人がいる場所、くつろげる場所、生活の場など、居場所に求める条件は人それぞれだ。だけど、どんな場所にも共通して言えるのは、自然体でいられて、自分が受け入れられていて、「ここにいていいんだ」と安心できることのような気がする。そう考えると、自分の居場所を見つけるのは意外と、いやかなり難しいことなのかもしれない。

そんな思いを抱いて訪ねたのは、千葉県八千代市にある「52間の縁側」。いろいろな人にとっての「サードプレイス」になることを目指して建てられた施設で、常識にとらわれないデザインとコンセプトが評価され、2023年度のグッドデザイン大賞を受賞している。

運営するのは、「ありのまま、その人らしく過ごす」ことを大切にして、介護事業を行ってきた「有限会社オールフォアワン」。代表の石井英寿（いしい・ひでかず）さんはどんなふうに人の「居場所」を捉えているのか。のどかな里山の中にたたずむ、子どもの秘密基地のような建物を訪ね、いろいろな話を聞いてきた。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
10
2024.02.08

「老いと共に生きる」を映画から考える。編集者、映画作家、介護福祉士、福祉施設運営者の選ぶ5作品

伊藤ガビンさん、久保田翠さん、多田智美さん、牧原依里さん、矢尾眞理子さんに、「老いと共に生きる」をテーマにした映画を選んでいただきました。古今東西の、さまざまな人生が映しだされた作品の中には、老いの可能性を広げてくれるヒント…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/aging_movie/

“老い”という言葉から、みなさんは何を思い浮かべますか？

「誰もが年をとり、老いていく」とわかっていても、訪れていない自分の未来を想像することは難しいものです。高齢化の進む社会にあって、老いにまつわる情報はさまざまに飛び交っていますが、ネガティブな話題も少なくなく、うまく向き合えないと感じている人もいるかもしれません。

今回、編集部が目を向けたのは、私たちに身近な「映画」。古今東西の、さまざまな人生が映しだされた作品の中には、老いの可能性を広げてくれるヒントがあるのでは——そんな思いで、クリエイターや福祉関係者など5名に「老いと共に生きる」をテーマにした作品を選んでいただきました。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
11
2024.02.19

科学的な介護ってなんだろう？ 福祉楽団「杜の家なりた」をたずねて

「介護の仕事って、“やさしさ”や“思いやり”といった情緒的なイメージで語られることが多いんです。でも、それだけでは良い介護は実現できません」そう話すのは、社会福祉法人 福祉楽団の代表・飯田大輔さん。福祉楽団では、介護の実践…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/gakudan/

「介護の仕事って、“やさしさ”や“思いやり”といった情緒的なイメージで語られることが多いんです。でも、それだけでは良い介護は実現できません」

そう話すのは、社会福祉法人 福祉楽団の代表・飯田大輔さん。福祉楽団は、千葉県と埼玉県を中心に、高齢者介護や子ども支援、障害者支援や農林業など、多分野にわたる福祉サービスを展開している法人だ。

飯田さんの言葉を聞いて思わずハッとした。私自身が介護に対してまさに「人のため」とか「個性を尊重する」というイメージばかりを抱いていたからだ。

福祉楽団では、介護の実践に際して「科学的な介護」という言葉をとても大事にしている。「科学」とは、私たちが持つ介護のイメージとはずいぶんとかけ離れているように思えるが、一体どういうことなのだろう？

そんな問いをたずさえて、福祉楽団が運営する「杜の家なりた」の特別養護老人ホームをたずねた。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
12
2024.02.20

暮らしのなかで閉じる命をつないでいく 写真家／訪問看護師 尾山直子さん

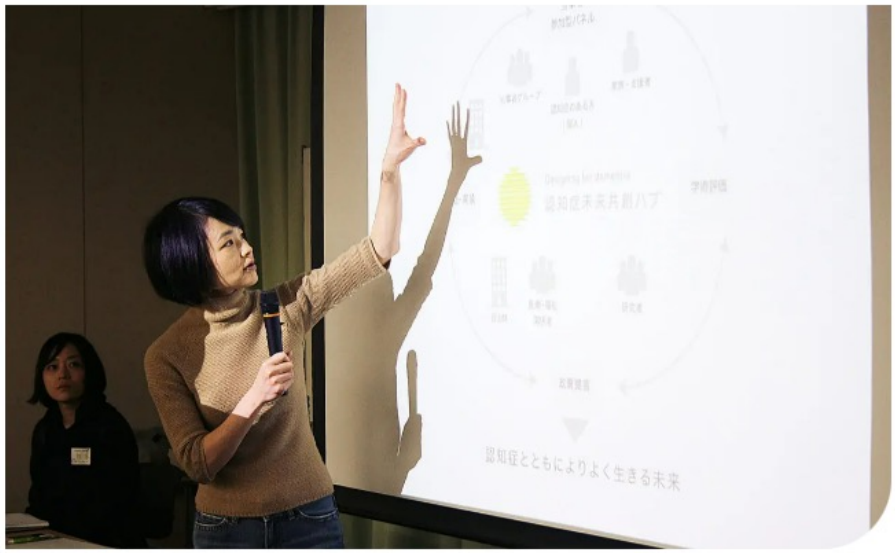
東京・世田谷にある桜新町アーバンクリニックで訪問看護師として働く尾山直子さんは、写真家としても活動している。看護師としてのキャリアは20年ほど。働きながら写真を学び、2021年には初の個展『ぐるり。』を開催。写真と文で構成し…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/naokooyama/

東京・世田谷にある桜新町アーバンクリニックで訪問看護師として働く尾山直子さんは、写真家としても活動している。看護師としてのキャリアは20年ほど。働きながら写真を学び、2021年には初の個展『ぐるり。』を開催。写真と文で構成した展覧会は、地元世田谷をはじめ軽井沢、神戸、名古屋など各地に巡回した。

尾山さんは、なぜ看護師をしながら写真を撮るのだろうか。背景の一つには多くの看取りの経験がある。その人にとって最良の過ごし方や別れのかたちを考える尾山さんが、写真を通して伝えたいこととは。



vol.
13
2024.02.22

認知症のある方100人以上にインタビューをして気づいたこと。認知症未来共創ハブ代表・堀田聰子さん

認知症のある人から、世の中はどう見えているのだろう？高齢化が進み、身近になった認知症。発症すれば、生活や仕事に支障があることは想像できる。けれど、具体的に何がどう難しいのか、どんなサポートがあればその困難を解消できるのか…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/satokohotta/

認知症のある人から、世の中はどう見えているのだろう？

高齢化が進み、身近になった認知症。発症すれば、生活や仕事に支障があることは想像できる。けれど、具体的に何がどう難しいのか、どんなサポートがあればその困難を解消できるのか、当事者の視点でとらえられている人は多くはないかもしれない。

2021年に発売された書籍『認知症世界の歩き方』は、それまで医療や介護の専門家から語られることが主だった認知症の症状について、“本人の視点”で“具体的”に示したことで、大きな反響を呼んだ。

認知症のある方へのインタビューをもとにした分析データの提供・本の監修を手掛けたのは、認知症とともによりよく生きる未来を目指すプラットフォーム「認知症未来共創ハブ」。

代表を務め、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授でもある堀田聰子さんに、「認知症未来共創ハブ」の活動で大切にしてきた視点、認知症のある多くの方へのインタビューを通して得た気づきについて、寄稿いただいた。（こここ編集部）

vol.
14
2024.02.27

認知症を“体験”する「VR認知症」。イシヅカユウさんと体験して気づいたこと

認知症の症状を一人称で体験し、理解を深める体験学習型プログラム「VR認知症」。ファッションモデル・俳優として活動するイシヅカユウさんと取材チームが体験し、それぞれが感じ気づいたこととは

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/angleshift_yuishizuka/

ゴーグルをはずしたあと、しばらく呆然としてしまった。

目の前には、「VR認知症」の取材のために訪れた、都内某所にあるスタジオの風景が広がっていた。

「認知症の症状を一人称（本人視点）で体験し、理解を深める体験学習型プログラム」。そう事前に聞いていて、不安半分、たのしみ半分で来たのだけれど……正直、「一人称体験」のことを、甘くみていた。

不安になり、怒りがわき、ほっとする。VRコンテンツを通じ「一人称の体験」をしたことで、おおげさにいえば、世界の見え方がすこし変わった気がした。「一人称の体験」は、他者と共に生きる世界への入り口だったのだ。

こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」

vol.
15
2024.03.12

介護のしごとに興味をもったとき、はじめの一歩はどうすれば？

介護のしごとに興味はある。でも、いきなり本格的に働きはじめるのはハードルが高い。そんなとき、お試しできたり、さらに情報を得たり、深く知ったりできる場所はどこにあるのだろう。インターネットで検索してみると、求人募集や転職サイトの…

記事を読む →

https://co-coco.jp/series/nursing/firststep/

介護のしごとに興味はある。でも、いきなり本格的に働きはじめるのはハードルが高い。そんなとき、お試しできたり、さらに情報を得たり、深く知ったりできる場所はどこにあるのだろう。

インターネットで検索してみると、求人募集や転職サイトの情報が多く出てくる。その情報もありがたいのだけれど、それとは違う形で考えたり感じたりできる場所を探すのは難しい。

この記事では、「本格的に働くより少し手前」で、介護のしごとや世界を知ることができる情報をご紹介します。

若い世代の新しい働き方を提案する「日本仕事百貨」とコラボイベント！

日本仕事百貨は、若い世代を中心に、これからの仕事との関わり方、作り方、生き方を発信しながら、具体的なリクルーティングを促進する活動を行っています。本事業では、さまざまな分野で活躍している方をゲストとしてお招きし、お酒を飲みながらゲストと一緒に会話する日本仕事百貨のイベント「しごとバー」と「ここここ」がコラボレーションし、リアルとオンラインのハイブリット開催で5ヶ月連続開催。全5回にわたり「ケア」や「人を支える」「自分らしく生きる」などのテーマに関心のある生活者に向け、介護のしごとのリアルとクリエイティビティを発信した。ここここ連載記事で訪ねた施設や仕事の現場のスタッフをゲストに、日本仕事百貨を主催するナカムラケンタさん、ここここ編集長・中田一会／編集部・垣花つや子をナビゲーターに「介護のしごと」の可能性や具体的なやりがいについてトーク。

イベントシリーズ全５回
「ケアするしごとバー」

目次

- マガジンハウス〈ここここ〉× 日本仕事百貨〈しごとバー〉の合同企画！
- #01 田中伸弥さん「ライフを学び合う場所」(11/15)
- #02 佐々木将人さん「“ケアする仕事”の正直な話」(12/5)
- #03 菅原直樹さん「介護×演劇でおきるミラクル」(12/12)
- #04 尾山直子さん「老いと死に伴走する」(1/17)
- #05 森近恵梨子さん「商店街に居場所を！」(2/14)

https://co-coco.jp/series/event/shigotobar/

#01 田中伸弥さん「ライフを学び合う場所」(11/15)

ライフを学び合う場所 -世代を超えて、福祉でつながる-

- 日時:2023年11月15日 (水) 20:00-21:00
- 会場:リトルトーキョー(江東区三好1-7-14) / YouTube
- 参加費:無料　※リアル会場はワンドリンク制
- ゲスト:田中伸弥(社会福祉法人ライフの学校 理事長)
- 聞き手:中田一会(こここ編集長)、ナカムラケンタ(日本仕事百貨)

田中伸弥さんは、特別養護老人ホームやデイサービスセンター、相談支援センター、障害や難病のある方の就労支援の場など、他にもさまざまな福祉サービス・施設の拠点を「キャンパス」と呼び、学びあいの場としての施設全体に「ライフの学校」と名付けた社会福祉法人を運営しています。命や暮らし、人生についての大切なことを考える場づくりについて、お話を聞いていきます。

会場参加数：22名　オンライン参加数：37名
https://www.youtube.com/live/0dbjqZCjB6A?si=dboJlhJeNmF4tHf_

ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」

ここここ×しごとバー “ケアするしごとバー”

#01 田中伸弥さん「ライフを学び合う場所」

ご参加者さまアンケート

本日は『ここここ×しごとバー』「ライフを学び合う場所」-世代を超えて、福祉でつながる-にご参加いただき誠にありがとうございます。今後の企画の参考とさせていただくいため、アンケートのご協力をお願いいたします。

Q1 ご参加いただいたきっかけを教えてください。

○ 日本仕事百貨の告知を見て　○ ここここの告知を見て
○ 友人・知人の紹介　○ その他（　　）

Q2 ご参加方法を教えてください。

○ 会場参加　○ オンライン参加

Q3 「ライフを学び合う場所」に参加してみていかがでしたか？

○ 満足　○ やや満足
○ やや不満　○ 不満

Q4 ご参加いただく［以前］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）　（どちらでもない）

Q5 ご参加いただいた［後］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）　（どちらでもない）

Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか？（複数回答）

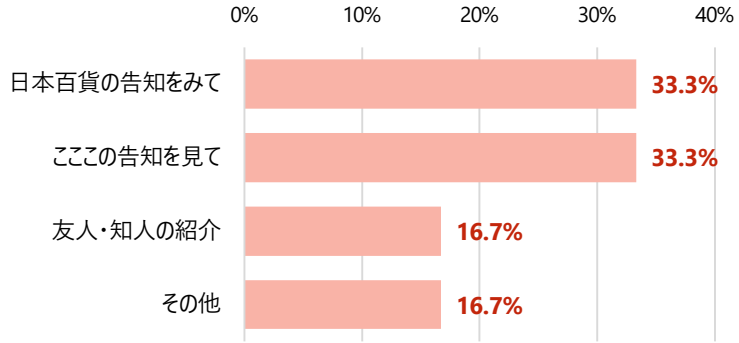
○ 介護のしごとに興味を持った　○ 自身の仕事として検討してみたいと思った
○ 介護のしごとをもっと知りたいと思った　○ その他（　　）

Q7 ここここ×しごとバー「ライフを学び合う場所」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

年　代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
お住まい	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他（　　）		
ご職業	福祉介護関連	会社員	自治体・行政職員				
	学生（ 高校/専門学校 / 短大 / 大学・大学院 ）	その他（　　）					

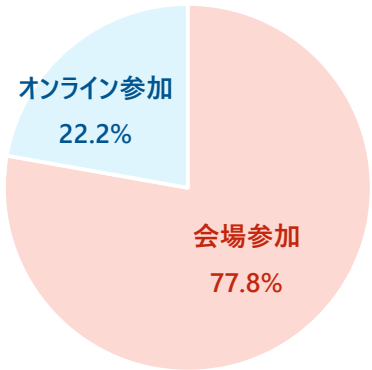
ご協力ありがとうございました

Q1 ケアするしごとバー「ライフを学び合う場所」にご参加いただいたきっかけを教えてください。（n=6）

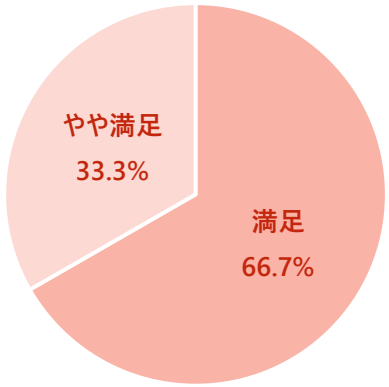


その他：　Peatix

Q2 ご参加方法を教えてください（n=6）

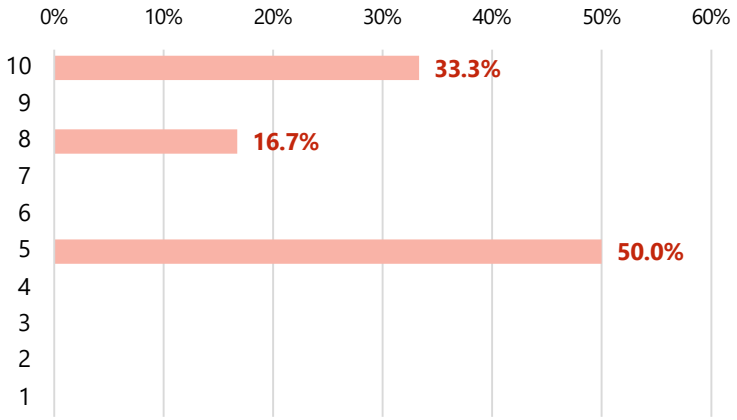


Q3 「ライフを学び合う場所」に参加してみていかがでしたか？（n=6）



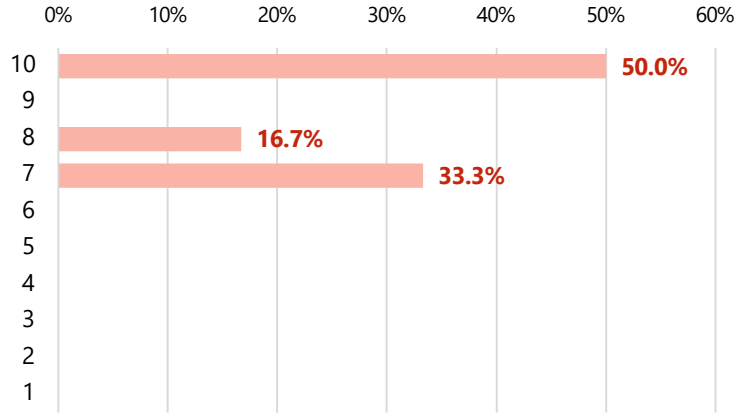
Q4 ご参加いただく【以前】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=6）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）

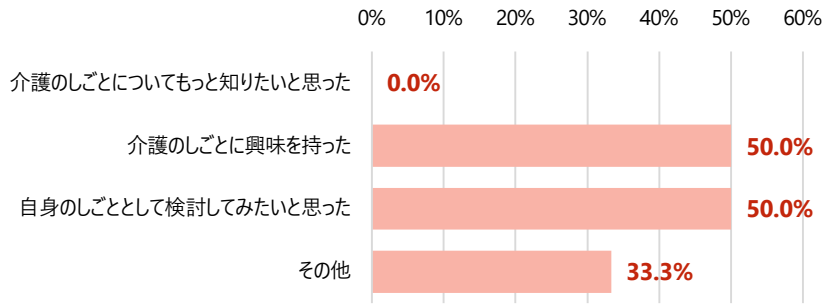


Q5 ご参加いただいた【後】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=6）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）



Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか（n=6）



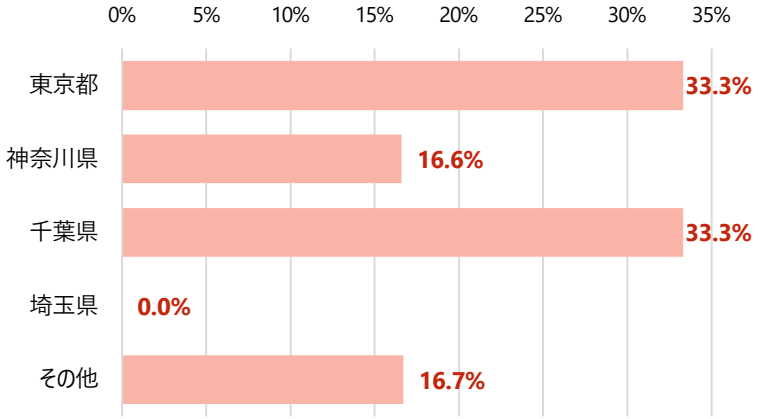
その他

- 家族介護者でもあり、介護職でもあり、いろんな矛盾やバランスに悩むことが多く。田中さんのお話を伺って、こういう方と一緒に仕事をやっていきたい！と強く感じました
- 親を10年以上自宅介護していて、介護職はなくてはならないと自覚しています。しかし気軽な感覚で介護職に就きたいとは思いません。

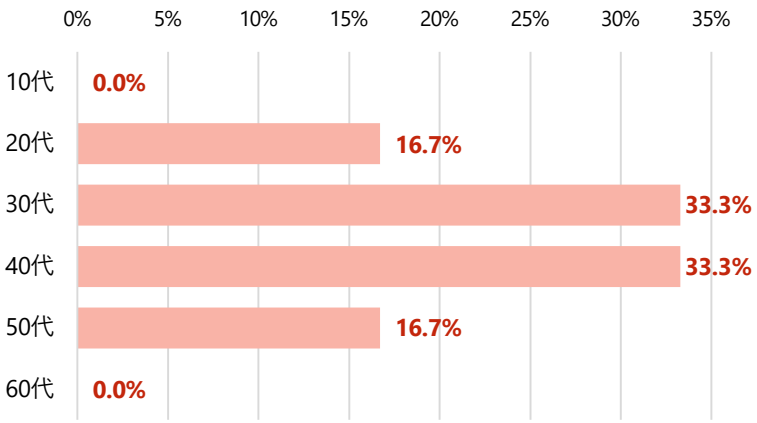
Q7 ケアするしごとバー「ライフを学び合う場所」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（n=4）

- これからの「ケア」シリーズ、楽しみにしています。現地参加もしてみたいです。
- とても興味深い内容で短い時間でしたが考えさせられることばかりでした。今後もこのような機会があれば参加したいと思います。
- 介護自体に興味がない人にもっと聞いていただきたいです。
- 介護職として働いていており、介護現場の課題や共感する部分が多くありました。また機会があれば以降のイベントも参加したいと思います。

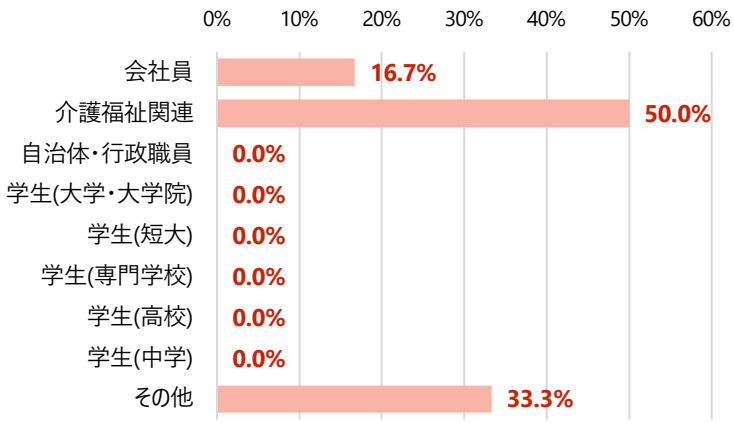
Q9 お住まいの都道府県をお聞かせください。（n=6）



Q8 年代をお聞かせください。（n=6）



Q10 ご職業をお聞かせください。（n=6）



#02 佐々木将人さん「“ケアする仕事”の正直な話」(12/5)

“ケアする仕事”の正直な話 -はたらくリアル、つながる楽しみ-

- 日時:2023年12月5日 (火) 20:00-21:00
- 会場:リトルトーキョー(江東区三好1-7-14) / YouTube
- 参加費:無料 ※リアル会場はワンドリンク制
- ゲスト:佐々木将人(株式会社Blanket　コミュニティーマネージャー / ワークショップデザイナー)
- 聞き手:中田一会(こここ編集長)、中野頌子(日本仕事百貨)

組織や地域を超え、“介護”に関心のある仲間が集うオンラインコミュニティ「KAIGO LEADERS“SPACE”」のコミュニティーマネージャーをしている佐々木将人さん。同時に、診療同行セラピストとして医療現場にも立ち続けています。二足のわらじで働く佐々木さんだからこそ、語れる話があるはず。「ケアする仕事」との関わり方を一緒に考える時間にしたいです。

会場参加数：14名　オンライン参加数：48名
https://www.youtube.com/live/b9AyAjN_80s?si=5ZwHF1qZ7vXiEFsX

ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」

ここここ×しごとバー　“ケアするしごとバー”

#02佐々木将人さん「“ケアする仕事”の正直な話」

ご参加者さまアンケート

本日は『ここここ×しごとバー』「“ケアする仕事”の正直な話」-はたらくリアル、つながる楽しみ-にご参加いただき誠にありがとうございます。今後の企画の参考とさせていただくいため、アンケートのご協力をお願いいたします。

Q1 ご参加いただいたきっかけを教えてください。

○ 日本仕事百貨の告知を見て　○ ここここの告知を見て
○ 友人・知人の紹介　○ その他（　　）

Q2 ご参加方法を教えてください。

○ 会場参加　○ オンライン参加

Q3 「“ケアする仕事”の正直な話」に参加してみていかがでしたか？

○ 満足　○ やや満足
○ やや不満　○ 不満

Q4 ご参加いただく［以前］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）　（どちらでもない）　（悪い）
10　9　8　7　6　5　4　3　2　1

Q5 ご参加いただいた［後］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）　（どちらでもない）　（悪い）
10　9　8　7　6　5　4　3　2　1

Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか？（複数回答）

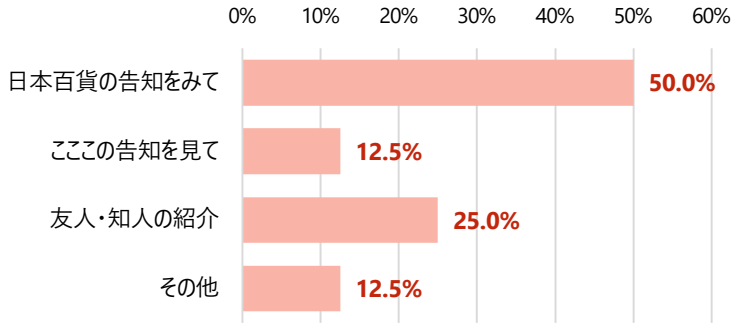
○ 介護のしごとに興味を持った　○ 自身の仕事として検討してみたいと思った
○ 介護のしごとをもっと知りたいと思った　○ その他（　　）

Q7 ここここ×しごとバー「“ケアする仕事”の正直な話」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

年　代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
お住まい	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他（　　）		
ご職業	福祉介護関連	会社員	自治体・行政職員				
	学生（ 高校/専門学校 / 短大 / 大学・大学院 ）	その他（　　）					

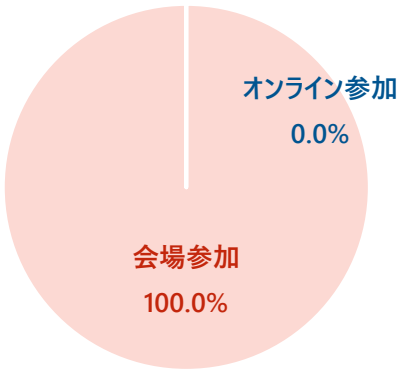
ご協力ありがとうございました

Q1 ケアするしごとバー「ケアする仕事の正直な話」にご参加いただいたきっかけを教えてください。（n=8）

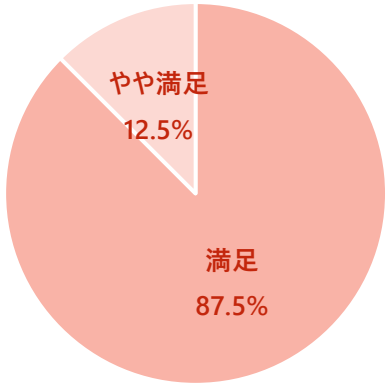


その他：　たまたまプラスアングルさんに寄った際に知り、申し込みました。

Q2 ご参加方法を教えてください（n=8）

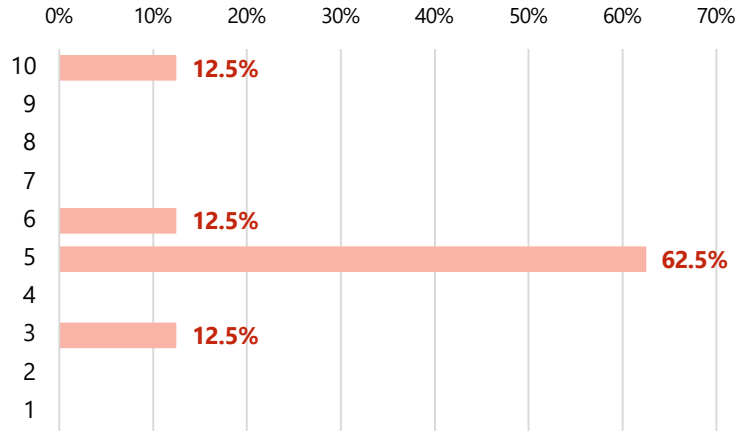


Q3 「ケアする仕事の正直な話」に参加してみていかがでしたか？（n=8）



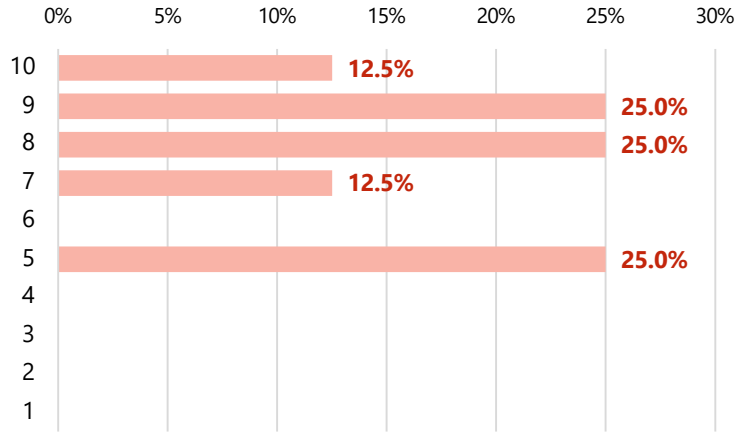
Q4 ご参加いただく【以前】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=8）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）

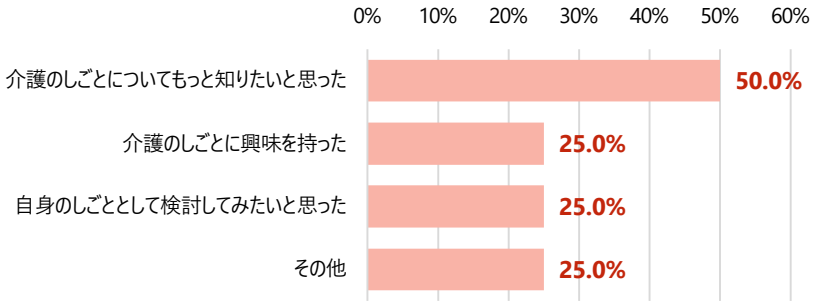


Q5 ご参加いただいた【後】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=8）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）



Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか（n=8）

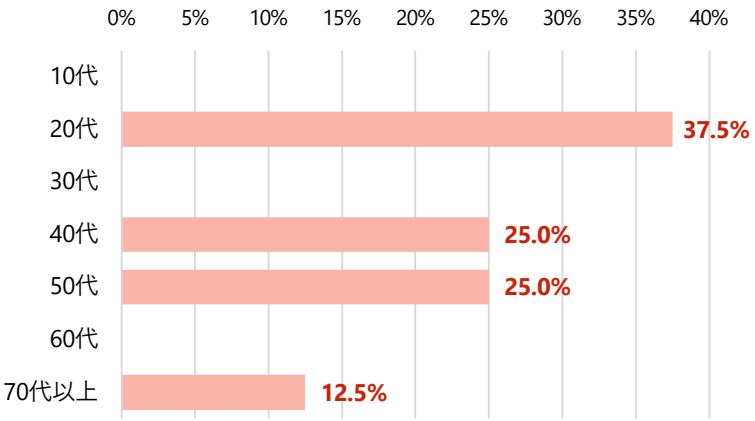


その他
- もともと、介護の仕事をしています。
- 介護と盲聾者・視覚障害ヘルプの仕事をしています。日頃感じていることで同感しました。

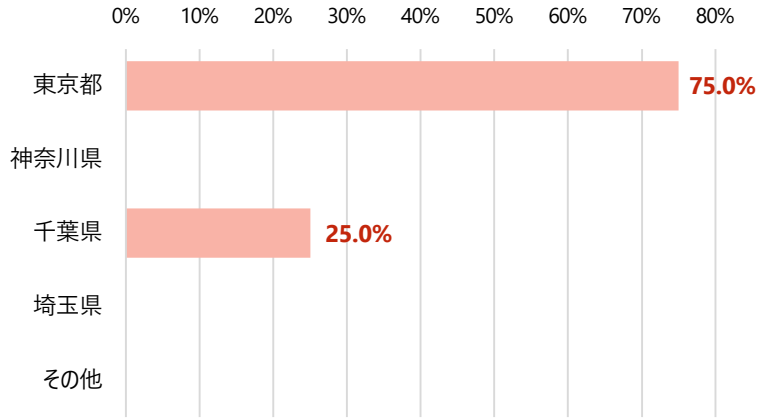
Q7 ケアするしごとバー「ケアする仕事の正直な話」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（n=8）

- まさまささんのお話の第二弾をお願いします♪ とてもおもしろく，あったかいお話でした！
- ユーモアを交えながら話していて、とても聞きやすかったです。コミュニティの力についての話が印象的でした。うちのおばあちゃんも、少しずつ元気がなくなってきていて、まめに家に帰って、いろいろ連れ出したり、なにか一緒にできたらと思いました。
- 援助者としてよりもピアの力で癒すことができるのは不思議だなと思いました。たとえ援助者でも、何かしらの心の傷や経験があるから、当事者目線でのケアを目指すといいのかなと思いました。おもしろかったです！1時間あっという間でした！
- 利用者、患者さんとのコミュニケーションのとり方が非常に勉強になりました。理学療法士より友達という所が心に刺さりました。
- まさまささんが経験したことから、感じ考えたことが軸となって、今につながっている様子が分かって引き込まれた。
- 初めて参加させていただきました。楽しかったです。
- 仕事を通しての人の体験談を聞くのは、とてもワクワクします。楽しかったです。
- 久々にたくさんしゃべっているまさまさをみました。

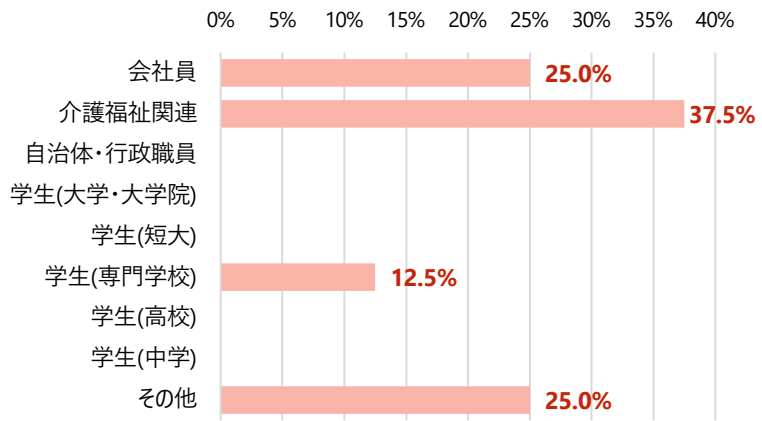
Q8 年代をお聞かせください。（n=8）



Q9 お住まいの都道府県をお聞かせください。（n=8)



Q10 ご職業をお聞かせください。（n=8）



#03 菅原直樹さん「介護×演劇でおきるミラクル」(12/12)

「介護×演劇」でおきるミラクル -認知症と文化が出会うところ-

- 日時:2023年12月12日 (火) 20:00-21:00
- 会場:リトルトーキョー(江東区三好1-7-14) / YouTube
- 参加費:無料 ※リアル会場はワンドリンク制
- ゲスト:菅原直樹(介護福祉士、「老いと演劇」OiBokkeShi主宰/劇作家、演出家、俳優)
- 聞き手:垣花つや子(ここに編集部)、中野頌子(日本仕事百貨)

「老いと演劇」を掲げる劇団OiBokkeShi(オイボッケシ)を主宰し、97歳の看板俳優を筆頭に認知症のある人や発達障害のある人と演劇活動をしている菅原さん。認知症ケアに演劇的手法を取り入れたワークショップなども実施し、「老い」「ぼけ」「死」の明るい未来をあぶり出そうとしています。演劇の力が、どう認知症のある人の魅力の引き出しているのか気になるところ。また、かけ合わさった理由も聞いてみたいと思います。

会場参加数:8名　オンライン参加数:26名
https://www.youtube.com/live/HJIqSzxQ0_0?si=idqeNf13ov1pZRxG

ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」

ここここ×しごとバー “ケアするしごとバー”

#03菅原直樹さん「介護×演劇でおきるミラクル」

ご参加者さまアンケート

本日は『ここここ×しごとバー』「介護×演劇でおきるミラクル」-認知症と文化が出会うところ-にご参加いただき誠にありがとうございます。今後の企画の参考とさせていただくため、アンケートのご協力をお願いいたします。

Q1 ご参加いただいたきっかけを教えてください。

○ 日本仕事百貨の告知を見て　○ ここここの告知を見て
○ 友人・知人の紹介　○ その他（　　）

Q2 ご参加方法を教えてください。

○ 会場参加　○ オンライン参加

Q3 「介護×演劇でおきるミラクル」に参加してみていかがでしたか？

○ 満足　○ やや満足
○ やや不満　○ 不満

Q4 ご参加いただく［以前］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）　（どちらでもない）

Q5 ご参加いただいた［後］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）　（どちらでもない）

Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか？（複数回答）

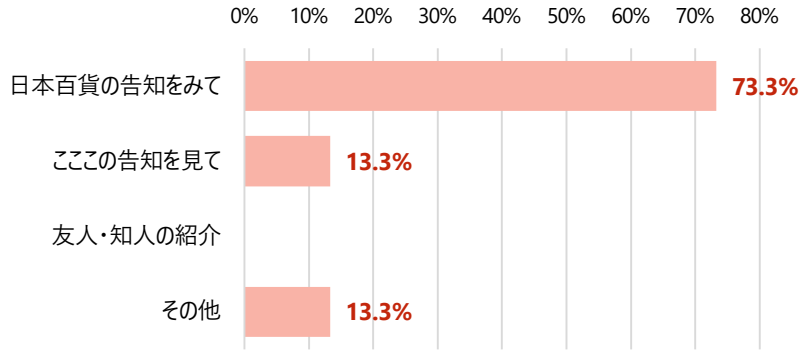
○ 介護のしごとに興味を持った　○ 自身の仕事として検討してみたいと思った
○ 介護のしごとをもっと知りたいと思った　○ その他（　　）

Q7 ここここ×しごとバー「介護×演劇でおきるミラクル」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

年　代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
お住まい	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他（　　）		
ご職業	福祉介護関連	会社員	自治体・行政職員				
	学生（ 高校/専門学校 / 短大 / 大学・大学院 ）	その他（　　）					

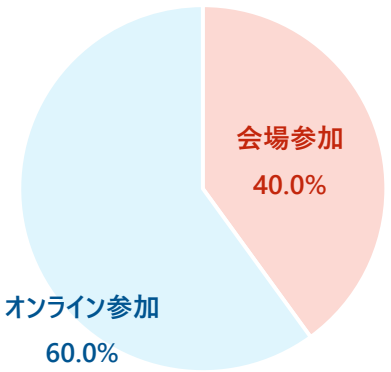
ご協力ありがとうございました

Q1 ケアするしごとバー「介護×演劇でおきるミラクル」にご参加いただいたきっかけを教えてください。（n=15）

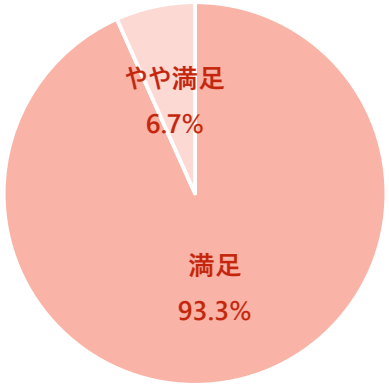


その他：　Peatix / インスタの広告

Q2 ご参加方法を教えてください（n=15）

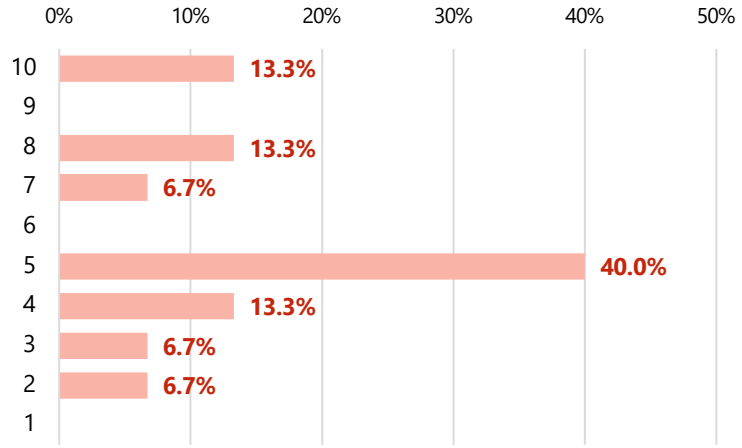


Q3 「介護×演劇でおきるミラクル」に参加してみていかがでしたか？（n=15）



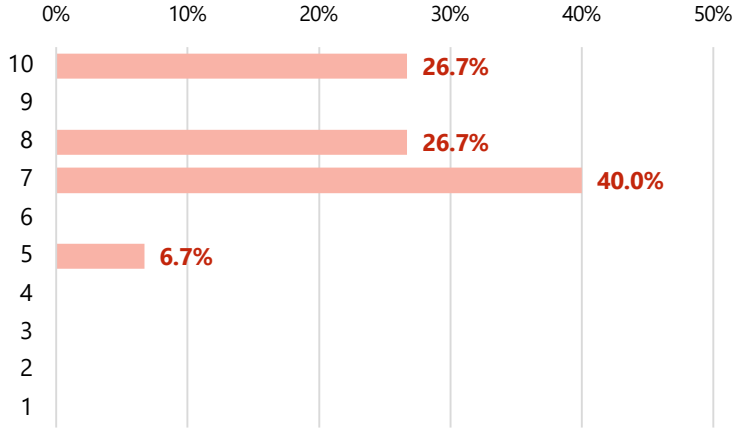
Q4 ご参加いただく【以前】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=15）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）

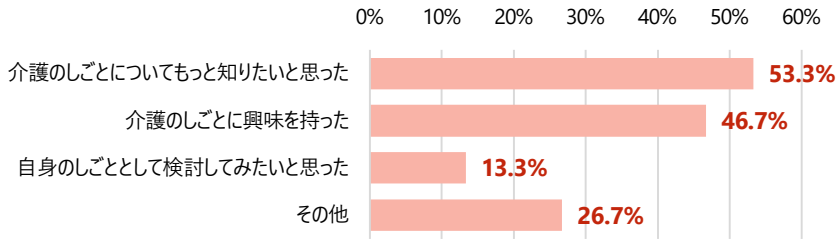


Q5 ご参加いただいた【後】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=15）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）



Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか（n=15）



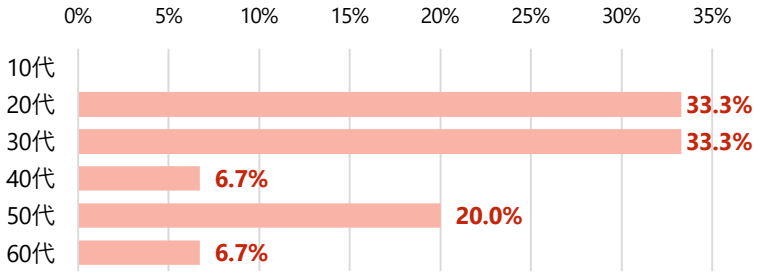
その他

- 介護の現場が演劇というものを許容できる社会になったら、関わる人たちみんなが幸せだなあと感じました。
- 介護職のため、興味深く拝聴しました。
- 親の介護が終わり、近い将来に介護の対象者になる方が介護の関わりとしては近いと思われますが、介護を仕事とされる方といい場がつくれたらよいなと思っています。
- 介護を仕事とされる方といい場がつくれたらよいなと思っています。
- 仕事としての介護についてはイメージできなかった。

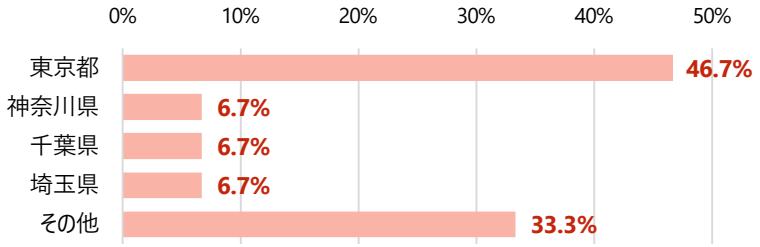
Q7 ケアするしごとバー「介護×演劇でおきるミラクル」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（n=11）

- 想定外におもしろかったというか？介護だけじゃないエッセンスをたくさんいただきました！またお話聴きたいです♪
- 以前、札幌でオイボッケシ菅原さん主催のワークショップに参加して、またお話が聞けてうれしかったです。仕事のイメージが広がるので、ぜひいろんなテーマでしごとバーを見てみたいです。ありがとうございました！！
- 介護施設でアルバイトしています。私は大学の授業で少し演劇をかじったぐらいですが、介護をしているときに、利用者さんに合わせて私は演技をしているな、という感覚が何となくありました。その感覚を介護×演劇は、とてもよく表していて、今回のお話もうんうんとうなずきながら拝聴しました。おかじいさんや菅原さんが演劇でいきいきとして、認知症を生かすことでより演劇としての味が出る、というのが非常に面白かったです。
- 物理的な舞台を用意せずに、演者が移動しながらあるいは観客が演者について行く斬新でユーモラスな演出に驚きと感動がありました。認知機能に障害はあっても感情に障害は無い。素晴らしい言葉に思います。昨今、認知症の方、障がいを持つ方に携わる介護従事者の疲れと悲鳴と絶望に近い声が痛ましい事件につながるニュースを見て心を痛めていました。しかし、実際に介護職に従事している方々のお話を聞くことで介護のイメージがネガティブの側面を上回るポジティブな側面が見えてきました。どれだけ尽くしても分かり会えない人は必ず存在する。その時に本日聞いたお話を思い出したいと思いました。理解できなくても一先ず肯定すること。先に否定する言葉を言わない。介護、障がいの有無に関わらず人と人が対面で出会う中で常に頭の片隅に留めて置きたいです。
- 介護職で、もともと舞台や演劇にも興味があり今回参加しました。どのようにして介護×演劇の作品を作られているのかを背景とともに知ることができ、とても面白かったです。実際の舞台も観てみたいと思いました。
- 感情に障害はない、という言葉が印象的でした。「認知症」と聞くと、その人全てがハンデがあると思いがちだけど、症状は一部であってその人そのものじゃないんだなって再認識しました。
- OiBokkeShiは既に知っていたので、ミラクルの内容もわかったうえで、菅原さんのお話を味わい深く聴かせていただきました。商業演劇での活躍は見切りをつけたうえでの天職ともいうべきポジションを自らつくりあげられたことは立派だと思います。わたしも、アートとふつうの市民の方の距離を近くする仕事に関わっていたことがあるので、アートの側から見ても意義深い実践だと思います。
- チームビルディングにインプロという即興演劇を使う話を聞いてから、コミュニケーションにおける演劇に関心がありました。自分と他者、本質的にはどこまでも交わらない世界を、それでも共有し、尊意して生きるための究極の方法が演劇なのかもしれないと思いながら聞きました。ミラクル→何より岡爺さんと菅原さんの出会いがミラクルだと思います。
- 認知症の方を含む高齢の方に対する菅原さんの接し方に衝撃を覚えた。
- 介護と演劇の、「今その瞬間を生きることに喜びを感じる」共通点に感銘を受けました！おかじいの演劇、生で見ます！
- オイ・ボッケシのお話しとても興味深かったです。菅原さんが楽しそうにお話をされている姿が印象的でした。双方向、参加型の演劇を作られていることも素晴らしいと思いました。いつか生で公演を見たいです。

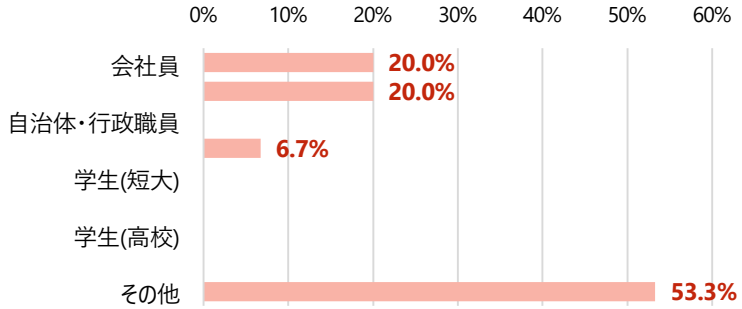
Q8 年代をお聞かせください。（n=15）



Q9 お住まいの都道府県をお聞かせください。（n=15）



Q10 ご職業をお聞かせください。（n=15）



#04 尾山直子さん「老いと死に伴走する」(1/17)

「老いと死」に伴走する -看護師兼写真家という仕事-

- 日時:2024年1月17日 (水) 20:00-21:00
- 会場:リトルトーキョー(江東区三好1-7-14) / YouTube
- 参加費:無料 ※リアル会場はワンドリンク制
- ゲスト:尾山直子(桜新町アーバンクリニック 訪問看護師・写真家)
- 聞き手:中田一会(ここここ編集長)、中野頌子(日本仕事百貨)

かつては当たり前だった、日常生活で起きる身近な人の「死」や「看取り」。しかし現代では病院や施設で亡くなる人が多くなり、看護師として働いてきた尾山さんは日常の中で「老いと死」に触れる大切さを感じるように。現在も現訪問看護師の仕事をしながら、写真家としても自宅で老い、亡くなっていく人に伴走する尾山さん。「老いと死」は怖いもの?作品を見ながら、お話を聞いていきます。

会場参加数:17名　オンライン参加数:33名
https://www.youtube.com/live/qxbqtWr_xAQ?si=9V1hrALXTZCXp6Xf

ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」

ここここ×しごとバー “ケアするしごとバー”

#04尾山直子さん「老いと死」に伴走する

ご参加者さまアンケート

本日は『ここここ×しごとバー』「老いと死」に伴走する-看護師兼写真家という仕事-にご参加いただき誠にありがとうございます。今後の企画の参考とさせていただくため、アンケートのご協力をお願いいたします。

Q1 ご参加いただいたきっかけを教えてください。

○ 日本仕事百貨の告知を見て　○ ここここの告知を見て
○ 友人・知人の紹介　○ その他（　　）

Q2 ご参加方法を教えてください。

○ 会場参加　○ オンライン参加

Q3 「老いと死」に伴走する に参加してみていかがでしたか？

○ 満足　○ やや満足
○ やや不満　○ 不満

Q4 ご参加いただく［以前］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）
（どちらでもない）

Q5 ご参加いただいた［後］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）10 9 8 7 6 5 4 3 2 1（悪い）
（どちらでもない）

Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか？（複数回答）

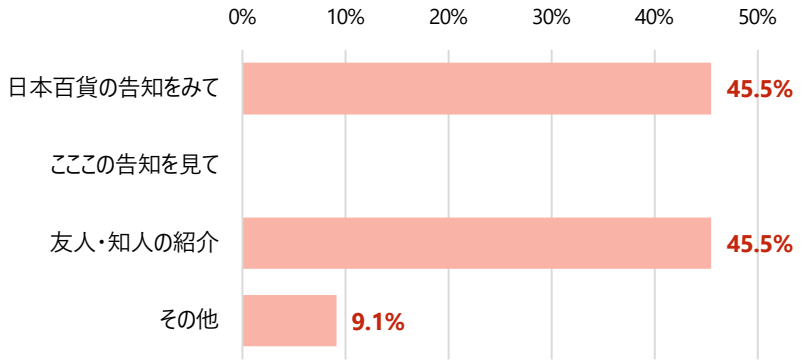
○ 介護のしごとに興味を持った　○ 自身の仕事として検討してみたいと思った
○ 介護のしごとをもっと知りたいと思った　○ その他（　　）

Q7 ここここ×しごとバー「老いと死」に伴走する について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

年　代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
お住まい	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他（　　）		
ご職業	福祉介護関連	会社員	自治体・行政職員				
	学生（ 高校/専門学校 / 短大 / 大学・大学院 ）	その他（　　）					

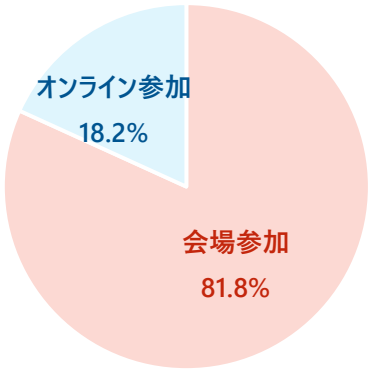
ご協力ありがとうございました

Q1 ケアするしごとバー「老いと死」にご参加いただいたきっかけを教えてください。（n=11）

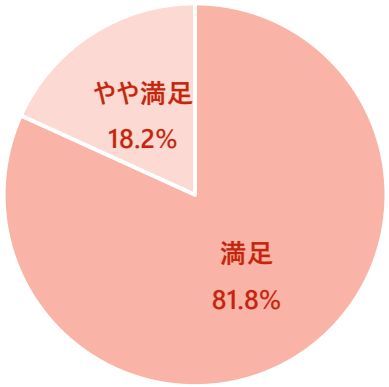


その他：　Instagramに表示された広告を見て

Q2 ご参加方法を教えてください（n=11）

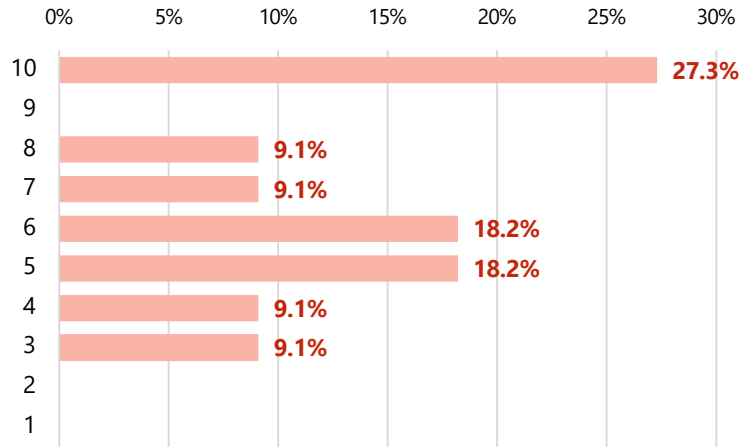


Q3 「老いと死」に参加してみていかがでしたか？（n=11）



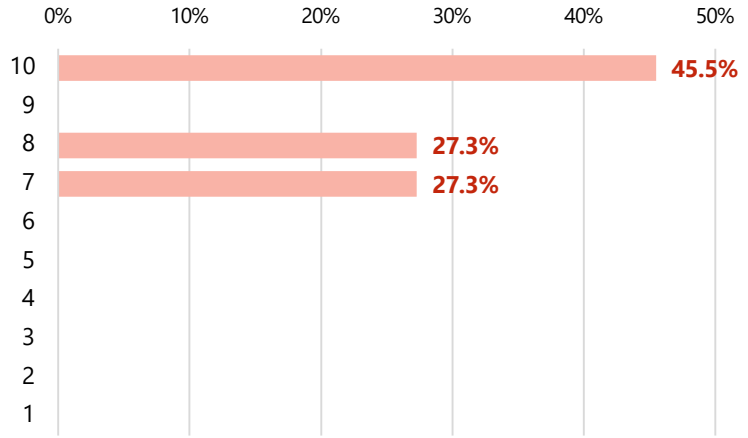
Q4 ご参加いただく【以前】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=11）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）

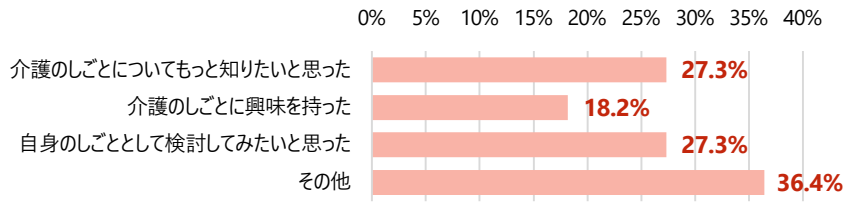


Q5 ご参加いただいた【後】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=11）

※10（良い）－　5（どちらでもない）－　1（悪い）



Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか（n=11）



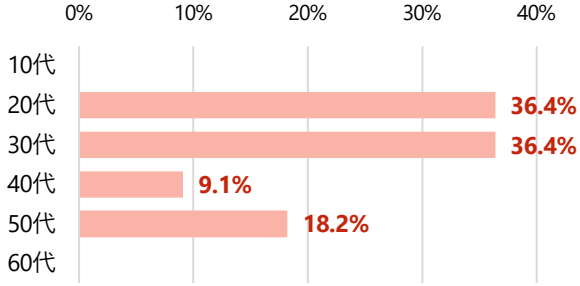
その他

- 自分の仕事について考えさせられました。
- 死と向き合えるのは凄いと思った。私は悲しい気持ちが芽生えてしまい仕事には出来ないなとおもうので。
- 半年間だけ介護の仕事をしたことがあり、そこで良いも悪いもおおまかな印象は持っていたので、今回のお話を聴いてガラッと印象が変わったわけではなかった。
- 現在、病院で介護の仕事に就いている。今の職場に就職する前、ヘルパー資格取得のためにスクールに通い、訪問介護の実習も経験した。その時はあまり訪問介護に興味が持てず、現在の職場に就職したが、ゲストのお話を伺い、在宅医療チームの一員として介護の仕事が出来るのであれば、チャレンジしてみたいと感じた。

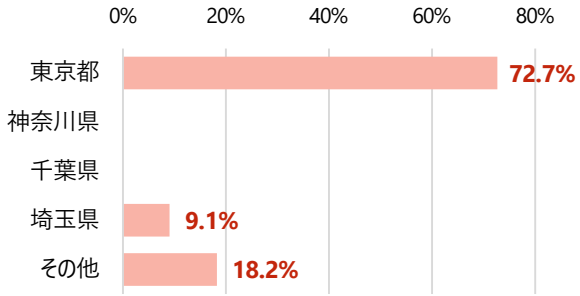
Q7 ケアするしごとバー「老いと死」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（n=8）

- 尾山さん視点で語られる在宅医療の姿が興味深かったです。
- お話ありがとうございました。看護師をはじめて5年目になりますが、これからどんなふうに仕事をしていこうか考えるきっかけになりました。
- 現在痴呆症の祖母と暮らしていて、体は元気だけど徐々に死に近づいているのと、本人がもうそろそろしにたいと言ったことを口にするので、嫌でも老いることと死に向き合う日々です。それに対して私は、本人は望んで痴呆症になった訳でもないし、けど年齢と共に前みたいに自由じゃなくなっていく姿をみていて日々思うことがあります。けど、今日お話しをきいて、それは当たり前のことであり受け入れるというのも大切な事だなと学びました。人はいつ死ぬか分からないと言いながらもどこかまだ他人事なので、たまには今日のように死と向き合う時間は大切だなと思いました。
- 世田谷（成城）のぐるりの展示を観たとき、もう全然涙が止まらないくらい大泣きしながら尾山さんにその時思ったことを話しました（今日も思い出し泣きして途中やばかった）。その時も企画の背景やえいすけさんとのやりとりの話をうかがいましたが、今回改めてすこし俯瞰したような視点で展示のお話や介護の話をきいて、介護職が尊いものであることは理解しつつもとはいえ大変さが上回る印象ななか、看護にあたる当事者がどう向き合っているのかのリアリティをより重みをもって受け止められたのかなと思います。
- これまでのその人の選択肢を聞けるのは、貴重な時間だと感じました。
- 数日前「尾道のおばあちゃんとわたくしホテル」というホテルに泊まる機会があり、そこでやっぱり、「ケア」の分野に興味を持っている私がいた。また「写真」にも惹かれてしまうところがあり、今回のしごとバーは本当にわたし自身の興味がコラボした、情報を見つけた瞬間ハッとしてしまった会だった。そしてお話を聴けたことを、すごく深いところで嬉しく感じる時間だった。そこで、尾山さんは訪問看護師として、わたしはデイサービスの介護士として、異なる場と職であれど、死に近づいているおじいちゃんおばあちゃんのケアをするという点では同じだと思った。でもわたしは入浴介助やトイレ介助など、人の排泄物を扱うという点に拒否感を抱き、「他に職があるなら、介護職に就く必要はないのではないか」と思った。また大学で国際教養や社会学を勉強していたため「わたしはこれをするために大学に入ったのか?」と疑問に思う瞬間もあった。そして他の理由も含め、半年でデイサービスを退職した。でも、尾山さんは、高校時代に自然と近い生活をしていて人間を"動物の一種"として見ていたからこそ、そういう"人間界での汚いもの"みたいなものの捉え方が違うのかなと思った。循環の一部というか、動物の糞と人間の排泄物は一緒、というかどちらもフンじゃん！みたいなイメージを持っているのかな、と。後になってその点を質問してみたいと思った。やっぱり介護職は、もしかしたら看護職も、そういった「自分以外の、他者の汚染物」みたいなものをどうにか処理していかなければいけない職種だと思う。それを仕事だと割り切れる人もいるのかもしれないけど、わたしは割り切れなかった。思い出したくないときに入浴介助のある場面を思い出してしまったり。だからそのような、日々の中でなかったことにされているような、誰かが仕事として対応していたり綺麗に掃除してくれているからこそ自分で対処しなくてよくなっているようなことへの拒絶感と、どう向き合っておられるのか聴きたくなった。自分のでさえも汚いと思ってしまうのに、他者のものを扱わなければいけないこと、それは生命の循環の一部と考えているのか?とかそういった思考の違いについて興味を持った。とにもかくにも、今回のしごとバーでのお話、そして尾山さんのあり方やこれまでやってきたことは、わたしの今後に深く関わるものだと思った。わたし自身興味を持つ「ケア」に今後どう関わっていくか、また「写真」はどうしてこんなにじぶんを惹きつけるのかについて、これからも色んな角度から感じ、考えていきたいと思う。そして、しごとバーや尾山さんの活動にこれからもなんらかの形で触れていくことで、じぶんの世界を広げ、深めていけたらなあと思っています。ありがとうございました。
- ケアするしごとバーについては、今回初めて知った。「老いと死」はもともと関心のあるテーマだったが、今回のゲストは看護師としても写真家としても創造的であり表現者であり、試行錯誤しながら人生を楽しんで生きていらっしゃる姿に感銘を受けた。また今後同様の企画があれば、今度はリアルで参加してみたい。
- 訪問看護は一人での判断が求められる非常に難しい領域で、自分も今看護学生をやりながらその難しさを痛感していますが、今回そんな中でも自分で興味ある事を見つけ、楽しんでいく事を教えて頂きました。実習中でも参加させて頂いて良かったです。ありがとうございました。

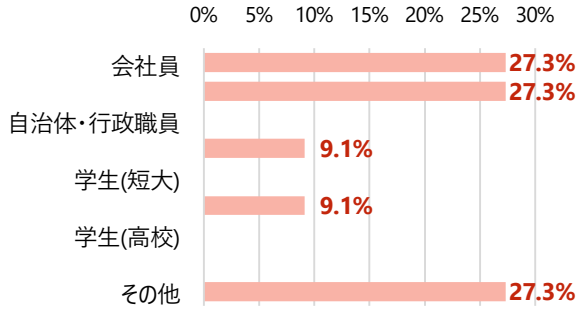
Q8 年代をお聞かせください。（n=11）



Q9 お住まいの都道府県をお聞かせください。（n=11）



Q10 ご職業をお聞かせください。（n=11）



#05 森近恵梨子さん「商店街に居場所を!」(2/14)

商店街に居場所を! -介護事業所からまちづくり-

- 日時:2024年2月14日 (水) 20:00-21:00
- 会場:リトルトーキョー(江東区三好1-7-14) / YouTube
- 参加費:無料 ※リアル会場はワンドリンク制
- ゲスト:森近 恵梨子(KEY STATION　施設長代理／PRディレクター／介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員)
- 聞き手:中田一会(こここ編集長)、中野頌子(日本仕事百貨)

森近さんは、商店街にあるコミュニティカフェ併設型のデイサービス「KEY STATION」で、地域の課題も見据えながら高齢者ケアに携わっています。高齢の人はもちろん、地域に暮らす子どもや学生、大人まで。すべての人に関わる「ケアするしごと」とは、どんな仕事なのでしょう? 誰にとっても大切な「その人らしい人生はどうしたら送れるか」という問いを持ちながら、若手とケアする仕事をつなぐ架け橋としても活躍する森近さんをお招きします。

会場参加数:10名　オンライン参加数:24名
https://www.youtube.com/watch?v=U-xbFvXDpY4

ここここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」

ここここ×しごとバー “ケアするしごとバー”

#05 森近恵梨子さん「商店街に居場所を！」

ご参加者さまアンケート

本日は『ここここ×しごとバー』商店街に居場所を！ -介護事業所からまちづくり-
にご参加いただき誠にありがとうございます。今後の企画の参考とさせていただくため、
アンケートのご協力をお願いいたします。

Q1 ご参加いただいたきっかけを教えてください。

○ 日本仕事百貨の告知を見て　○ ここここの告知を見て
○ 友人・知人の紹介　○ その他（　　）

Q2 ご参加方法を教えてください。

○ 会場参加　○ オンライン参加

Q3 「商店街に居場所を！」に参加してみていかがでしたか？

○ 満足　○ やや満足
○ やや不満　○ 不満

Q4 ご参加いただく［以前］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）　（どちらでもない）　（悪い）
10　9　8　7　6　5　4　3　2　1

Q5 ご参加いただいた［後］の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。

（良い）　（どちらでもない）　（悪い）
10　9　8　7　6　5　4　3　2　1

Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか？（複数回答）

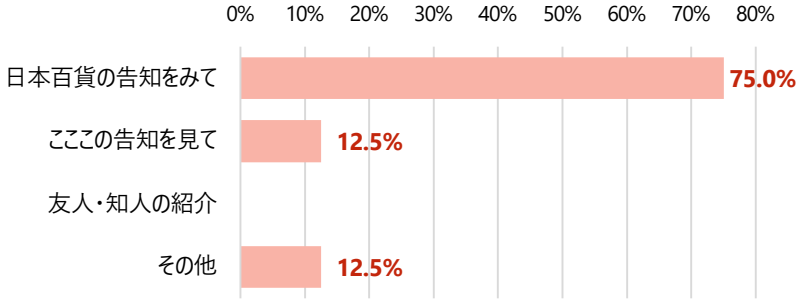
○ 介護のしごとに興味を持った　○ 自身の仕事として検討してみたいと思った
○ 介護のしごとをもっと知りたいと思った　○ その他（　　）

Q7 ここここ×しごとバー「商店街に居場所を！」-介護事業所からまちづくり-について、
ご意見・ご感想をお聞かせください。

年　代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
お住まい	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他（　　）		
ご職業	福祉介護関連	会社員	自治体・行政職員				
	学生（ 高校/専門学校 / 短大 / 大学・大学院 ）	その他（　　）					

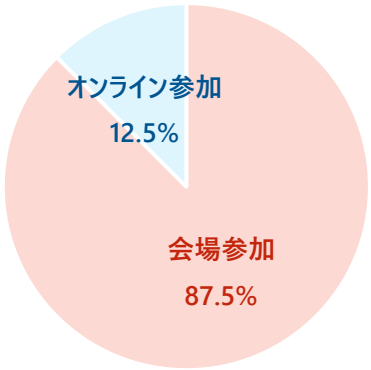
ご協力ありがとうございました

Q1 ケアするしごとバー「商店街に居場所を！」にご参加いただいたきっかけを教えてください。（n=8）

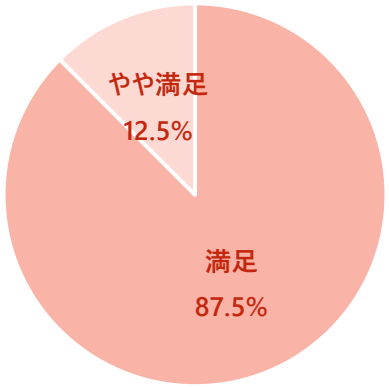


その他：　SNSでたまたま見つけたので

Q2 ご参加方法を教えてください（n=8）

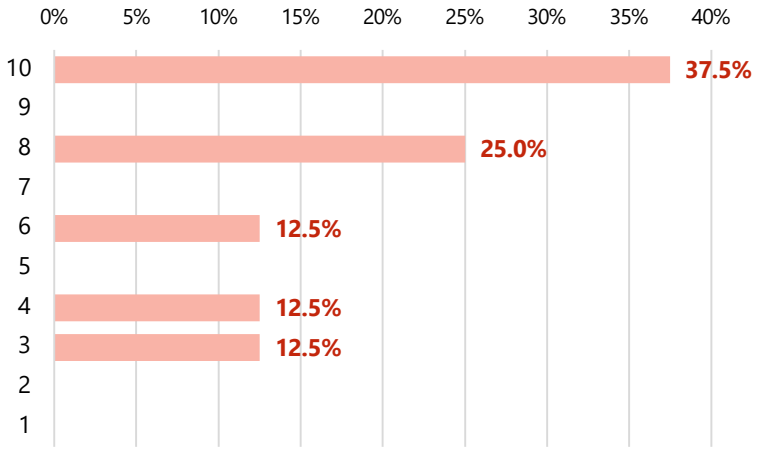


Q3 「商店街に居場所を！」に参加してみていかがでしたか？（n=8）



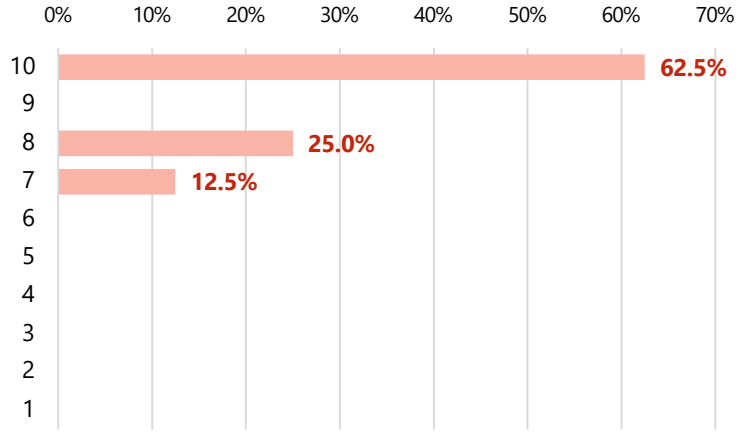
Q4 ご参加いただく【以前】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=8）

※10（良い）－ 5（どちらでもない）－ 1（悪い）

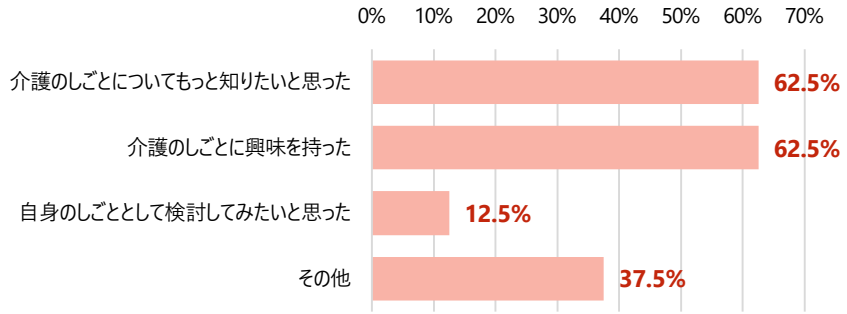


Q5 ご参加いただいた【後】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください（n=8）

※10（良い）－ 5（どちらでもない）－ 1（悪い）



Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか（n=8）

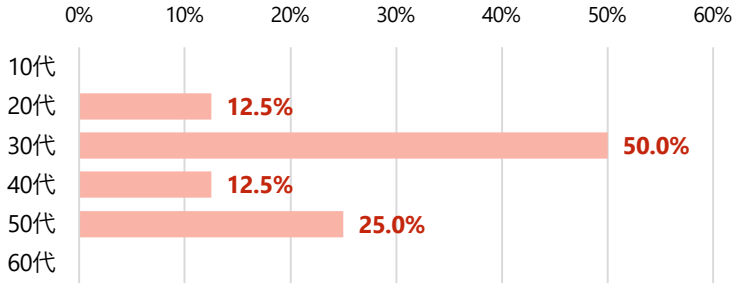


その他
- 森近さんのご活動を応援したくなりました。
- 働いている皆さんへの敬意を感じた
- ケアを受ける時に自分ごととして考える介護という言葉刺さりました○
  ケアのことを語れる聞ける時間は貴重でした！

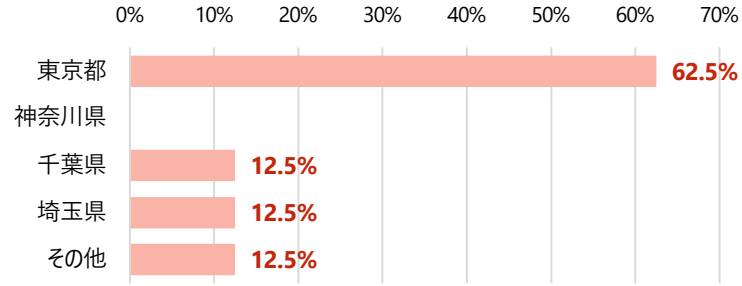
Q7 ケアするしごとバー「商店街に居場所を！」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（n=6）

- 気づき発見気になる点もっと聞きたいことがありすぎて、時間が足りません！笑　すごく有意義な時間でした。ありがとうございます。
- 面白い取り組みだと思います。　とても良い雰囲気でした。
- 素晴らしい場だと思います。 施設を沢山見てきましたが、利用者さんが暖かい時間を過ごせて、外部の人との敷居も低い、理想的だと思います。
- すごいよかったです。行ってコーヒーいただきたいです。商店街の仕事をされているってのもおもしろいですね！（バイト代はもらえないのですよね：苦笑）こういう場がたくさんあるといいなって思いました！
- 今日は愛知からオンラインで参加させていただきました。普段福祉の仕事をしていて、福祉施設や福祉事業所など、福祉の世界だけで福祉をしていない取り組みに魅力を感じてます。その中でも、森近さんの取り組みは街、特に昔からの文化があるだろう商店街(だからこそ通いやすい？なじみがある？)に福祉を展開されており、とても興味深かったです。そのほかにも森近さんの福祉に対する思いや、仕事そのものの価値観を伺い、素直に「福祉ってこんなにもクリエイティブだったっけ」と思いました。普段福祉の仕事をしているものの、人一人としてみれているか。対話できているか。とても考えさせられました。次の連休、福祉フォーラムに参加予定で、東京に行きます！その際キーステーションにもお邪魔したいと思っています。長くなりましたが今日はありがとうございました。
- 街や地域との関わり方に大変興味があり、森近先生からの拠点を商店街に置く周りとの関わり方や、お客様が地域の役割をになってイキイキと通所されている姿をイメージできました！お客様の価値感や大切にしていらっしゃる部分に寄り添い、個別性の高いケアを志し運営しているお話しや"ゆとり"を生むよう心がけているお話しも勉強になりました。ケアワーカーさんのお仕事が、もっと社会に広く正しく認知され、価値が深まっていくことを願います！美容師としてできる事や、お客様の日常への関わり方を改めて考えるきっかけとなりました。素敵なお話しをお聞かせ頂き、またお話を聞ける機会を頂きありがとうございました。

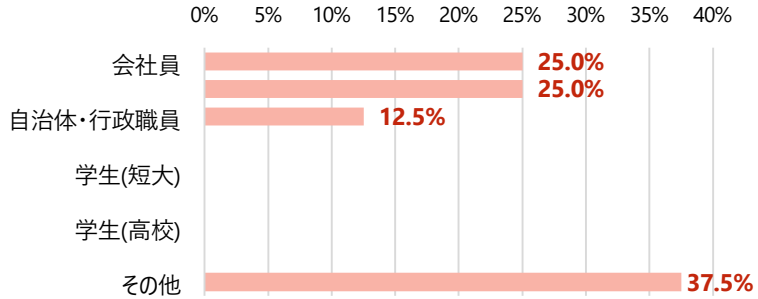
Q8 年代をお聞かせください。（n=8）



Q9 お住まいの都道府県をお聞かせください。（n=8）



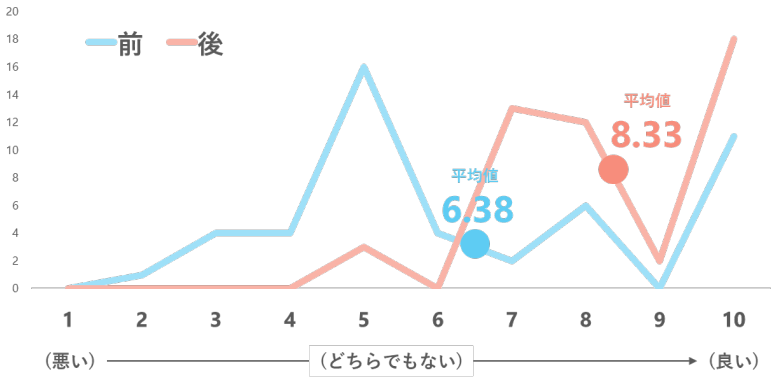
Q10 ご職業をお聞かせください。（n=8）



こここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」アンケート結果

「しごとバー」に参加いただいく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象（n=48）

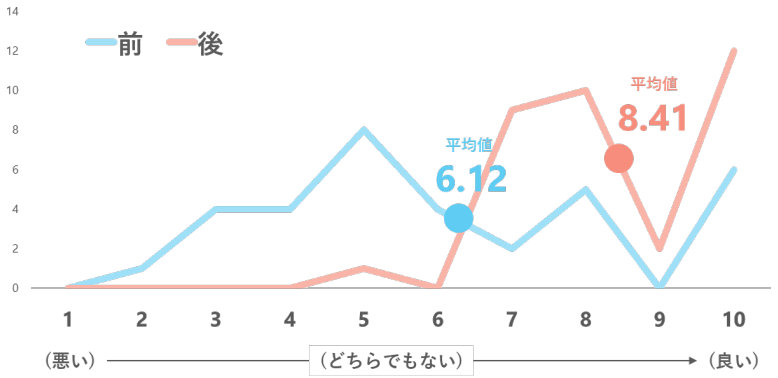
ご来場いただいたお客様に、「参加する前」と「参加した後」で
それぞれの「介護のしごとに対する印象」を１(悪い)～10(良い)の10段階で回答いただいた。



しごとバーに参加いただくことで、1.96Pのイメージ UP（態度変容）につながった。

「しごとバー」に参加いただいく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象（n=34）

ご来場いただいたお客様に、「参加する前」と「参加した後」で
それぞれの「介護のしごとに対する印象」を１(悪い)～10(良い)の10段階で回答いただいた（介護福祉事業者除く）



しごとバーに参加いただくことで、2.29Pのイメージ UP（態度変容）につながった。
＊介護福祉従事者含む（1.96ポイントUP）と比較すると、介護福祉従事者以外の態度変容の方が0.33ポイント高い結果となった。

まとめ

ケアするしごとバーでは、介護のしごとに一定の興味がある関心層をターゲットに介護のしごとに対するより深い情報をトークセッションを視聴いただく方法でアプローチした。視聴方法は、事前申し込みの会場参加とオンラインによるライブ視聴の2通りとした。

介護福祉従事者を含む48名（介護福祉従事者を除くと34名）からアンケートを回収し、結果は、介護福祉従事者を含む場合で【1.96PのUP】、介護福祉従事者を含まない場合で【2.29PのUP】を図ることができた。

ケアするしごとバーには、介護のしごとに一定の関心がある人が参加していると思われるが、参加前の評価は意外にも低く、関心がある分ネガティブなイメージが少し強く数値として出たかと推定する。しかしながら参加後のイメージアップは高く、アップ度（伸び率）はケアするしごと展を大幅に超える結果となった。

介護のしごとの認知拡大及び理解促進をしっかりリーチできる施策で訴求し続けることで、無関心から関心層へ、関心層から検討層への段階を踏めるのではないかと考える、そのためにも検討層の受け皿が今後必要になってくる。

イメージ平均値(10段階評価)	参加前	参加後	アップP
介護福祉従事者含む(n=48)	6.38	8.33	1.96
介護福祉従事者除く(n=34)	6.12	8.41	2.29

交通広告「介護の仕事って、どんなイメージ？」

介護のしごとの興味喚起を促す動画を制作し、都営地下鉄線（浅草線、三田線、新宿線、大江戸線）とゆりかもめの社内動画広告を放映。
また、この動画を見てもらいアンケートに回答いただく調査も実施した。
※令和６年能登半島地震の影響によりTV番組での拡散予定を交通広告へ変更

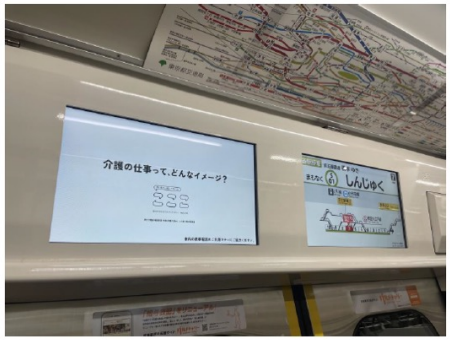
Theme

介護の仕事って、どんなイメージ？

交通広告「介護の仕事って、どんなイメージ？」

放映路線｜都営三田線
放映期間｜2024年3月11日(月)～17日(日)の7日間　始発から終電
総再生数｜6,510,288回

放映路線｜都営新宿線
放映期間｜2024年3月11日(月)～17日(日)の7日間　始発から終電
総再生数｜20,003,657回



交通広告「介護の仕事って、どんなイメージ？」

放映路線｜都営浅草線
放映期間｜2024年3月11日(月)～17日(日)の7日間　始発から終電
総再生数｜16,922,880回

放映路線｜都営大江戸線
放映期間｜2024年3月11日(月)～17日(日)の7日間　始発から終電
総再生数｜6,848,876回

交通広告「介護の仕事って、どんなイメージ？」

放映路線｜ゆりかもめ
放映期間｜2024年3月11日(月)～24日(日)の14日間　始発から終電
総再生数｜5,478,402回

表示回数累計

■都営線
2024年3月11日(月)～17日(日)の7日間・始発～終電／パネル表示回数の総再生数
都営新宿線　20,003,657回
都営浅草線　16,922,880回
都営大江戸線　6,848,876回
都営三田線　6,510,288回　　合計　50,285,701回

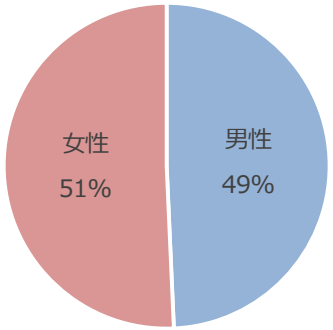
■ゆりかもめ
2024年3月11日(月)～24日(日)の14日間・始発～終電／パネル表示回数の総再生数
ゆりかもめ　5,478,402回
合計　5,478,402回

総再生回数　55,764,103回

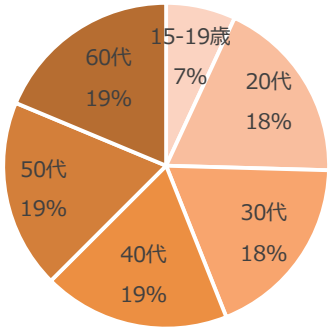
交通広告「介護の仕事って、どんなイメージ？」

調査目的	広告の印象調査
調査方法	インターネット調査
調査日程	2024年3月1日（金）～2024年3月7日（木）
調査エリア	首都圏一都三県（埼玉・千葉・東京・神奈川）
調査対象者	上記エリアにお住いの15～69歳男女
サンプル数	1,187s

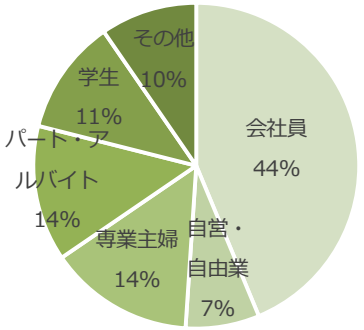
性別



年代



職業



調査結果サマリー

調査対象者の、動画への興味関心度は31.3%

－属性別では「15~19歳／学生」など若年層の興味関心度が高い。

動画関心層のうち、『こここ』で詳細記事を読みたい人は43.7%

－属性別では「男性／30代／会社員」の閲覧意向度が高い結果となった。

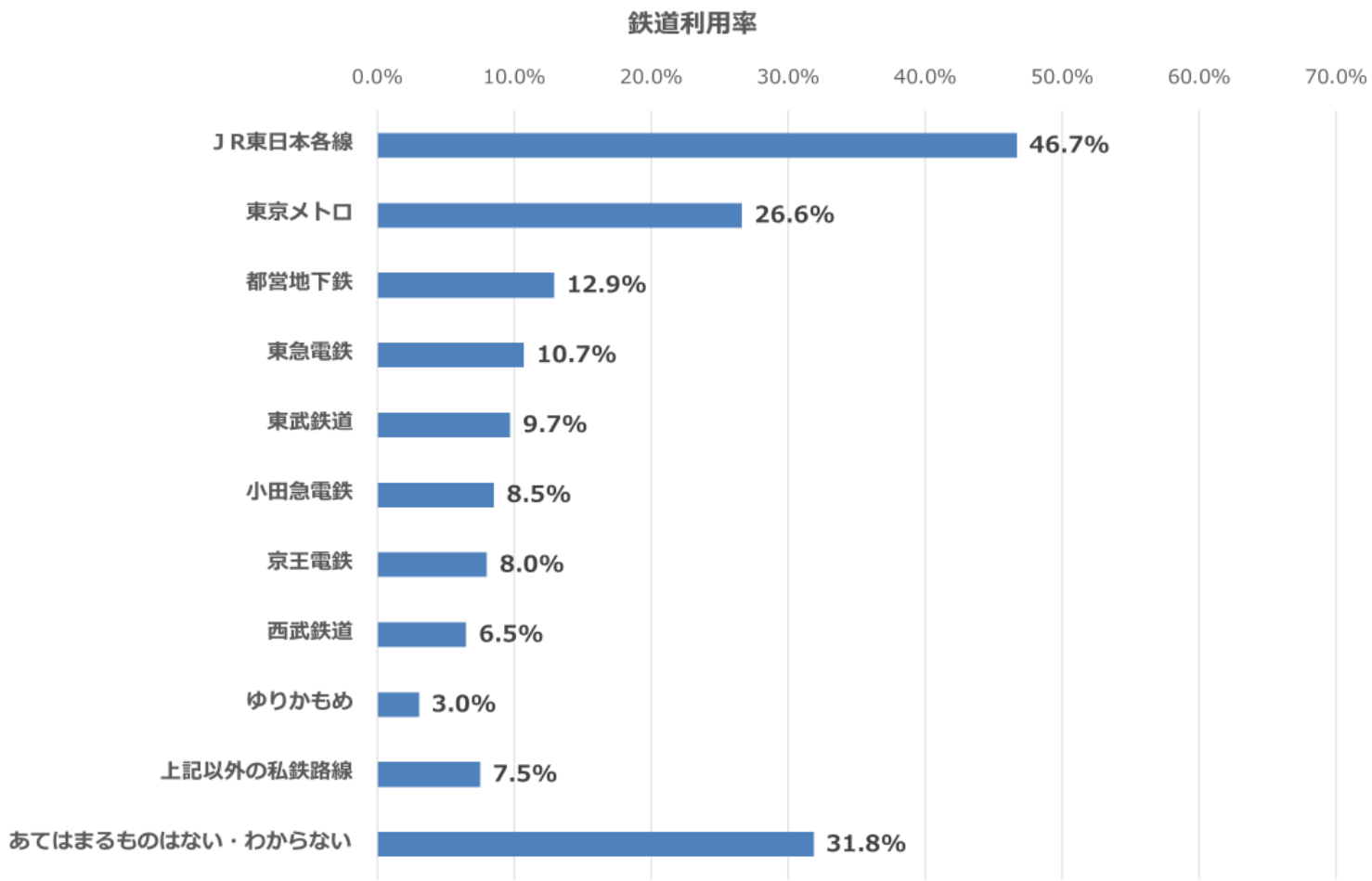
介護・福祉職の人材不足問題に興味がある人は37.5%

－属性別では、「50・60代／専業主婦・その他」がより身近な問題として意識していることがうかがえる。

制作した動画は、伝えたい層に伝わる内容であった。具体的なアクションを起こしたい層は30代男性となり社会ではたらく現役層が敏感に反応した結果となった。やはり、介護・福祉の問題についてはその問題に身近な層の興味関心が一番高かった。

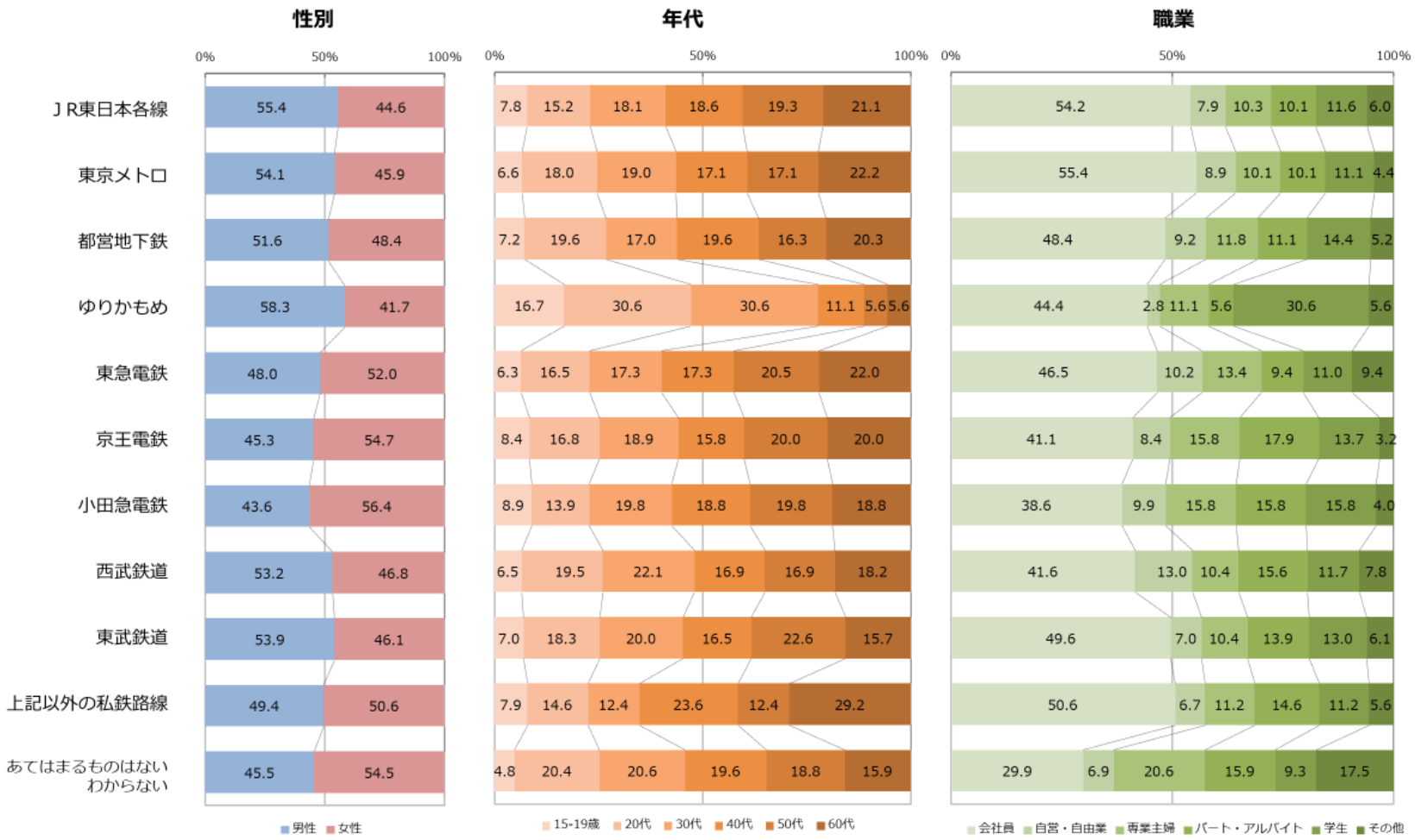
1 鉄道利用状況

Q.あなたが最近一ヶ月に利用した鉄道の路線、および今月利用する予定の路線をすべてお選びください。（N=1,187）



1 鉄道利用状況＜属性別＞

Q.あなたが最近一ヶ月に利用した鉄道の路線、および今月利用する予定の路線をすべてお選びください。（N=1,187）



2 動画への興味関心度

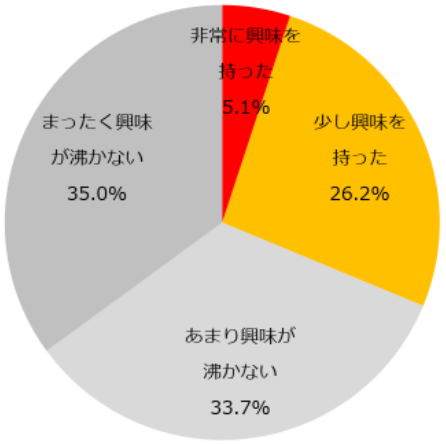
■ 調査対象者の、動画への興味関心度は31.3%

▶ 属性別では「15~19歳／学生」など若年層の興味関心度が高い結果となった。

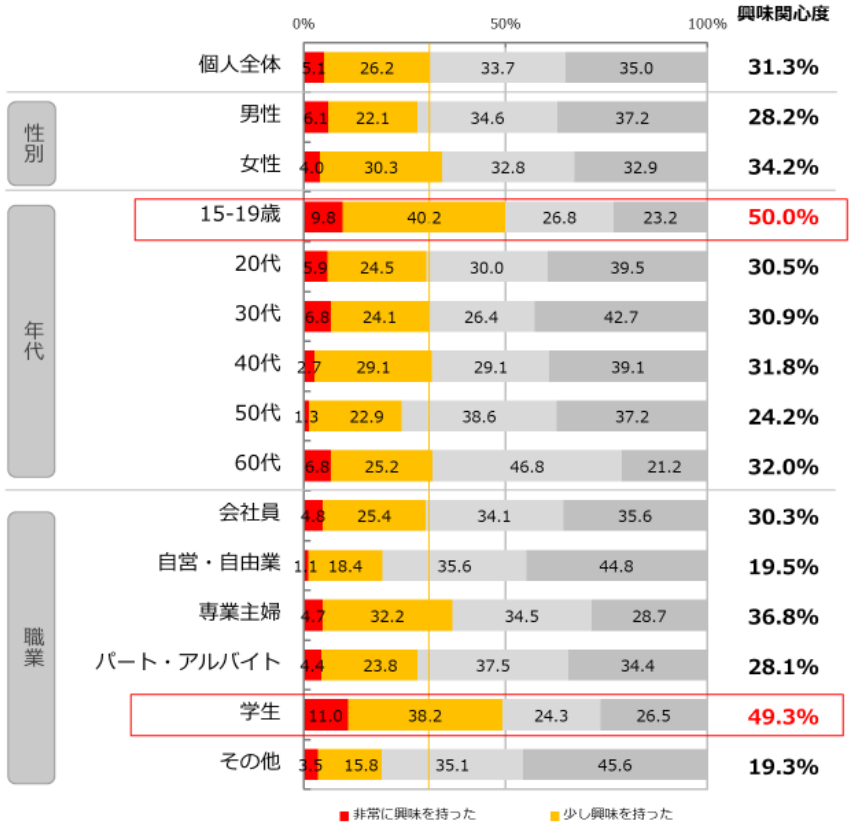
Q. この動画は介護・福祉について自分ごと化して考えてみよう！といったテーマの動画ですが、この動画について興味が湧きましたか。（N=1,187）

※興味関心度…「非常に興味を持った」＋「少し興味を持った」

対象者全体



動画への興味関心度
31.3%



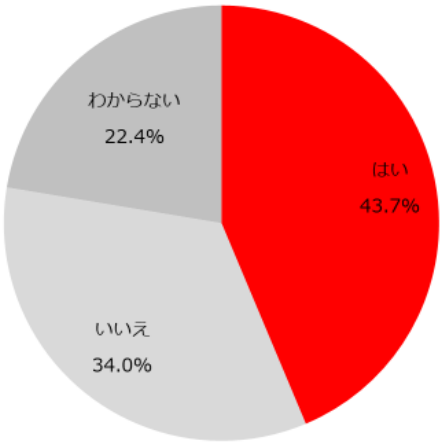
3 WEBサイト『ここここ』の閲覧意向度

■ 動画の続きを、WEBサイト『ここここ』で読みたい人は43.7%

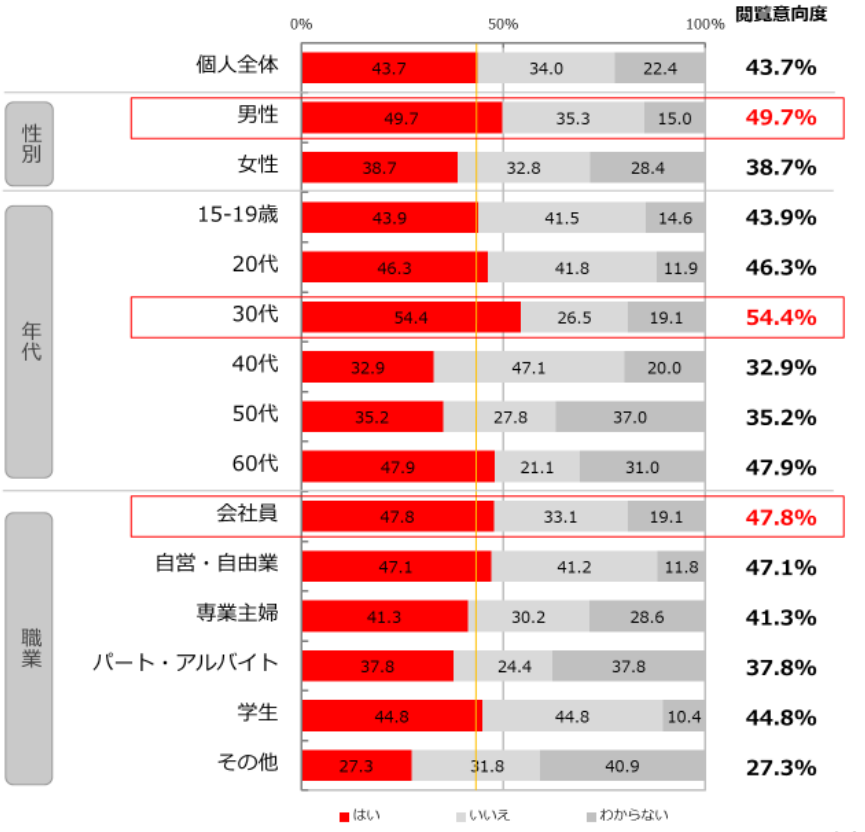
▶ 属性別では「男性／30代／会社員」の閲覧意向度が高い結果となった。

→動画に「非常に興味を持った」、「少し興味を持った」とお答えの方
Q.マガジンハウスの「ここここ」というWEBサイトに詳細記事が掲載されています。続きを調べて読んでみたいと思いますか？ ※参考：「ここここ」https://co-coco.jp/ （N=371）

動画関心層



閲覧意向度
43.7%



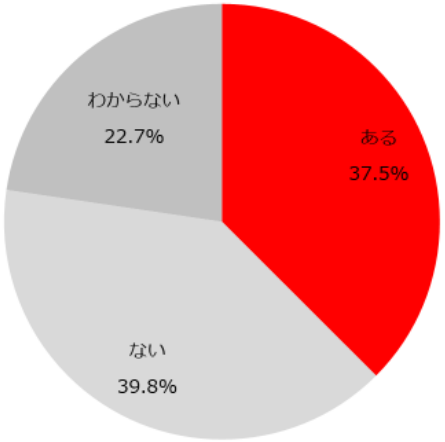
4 人材不足問題への興味関心度

■ 介護・福祉職の人材不足問題に興味がある人は37.5%

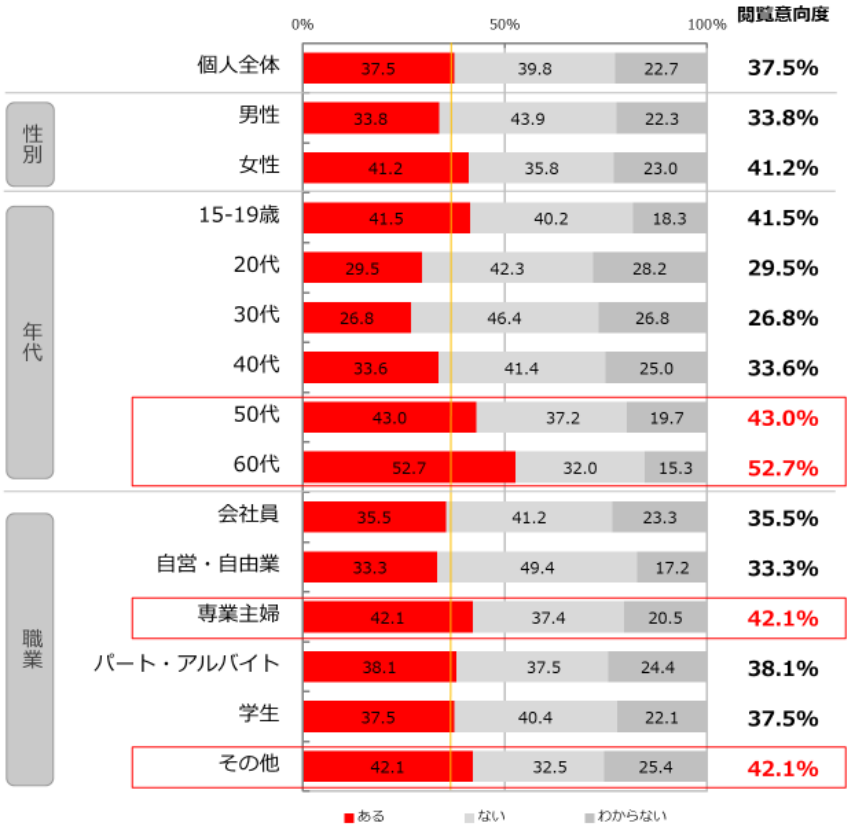
▶ 属性別では「50・60代／専業主婦・その他」がより身近な問題として意識していることがうかがえる。

Q.この動画は厚生労働省の介護・福祉の魅力発信事業の一環として製作されました。
この動画に関わらず、日本の高齢化社会において、介護・福祉職の人材不足の問題について意識したり、考えたりしたことがありますか？ （N=1,187）

調査対象者全員



人材不足問題への興味関心度
37.5%



事業実施一覧

No	事業名	概要	ターゲット層	アプローチ方法	実施時期	目指すアウトカム
1	anan FESトークイベント「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」	anan創刊50周年を記念し開始されたイベントにて、著名人による、介護の仕事に関するトークライブを実施。YouTubeでも配信。	若年層	テレビ イベント YouTube	令和5年11月12日	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ④福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）
2	展示会「ケアするしごと展」	ananFESのサテライトイベントとして、anan×POPEYE×ここ共催の展示会イベントを開催。11月14日～30日には、巡回展を開催。	若年層（無関心層）	テレビ イベント	令和5年11月11日～12日 令和５年11月14日～30日	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える
3	anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」	ananにて、介護・福祉に関する特集８ページを掲載。anan本誌で制作した記事内容をanan webに転載し、記事化。SNSアカウントも活用し、情報拡散も実施した。	若年層（無関心層）	雑誌 WEBページ SNS	令和5年10月	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ②介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える
4	POPEYE特集「福祉ってこういうことだったんだ。」	POPEYE（雑誌）にて、介護・福祉に関する特集８ページを掲載。POPEYE本誌で制作した記事内容をPOPEYE webに転載し、記事化。SNSアカウントも活用し、情報拡散も実施した。	若年層（無関心層）	雑誌 WEBページ SNS	令和5年10月	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ②介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える
5	anan×POPEYE オリジナル冊子作成	「anan のタイアップ記事８記事」と「POPEYE のタイアップ記事８記事」を１冊にまとめたオリジナル冊子を制作。anan FESや展示会の参加者に加え、全国の書店で若年層にターゲティングしたサンプリングを実施。	若年層	啓発ツール（冊子） イベント	令和5年11月～	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ④福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）
6	ここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界を訪ねて～」	ウェブマガジン「ここ」にて、福祉・介護の現場やそれに関わる人、当事者の連載記事を発信。	若年層	WEB記事	令和5年10月～令和6年3月	③介護の仕事への理解を深める人が増える
7	ここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」	日本仕事百貨のイベント「しごとバー」と「ここ」のコラボイベント。リアルとオンラインのハイブリット開催で５ヶ月連続開催。	若年層（無関心層）	イベント（現地・オンライン）	令和5年11月～令和6年2月	③介護の仕事への理解を深める人が増える
8	交通広告	交通広告枠を活用した情報発信。最終的な誘導先を「ここ」のＷＥＢサイトとする。 ※令和６年能登半島地震の影響によりTV番組での拡散予定を交通広告へ変更	若年層（無関心層）	交通広告（動画放映）	令和6年3月11日～17日 都営地下鉄線（浅草線、三田線、新宿線、大江戸線） 令和6年3月11日～24日 ゆりかもめ	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える

事業効果検証

No	事業名	当初想定・目標	アウトプット		アウトカム		
			指標	結果	内容	測定方法	主な測定結果
1	anan FESトークイベント「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」	SNS LIVE参加数 10,000人	視聴回数 ※当初使用予定だったSNSの使用変更を受け、アウトプットを視聴回数に変更	視聴回数 22,733回 ※3/7現在	アーカイブ動画に対する印象	動画への高評価数	動画への高評価数673件 オンライン及びアーカイブでの動画配信となるため、視聴回数と高評価数で測定。イベント属性上、無関心層への情報発信をし、介護のしごとの魅力を訴求した。
2	展示会「ケアするしごと展」	来場者数 4,000名	会場への 来場者数	来場者数 渋谷：1,602名 下北沢：11,180名	イベント参加者の介護の仕事に対する印象の変容	イベント参加者アンケート （n=158）	・展示会の接触前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。接触後は接触前に比べて、中央値が1.32上昇した。
3	anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」	・anan発行部数(2023年10月発売号) 134,519部 ・anan web PV合計数 ４万５千PV	anan発行部数(2023年10月11日発売号)	発行部数 134,519部	ananの介護の仕事に関する特集記事が広く認知されること	介護従事者からの声	・介護従事者から、介護のしごとに関する特集記事がananに掲載されたことに対する反響の声を多数取得。
			anan web PV合計数	PV55,610 UU46,353			
4	POPEYE特集「福祉ってこういうことだったんだ。」	・POPEYE発行部数(2023年10月７日発売号)86,333部 ・POPEYE web PV合計数 ４万５千PV	POPEYE発行部数 (2023年10月７日発売号)	発行部数 86,333部	POPEYEの介護の仕事に関する特集記事が広く認知されること	介護従事者からの声	・介護従事者から、介護のしごとに関する特集記事がPOPEYEに掲載されたことに対する反響の声を多数取得。
			POPEYE web PV合計数	PV21,594 UU18,358			
5	anan×POPEYE オリジナル冊子作成 ※No.3,4の特集を合本としたもの	・渋谷ストリームでの冊子配布数1,000部 ・全国書店での冊子配布数10,000部	渋谷ストリームでの冊子配布数	1,000部	anan/POPEYE特集記事の合本が広く配布されること	会場配布数	・介護の日に合わせたイベント会場にて合本1,000部を配布。
			全国書店での冊子配布数	10,000部		配布書店数	・本取組みに対して31書店での合本配布を実現。 ※なお、No.3,4の「主な測定結果」も本項に含まれる。
6	ここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界を訪ねて～」	・こここWeb15記事 120,000PV～150,000PV	こここweb PV合計数	PV143,923	こここの連載記事が広く認知されること	こここweb PV合計数	PV143,923
7	ここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」	・対面参加者数50～100人 ・オンライン参加者数 500～1,000人 全５回開催	対面参加者数	71名	イベント参加者の介護の仕事に対する印象の変容	イベント参加者アンケート （n=48）	イベント参加前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。参加後は参加前に比べて、中央値が2.73上昇した。
			オンライン参加者数	168名			
8	交通広告	当初想定なし	動画放映表示回数	都営新宿線20,003,657回 都営浅草線16,922,880回 都営大江戸線6,848,876回 都営三田線6,510,288回 ゆりかもめ5,478,402回 総再生回数55,764,103回	動画視聴者に対する介護の仕事の認知拡大	Webアンケート（n=1,187）	動画への興味関心度は31.3％ 動画関心層のうち、『こここ』で詳細記事を読みたい人は43.7％

総括

本年度よりスタートした、マガジンハウス「介護のしごと魅力発信事業」（情報発信事業）は、第１の軸として20代から30代の若年層に支持される雑誌メディア「anan」「POPEYE」を通じて、介護職無（未）関心層への興味喚起を、本誌での８ページ特集、雑誌ウェブ記事を展開。幅広い層へアプローチを行いました。

また、興味喚起のアクションとしては、渋谷から発信するananFESでのトークステージ、連動イベントとしてのanan×POPEYE×ここここ連携の「ケアするしごと展」（会場：渋谷スクランブルスクエアから後日、下北沢BONUS TRACKへ巡回）、anan、POPEYEの特集を冊子化して、イベント及び全国書店１万部配布等、立体的に興味喚起施策を実施しました。

第２の軸として、興味喚起から理解促進への双方を担う広報活動も展開しました。福祉をテーマにしたメディアここここでは、介護のしごとのリアルな姿、そこにある科学的、医学的、人間的アプローチのやりがい、クリエイティビティ、楽しさを伝える「“自分らしく生きる”を支えるしごと」連載を開始。今年度15記事を配信しました。こここ連載では、介護のしごと無関心層への興味喚起に加え、興味を持った方への理解促進の役割を担い、今後もアーカイブしていきます。

興味喚起フェーズから理解促進フェーズ、さらには、具体的アクション（求職リサーチ、条件等リサーチ）へと、態度変容を促しながら、それに応える取り組みとして、「ケアするしごとバー」全５回を開催。リアルイベントとして、会場でのトークと質疑を行い、同時に、オンライン配信での視聴も行いました。

メディアでの記事発信、SNSでの拡散、イベントの告知記事やレポート記事、メディア取材の誘致、交通広告、事業関連系等、多角的立体的に広報活動を展開し、事業計画で想定した目標値を全体としては上回る成果を上げることができました。

一方で課題としては、

・無関心層へのメディアを通してのアプローチに関して、介護のしごとに対する印象変化、態度変容の把握

・興味喚起→理解促進→情報リサーチという意識変化に対しての広報活動の設計の緻密化

が挙げられます。

今年度も、雑誌・メディアの特性を生かし、リアルイベント等でのアンケート、交通広告でのアンケート等で情報接触者の変化に応じた広報活動、意識変化の計測を行ってきましたが、今後これをさらに精密に行う手法を開発したいと考えております。

今年度、20-30代無関心層に向けた広報を中心にすえて来ましたが、今後は、さらに教育の途上で介護のしごとに関心を高めるためのアプローチとして、子ども世代やその親、教育者へのアプローチの必要性も感じております。こちらも今後の取り組みの方向性として、検討してまいります。

私たちマガジンハウスはメディア運営のスキル、クリエイターや著名人との関係を通じて、これまでも現在も、多くの読者と出会い、共感を軸につながり、一定の影響力を持つチームです。私たちが、福祉・介護の現場で優れた実践を行っている事業者や専門家と連携しながら、福祉・介護にこれまで出会っていなかった層も含めて、多くの方と発信を通して出会い、つながり、福祉・介護のしごとへの理解や従事への第一歩をつくる事業を展開したいと考えます。

最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。
どうぞ、宜しくお願いいたします。

株式会社 マガジンハウス

〒104-8003
東京都中央区銀座3-13-10
TEL：03-3545-7636

ご相談に関しましては、お気軽に担当までご連絡ください。
資料内のすべてのコンテンツの無断転載・無断使用はご遠慮ください。